

第 20 回
文京区政に関する世論調査

平成 18 年 12 月

文 京 区

はじめに

文京区では、平成13年7月に策定した、『「文の京」の明日を創る』基本構想の実現を目指し、着実に施策を展開しております。

「文の京」の明日は、区民の皆様の参画と協働により築き上げていくものであり、この地を住みやすいまちとして維持・発展させていくためには、区政に対する区民ニーズを把握することが重要であります。

このため、区では、区政を話し合う集い、広聴はがき、区民の声（ホームページ）など各種の広聴活動を行い、区民の皆様のご意見、ご要望の把握に努めております。

今回、この広聴活動の一環として、第20回の世論調査を実施いたしました。今回の調査では、「定住意向」「区の施策と財政」「協働・協治」「安全・安心」「町会・自治会」「子育て支援」「消費者相談」「地域環境」「交通安全」「生涯学習」「情報化」「議会」「広報・広聴」の13項目について調査しました。

この調査結果につきましては、今後の区政運営の貴重な基礎資料として活用させていただきます。

おわりに、調査にご協力いただきました区民の皆様にご心からお礼申し上げます。

平成18年12月

文京区長 煙山 力

目 次

．調査の概要

1．調査の目的	3
2．調査の内容	3
3．調査の設計	3
4．調査方法	3
5．回収結果	3
6．地区区分	4
7．集計にあたって	4
8．分析にあたって	5
9．母集団との比較	5
10．回答者の特性	6

．調査結果の分析

1．定住意向

1 - 1 居住年数	11
1 - 2 定住・転出意向	12
1 - 3 住み続けたい理由	15
1 - 4 転出したいところ	18

2．区の施策と財政

2 - 1 満足に感じている区の施策	21
2 - 2 不満に感じている区の施策	24
2 - 3 さらに力を入れてほしい区の施策	27
2 - 4 区の財政状況に対する関心	29
2 - 5 区の財政状況に対する印象	33
2 - 6 区の財政状況についての広報をわかりやすくする方法	37
2 - 7 持続可能な財政体質をつくり上げるために取り組むべきこと	40

3．協働・協治

3 - 1 「文の京」自治基本条例の認知度	45
3 - 2 協働事業の認知度と参加経験	47
3 - 3 協働の事業に参加する形態	49
3 - 4 協働の事業で関心のあるテーマ	52

4．安全・安心

4 - 1 「文京区防災対策条例」の認知度	57
4 - 2 家庭における防災対策	59
4 - 3 「文の京安心メール」の認知度	62
4 - 4 地域の子どもたちとの関わり方	65

5 . 町会・自治会	
5 - 1 町会・自治会への加入状況	71
5 - 2 町会・自治会活動への参加意向	73
5 - 3 町会・自治会に期待すること	75
6 . 子育て支援	
6 - 1 少子化が進んでいる原因	79
6 - 2 子育て支援のために取り組むべき施策	82
6 - 3 子育て支援サービスの認知度・利用経験・利用意向	85
7 . 消費者相談	
7 - 1 消費者被害が増加傾向にあることについての認知度	93
7 - 2 消費者相談コーナーの認知度	95
8 . 地域環境	
8 - 1 地域生活での環境について関心のあるテーマ	99
8 - 2 ごみ減量のために重点的に行うべき施策	101
9 . 交通安全	
9 - 1 高齢者の交通事故を防止するための対策	105
9 - 2 自転車の利用者に対する問題意識	107
10 . 生涯学習	
10 - 1 大学との相互協力協定に期待すること	111
10 - 2 参加したい区民大学講座	113
10 - 3 インターネット配信による区民大学講座の利用意向	115
11 . 情報化	
11 - 1 インターネットによる電子申請・商取引等の利用状況	119
11 - 2 区の電子化サービスで期待すること	122
12 . 議会	
12 - 1 区議会の活動の認知媒体	127
12 - 2 区議会の役割として期待すること	129
12 - 3 区議会のホームページで関心のある内容	131
13 . 広報・広聴	
13 - 1 区役所本庁の窓口の利用状況	135
13 - 2 区役所本庁の窓口での職員対応の印象	137
13 - 3 職員の接遇向上のために大切なこと	139
. 使用した調査票	143

. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、区民の区政に対する意識や意向、意見や要望等を統計的手法によつて的確に把握することを目的として行った。

2. 調査の内容

第20回文京区政に関する世論調査は、「区政全般」をテーマとし、次の13項目について調査した。

- | | | |
|-------------|-----------|------------|
| (1) 定住意向 | (6) 子育て支援 | (11) 情報化 |
| (2) 区の施策と財政 | (7) 消費者相談 | (12) 議会 |
| (3) 協働・協治 | (8) 地域環境 | (13) 広報・広聴 |
| (4) 安全・安心 | (9) 交通安全 | |
| (5) 町会・自治会 | (10) 生涯学習 | |

3. 調査の設計

- (1) 調査地域 文京区全域
- (2) 調査対象 文京区在住の満20歳以上の個人
- (3) 標本数 1,300 サンプル
- (4) 調査対象者の抽出
- 母集団…文京区住民基本台帳(区の電算機により個人まで抽出)
- 地点数…130地点(1地点10票)
- 抽出方法…層化2段無作為抽出法(層化 地点抽出 対象者抽出)
- 層化…次のページの5地区に層化
- 地点数配分…1地点が10票となるように、各地区の調査対象者に応じて地点数を比例配分した(合計130地点)
- 地点抽出…各地区ごとの地点数に応じてインターバルを定め、等サイズブロック抽出法にしたがい、無作為系統的に各地点の抽出スタート点を決めて地点を抽出した。
- 対象者抽出…抽出された各地点のスタート点より、1地点10票ずつのサンプルを無作為系統的に抽出した。
- (5) 調査期間 平成18年8月25日～9月10日
- (6) 調査機関 株式会社エスピー研

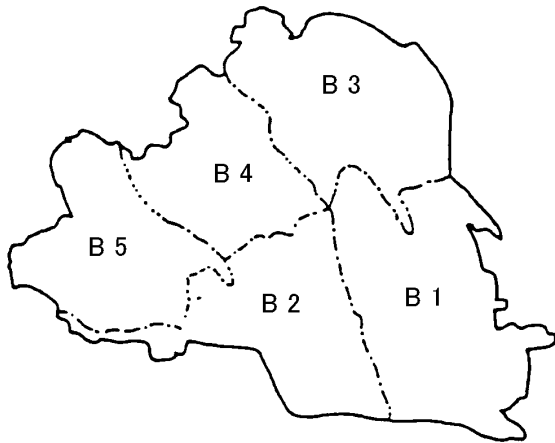
4. 調査方法

- (1) 調査方法 郵送留置配布・調査員による訪問回収
- (2) 調査票 巻末に折り込んだ調査票を使用した。

5. 回収結果

	満20歳以上人口(構成比)	地点数	標本数	有効回収数	有効回収率
区全体	156,817 (100.0%)	130	1,300	996	76.6%
B1地区	37,471 (23.9%)	31	310	221	71.3%
B2地区	29,297 (18.7%)	25	250	208	83.2%
B3地区	40,533 (25.9%)	33	330	257	77.9%
B4地区	26,268 (16.8%)	22	220	167	75.9%
B5地区	23,248 (14.8%)	19	190	143	75.3%

6. 地区区分



地区	該当町(丁目)名
B 1	根津、弥生、本郷、湯島、西片、白山(一丁目)、向丘(一丁目)
B 2	後楽、春日、水道、小石川(一、二、三、四丁目)、関口(一丁目)、小日向(一丁目)、白山(二丁目)
B 3	千駄木、本駒込、向丘(二丁目)、白山(五丁目)
B 4	千石、白山(三、四丁目)、大塚(三、四丁目)、小石川(五丁目)
B 5	音羽、目白台、大塚(一、二、五、六丁目)、関口(二、三丁目)、小日向(二、三、四丁目)

7. 集計にあたって

- (1) 集計は小数第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても100%ちょうどにならず、1%の範囲で増減することがある。
- (2) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間のクロス集計の3種類を行った。
- (4) 標本誤差(b)は次式で得られ、比率算出の基数(n)、回答の比率(P)によって誤差幅が異なる。

$$b = 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

{

N = 母集団数

n = 回答者数

P = 回答の比率

今回の調査結果の場合、誤差および信頼の範囲は下表のとおりであり、「ある設問の回答者数が996人で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は、最高でも4.4%である」というようにみる。

回答の比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
996	±2.7%	±3.6%	±4.1%	±4.4%	±4.5%
800	±3.0%	±4.0%	±4.6%	±4.9%	±5.0%
600	±3.5%	±4.6%	±5.3%	±5.7%	±5.8%
400	±4.2%	±5.7%	±6.5%	±6.9%	±7.1%
200	±6.0%	±8.0%	±9.2%	±9.8%	±10.0%
100	±8.5%	±11.3%	±13.0%	±13.9%	±14.1%

注) $\frac{N-n}{N-1}$ 1 として計算した。

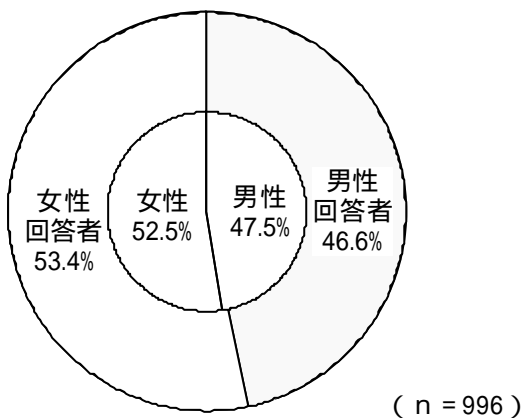
8. 分析にあたって

- (1) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (2) クロス結果の帯グラフや表について、表側（分析の軸）となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、表側のカテゴリーの件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。
- (3) 複数回答の設問におけるクロス結果の棒グラフは、上位 10 項目に限定している場合があり、その際、「その他」は対象から除き表示していない。
- (4) ライフステージの分類は以下のとおりである。
 - A. 独身期 40歳未満の独身者
 - B. 家族形成期 40歳未満の子どもがいない夫婦、または一番上の子どもが入学前の人
 - C. 家族成長前期 一番上の子どもが小・中学生の人
 - D. 家族成長後期 一番上の子どもが高校・大学生の人
 - E. 家族成熟期 64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
 - F. 老齢期 65歳以上の人
 - G. その他 40歳～64歳の独身者、40歳～64歳の子どもがいない夫婦など

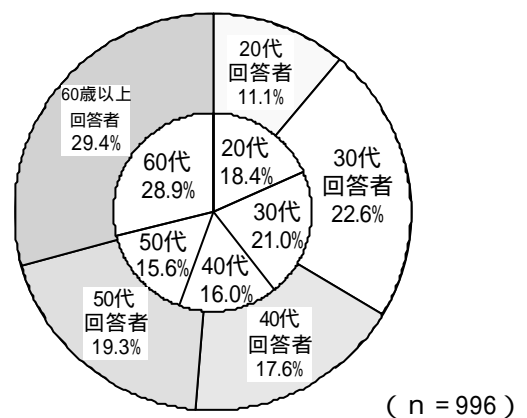
9. 母集団との比較

母集団（文京区住民基本台帳上の満 20 歳以上の人）と比べた調査回答者の男女構成は、ほぼ同じ傾向となった。また、調査回答者の年代構成をみると、20代が少なく、50代が多い結果となった。

(1) 性別構成



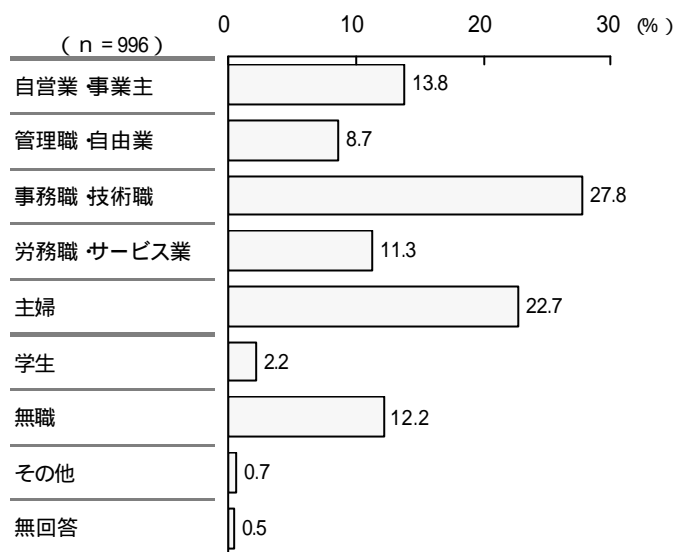
(2) 年代構成



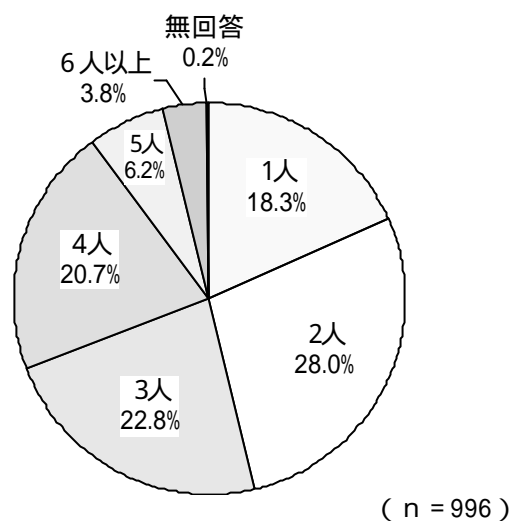
(注) 内円は母集団、外円は調査回答者の構成比を示している。

10. 回答者の特性

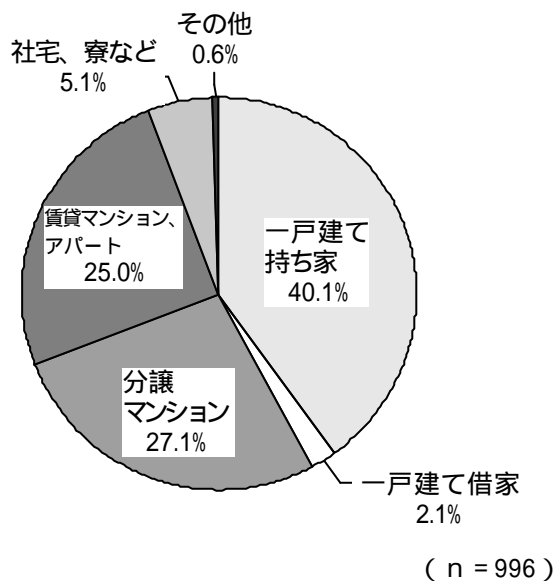
(1) 職業



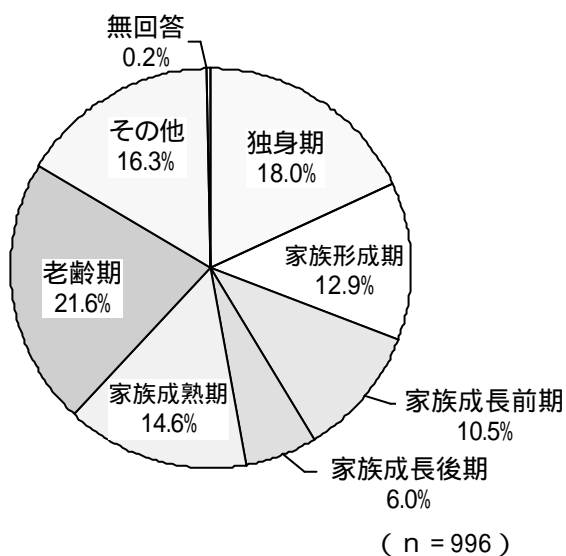
(2) 家族人数



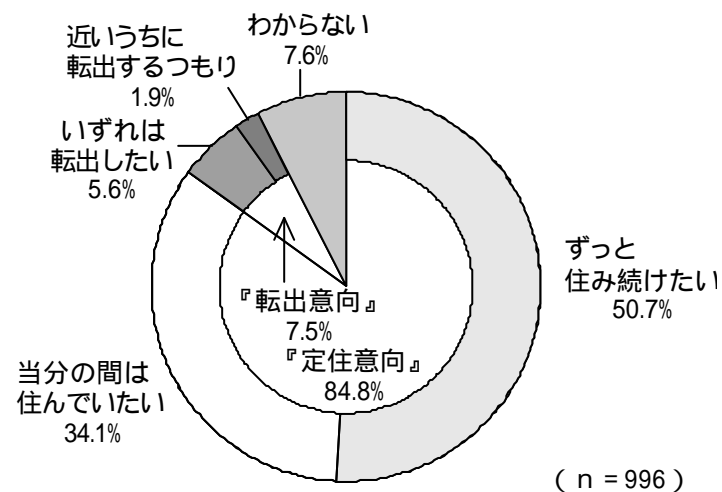
(3) 住居形態



(4) ライフステージ



(5) 定住意向



. 調査結果の分析

1 . 定 住 意 向

-
- 1 - 1 居住年数
 - 1 - 2 定住・転出意向
 - 1 - 3 住み続けたい理由
 - 1 - 4 転出したいところ
-

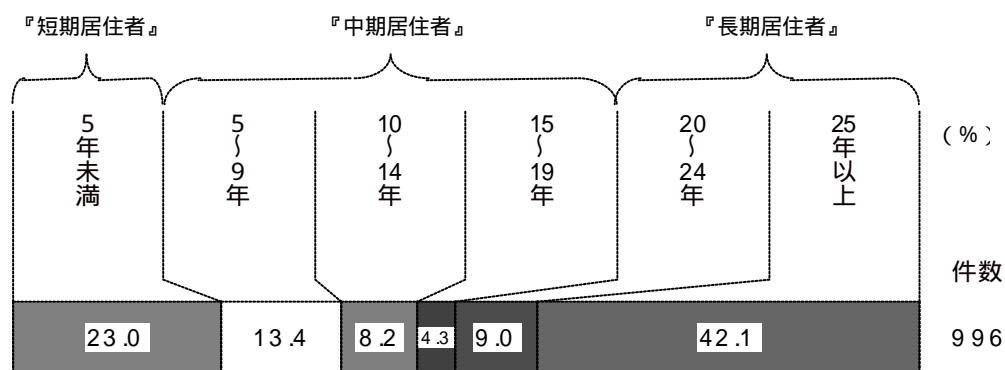
1. 定住意向

1-1 居住年数

問1 あなたは、文京区にお住まいになって何年になりますか。(は1つ)						(n = 996)
1. 5年未満	23.0%	3. 10~14年	8.2%	5. 20~24年	9.0%	
2. 5~9年	13.4%	4. 15~19年	4.3%	6. 25年以上	42.1%	

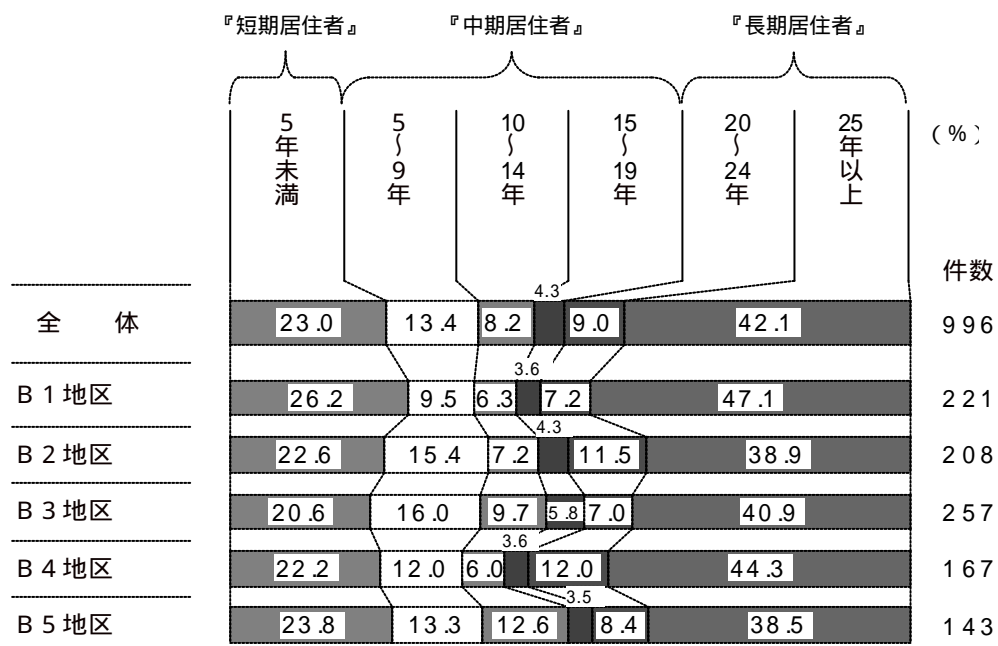
居住年数を聞いたところ、「5年未満」の『短期居住者』(23.0%)が2割を超え、「5~9年」(13.4%)、「10~14年」(8.2%)、「15~19年」(4.3%)を合わせた『中期居住者』(25.9%)が2割半ば、「20~24年」(9.0%)と「25年以上」(42.1%)を合わせた『長期居住者』(51.1%)が5割を超えている。(図1-1-1)

図1-1-1 居住年数



地区別にみると、『中期居住者』はB3地区で3割を超え、『長期居住者』はB4地区で5割半ばと他の地域よりやや多くなっている。(図1-1-2)

図1-1-2 居住年数 - 地区別



1 - 2 定住・転出意向

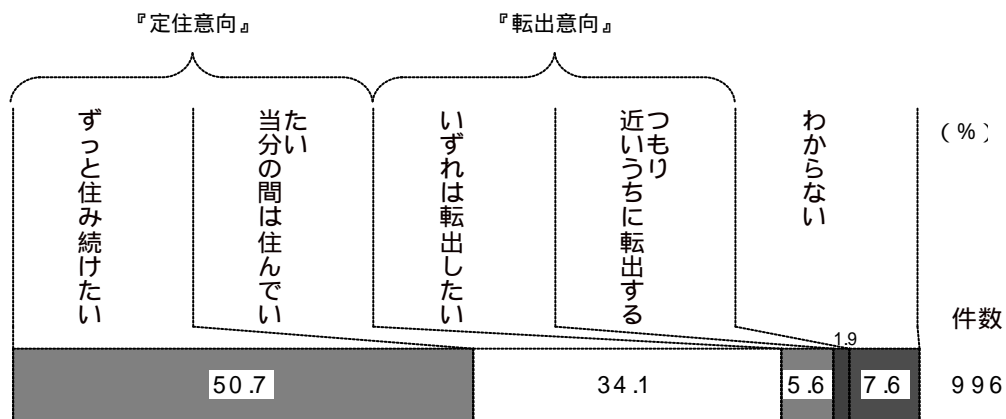
問2 あなたは、これからも文京区に住み続けたいと思いますか。(は1つ)

(n = 996)

1. ずっと住み続けたい	50.7%	4. 近いうちに転出するつもり	1.9%
2. 当分の間は住んでいたい	34.1%	5. わからない	7.6%
3. いずれは転出したい	5.6%		

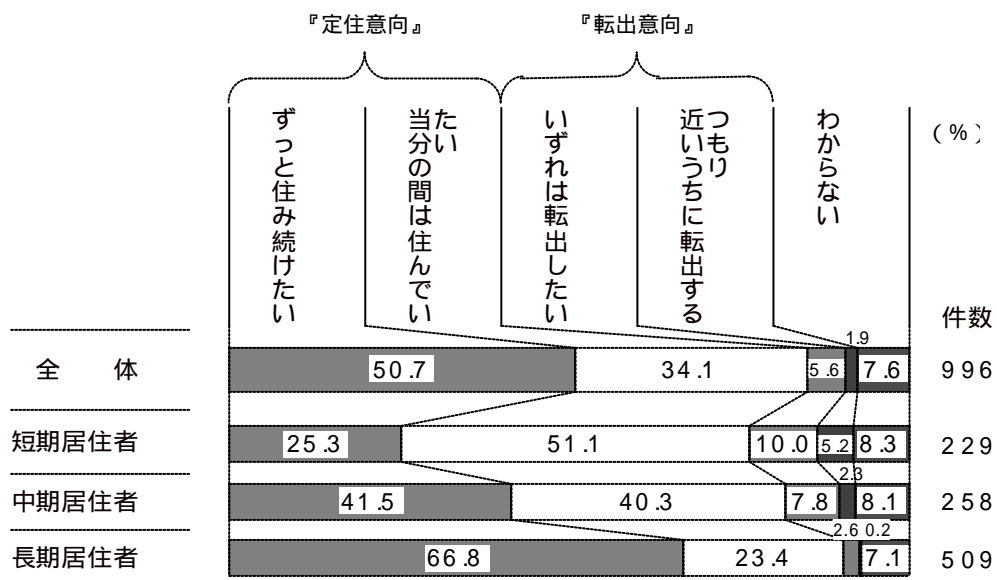
定住意向を聞いたところ、これからも引き続き文京区に「ずっと住み続けたい」(50.7%)がほぼ5割と最も多く、これに「当分の間は住んでいたい」(34.1%)を合わせた『定住意向』(84.8%)は8割半ばとなっている。一方、「いずれは転出したい」(5.6%)と「近いうちに転出するつもり」(1.9%)を合わせた『転出意向』(7.5%)は1割に満たない。(図1-2-1)

図1-2-1 定住・転出意向



居住年数別にみると、『定住意向』は居住年数が長いほど割合が高い傾向にあり、長期居住者で9割を占めている。(図1-2-2)

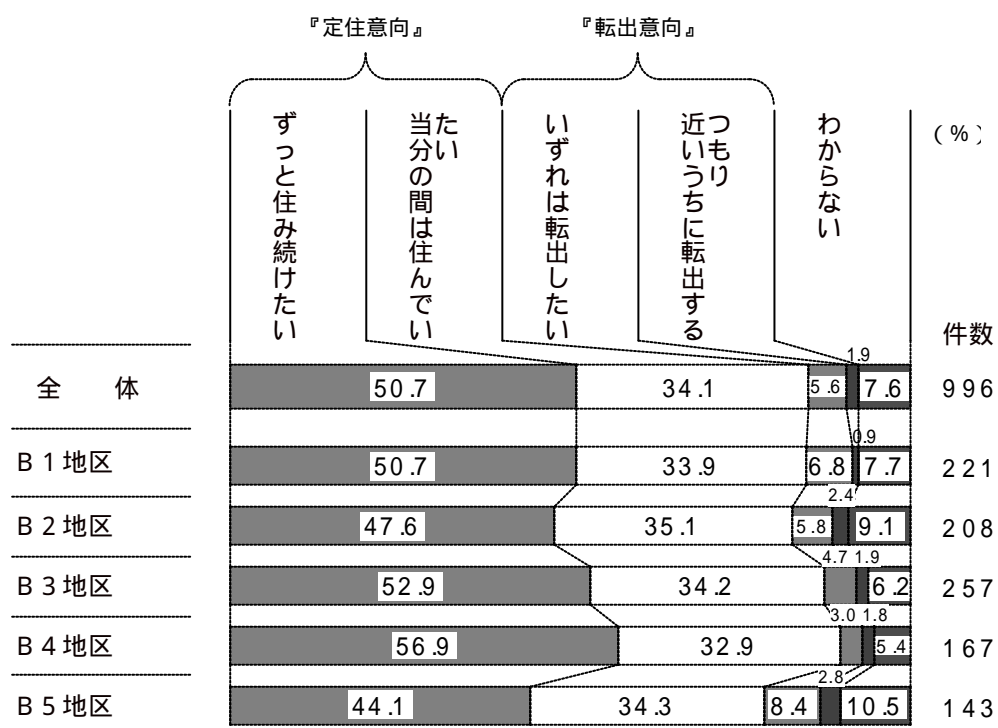
図1-2-2 定住・転出意向 - 居住年数別【3分類】



地区別にみると、「ずっと住みたい」はB4地区で6割近くと多くなっている。

(図1-2-3)

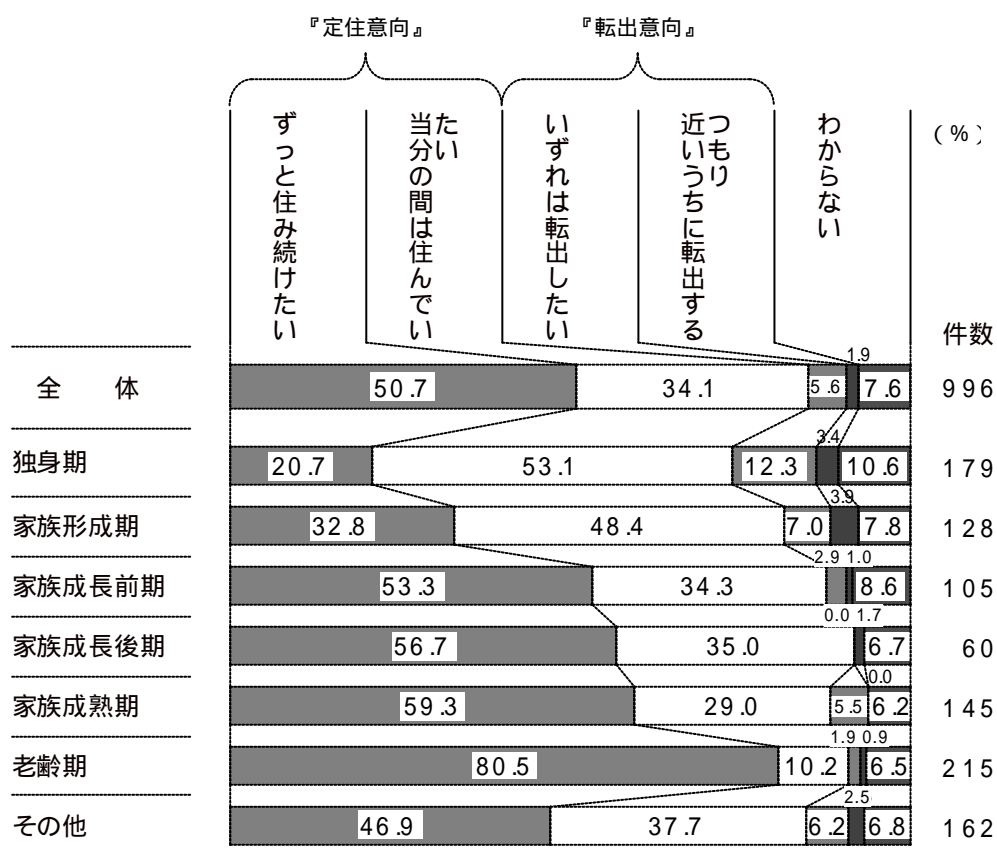
図1-2-3 定住・転出意向 - 地区別



ライフステージ別にみると、『定住意向』は家族成長後期と老齢期で9割以上を占めている。

(図1 - 2 - 4)

図1 - 2 - 4 定住・転出意向 - ライフステージ別



1 - 3 住み続けたい理由

(問2で「1. ずっと住み続けたい」または「2. 当分の間は住んでいたい」とお答えの方
にうかがいます)

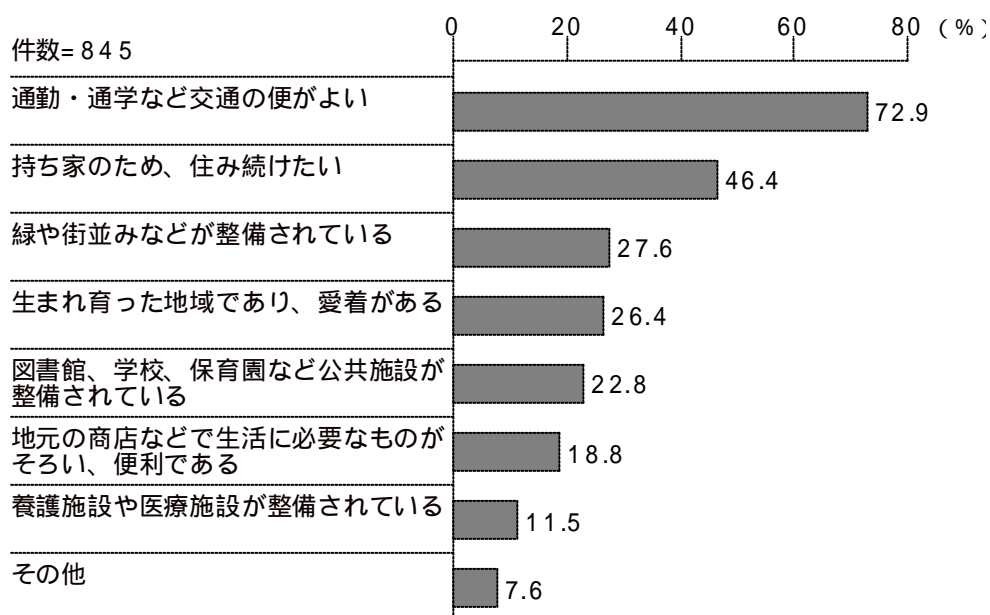
問2 - 1 住み続けたいと思う理由を3つ以内でお選びください。

	(n = 845)
1. 通勤・通学など交通の便がよい	72.9%
2. 緑や街並みなどが整備されている	27.6%
3. 図書館、学校、保育園など公共施設が整備されている	22.8%
4. 養護施設や医療施設が整備されている	11.5%
5. 地元の商店などで生活に必要なものがそろい、便利である	18.8%
6. 生まれ育った地域であり、愛着がある	26.4%
7. 持ち家のため、住み続けたい	46.4%
8. その他	7.6%

これからも文京区に「ずっと住み続けたい」および「当分の間は住んでいたい」と答えた人(845人)に、住み続けたい理由を聞いたところ、「通勤・通学など交通の便がよい」(72.9%)が7割を超え最も多く、次いで「持ち家のため、住み続けたい」(46.4%)、「緑や街並みなどが整備されている」(27.6%)、「生まれ育った地域であり、愛着がある」(26.4%)などの順となっている。

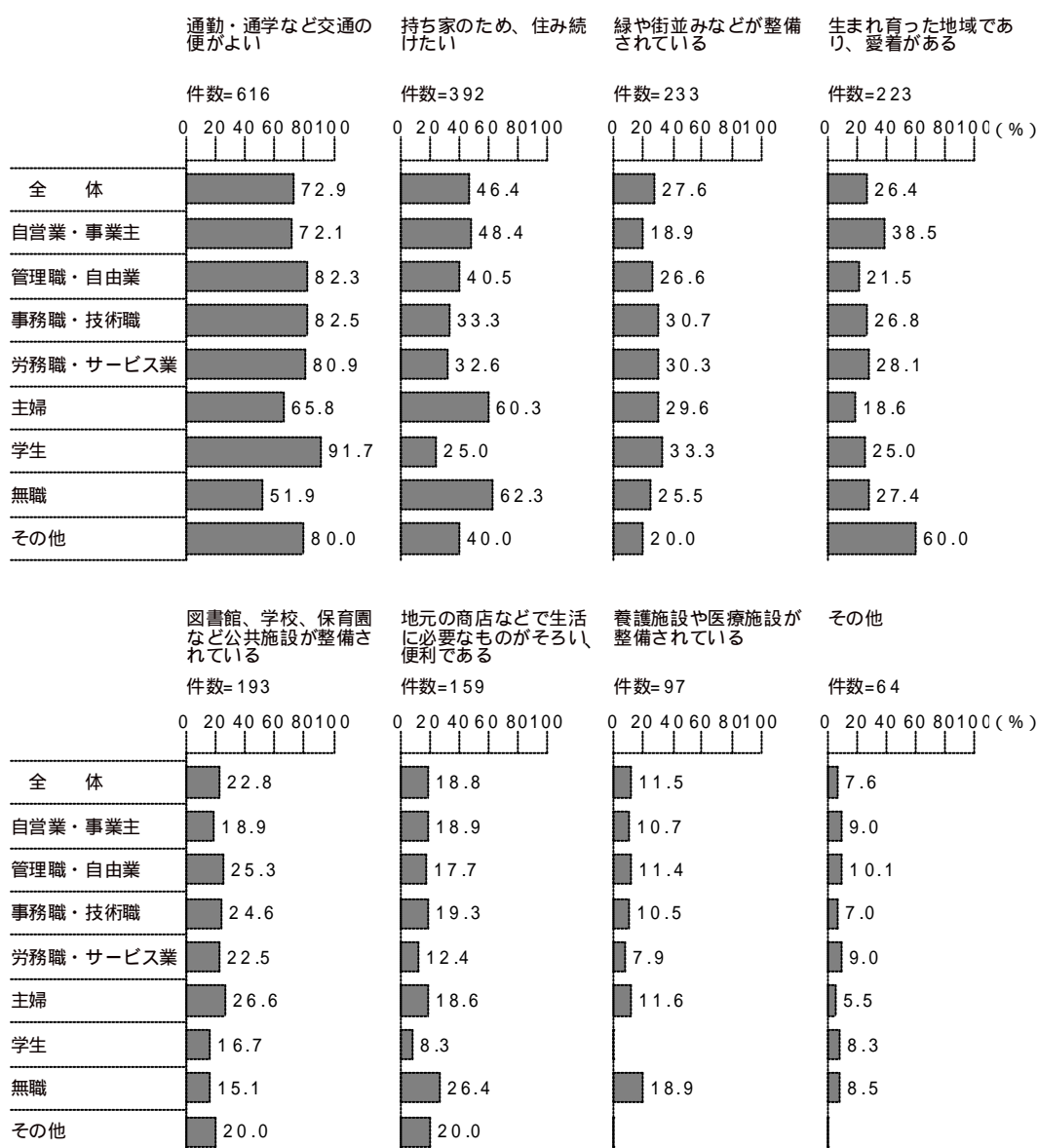
(図1 - 3 - 1)

図1 - 3 - 1 住み続けたい理由



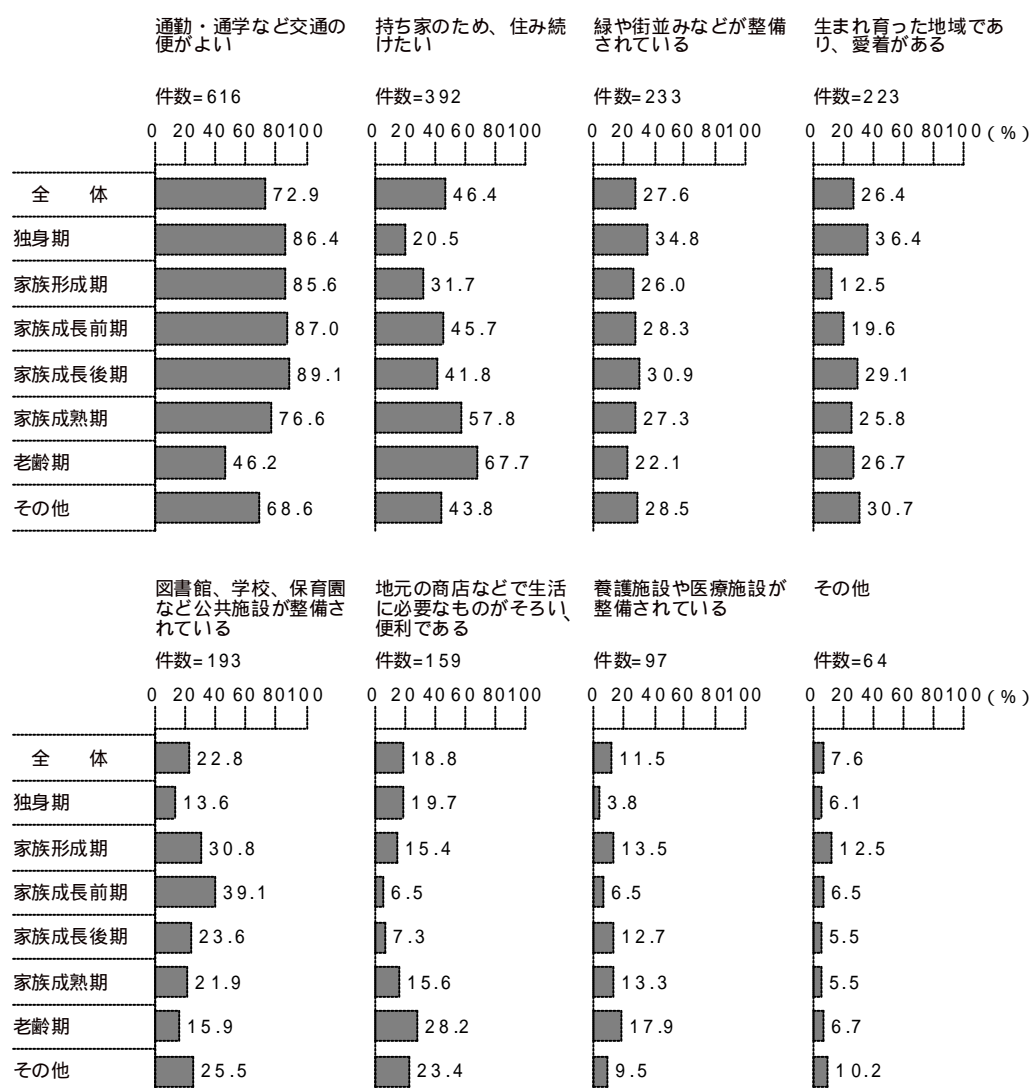
職業別にみると、「通勤・通学など交通の便がよい」は管理職・自由業、事務職・技術職、労務職・サービス業、学生で8割以上を占め、「持ち家のため、住み続けたい」は主婦と無職で6割以上を占めている。「生まれ育った地域であり、愛着がある」は自営業・事業主で4割近く、「地元の商店などで生活に必要なものがそろい、便利である」は無職で2割半ばと多くなっている。(図1-3-2)

図1-3-2 住み続けたい理由 - 職業別



ライフステージ別にみると、「通勤・通学など交通の便がよい」は独身期、家族形成期、家族成長前期、家族成長後期で8割以上を占め、「持ち家のため、住み続けたい」は家族成熟期と老齢期で5割以上を占めている。「生まれ育った地域であり、愛着がある」は独身期で3割半ば、「図書館、学校、保育園など公共施設が整備されている」は家族成長前期でほぼ4割、「地元の商店などで生活に必要なものがそろい、便利である」は老齢期で3割近くと多くなっている。(図1-3-3)

図1-3-3 住み続けたい理由 - ライフステージ別



1 - 4 転出したいところ

(問2で「3. いずれは転出したい」または「4. 近いうちに転出するつもり」とお答えの方にかがいます)

問2 - 2 どういうところに転出したいと思いますか。2つ以内でお選びください。

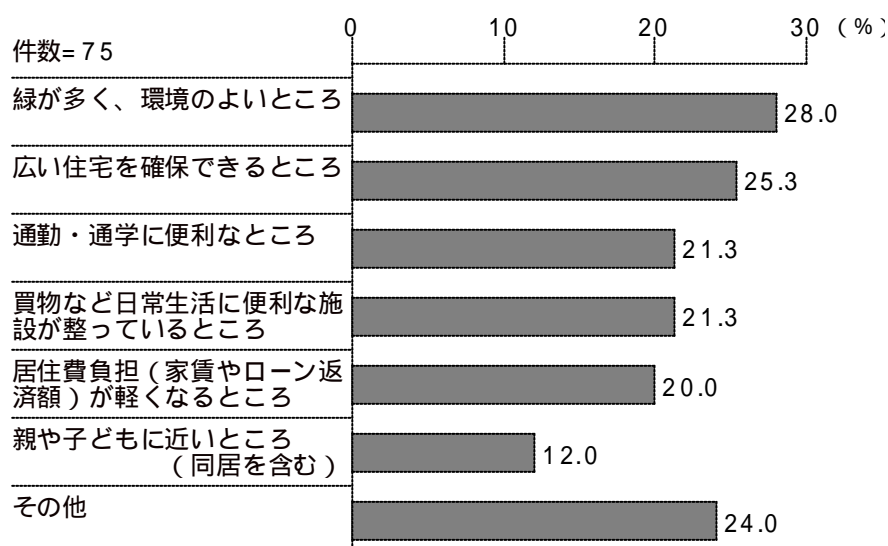
(n = 75)

1. 通勤・通学に便利なところ	21.3%
2. 居住費負担(家賃やローン返済額)が軽くなる場所	20.0%
3. 広い住宅を確保できる場所	25.3%
4. 緑が多く、環境のよい場所	28.0%
5. 買物など日常生活に便利な施設が整っている場所	21.3%
6. 親や子どもに近い場所(同居を含む)	12.0%
7. その他	24.0%

文京区から「いずれは転出したい」および「近いうちに転出するつもり」と答えた人(75人)に、どういったところに転出したいか聞いたところ、「緑が多く、環境のよい場所」(28.0%)が3割近くと最も多く、次いで「広い住宅を確保できる場所」(25.3%)、「通勤・通学に便利な場所」と「買物など日常生活に便利な施設が整っている場所」(ともに21.3%)などの順となっている。

(図1 - 4 - 1)

図1 - 4 - 1 転出したいところ



2 . 区 の 施 策 と 財 政

-
- 2 - 1 満足に感じている区の施策
 - 2 - 2 不満に感じている区の施策
 - 2 - 3 さらに力を入れてほしい区の施策
 - 2 - 4 区の財政状況に対する関心
 - 2 - 5 区の財政状況に対する印象
 - 2 - 6 区の財政状況についての広報をわかりやすくする方法
 - 2 - 7 持続可能な財政体質をつくり上げるために取り組むべきこと
-

2. 区の施策と財政

2 - 1 満足に感じている区の施策

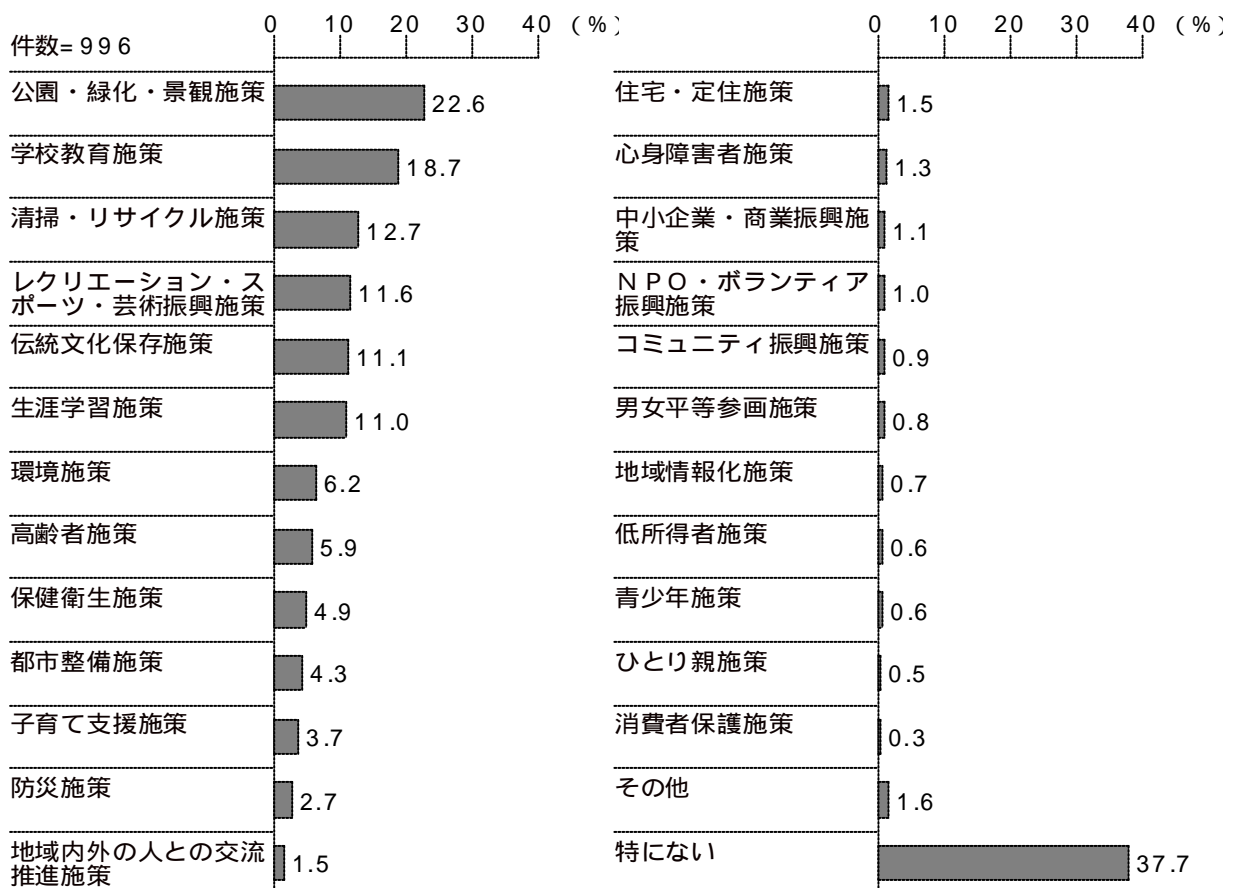
問3 次の区の施策のうち、あなたが満足に感じているものを、3つ以内でお選びください。

(n = 996)

1. 学校教育施策	18.7%	14. 都市整備施策	4.3%
2. 生涯学習施策	11.0%	15. 清掃・リサイクル施策	12.7%
3. レクリエーション・スポーツ・ 芸術振興施策	11.6%	16. 環境施策	6.2%
4. 伝統文化保存施策	11.1%	17. 住宅・定住施策	1.5%
5. 地域内外の人との交流推進施策	1.5%	18. 公園・緑化・景観施策	22.6%
6. 保健衛生施策	4.9%	19. 防災施策	2.7%
7. 子育て支援施策	3.7%	20. コミュニティ振興施策	0.9%
8. 高齢者施策	5.9%	21. NPO・ボランティア振興施策	1.0%
9. 心身障害者施策	1.3%	22. 中小企業・商業振興施策	1.1%
10. ひとり親施策	0.5%	23. 消費者保護施策	0.3%
11. 低所得者施策	0.6%	24. 地域情報化施策	0.7%
12. 青少年施策	0.6%	25. その他	1.6%
13. 男女平等参画施策	0.8%	26. 特にない	37.7%

満足に感じている区の施策について聞いたところ、「公園・緑化・景観施策」(22.6%)が2割を超え最も多く、次いで「学校教育施策」(18.7%)、「清掃・リサイクル施策」(12.7%)などの順となっている。また、「特にない」(37.7%)が4割近くとなっている。(図2-1-1)

図2-1-1 満足に感じている区の施策



性・年代別に上位5位でみると、「公園・緑化・景観施策」と「学校教育施策」のいずれかが第1位に挙げられている。男性の20代から40代の年代では「学校教育施策」が1位に挙げられており、特に男性20代では3割半ばと多い。女性40代では「学校教育施策」と「公園・緑化・景観施策」が同率1位になっている。その他の年代では「公園・緑化・景観施策」が第1位となっている。また、「生涯学習施策」は女性の50代以上の年代で2割近くと多くなっている。(表2-1-1)

表2-1-1 満足に感じている区の施策 - 性・年代別(上位5位)

		(%)				
	n	1位	2位	3位	4位	5位
全体	996	公園・緑化・景観施策 22.6	学校教育施策 18.7	清掃・リサイクル施策 12.7	レクリエーション・スポーツ・芸術振興施策 11.6	伝統文化保存施策 11.1
男性(計)	464	公園・緑化・景観施策 22.4	学校教育施策 19.8	清掃・リサイクル施策 12.5	レクリエーション・スポーツ・芸術振興施策 11.6	伝統文化保存施策 11.4
20代	46	学校教育施策 34.8	清掃・リサイクル施策 13.0	生涯学習施策 10.9	レクリエーション・スポーツ・芸術振興施策 8.7	伝統文化保存施策 / 公園・緑化・景観施策 6.5
30代	111	学校教育施策 21.6	公園・緑化・景観施策 20.7	子育て支援施策 9.9	伝統文化保存施策 8.1	清掃・リサイクル施策 7.2
40代	86	学校教育施策 19.8	レクリエーション・スポーツ・芸術振興施策 18.6	公園・緑化・景観施策 16.3	伝統文化保存施策 12.8	都市整備施策 / 清掃・リサイクル施策 / 環境施策 9.3
50代	93	公園・緑化・景観施策 31.2	学校教育施策 18.3	レクリエーション・スポーツ・芸術振興施策 14.0	伝統文化保存施策 / 清掃・リサイクル施策 11.8	
60歳以上	128	公園・緑化・景観施策 27.3	清掃・リサイクル施策 19.5	伝統文化保存施策 14.8	学校教育施策 14.1	生涯学習施策 13.3
女性(計)	532	公園・緑化・景観施策 22.7	学校教育施策 17.7	清掃・リサイクル施策 12.8	生涯学習施策 12.4	レクリエーション・スポーツ・芸術振興施策 11.7
20代	65	公園・緑化・景観施策 13.8	学校教育施策 / レクリエーション・スポーツ・芸術振興施策 12.3		清掃・リサイクル施策 9.2	環境施策 7.7
30代	114	公園・緑化・景観施策 21.9	学校教育施策 18.4	伝統文化保存施策 / 清掃・リサイクル施策 12.3		レクリエーション・スポーツ・芸術振興施策 11.4
40代	89	学校教育施策 / 公園・緑化・景観施策 22.5		レクリエーション・スポーツ・芸術振興施策 14.6	伝統文化保存施策 / 清掃・リサイクル施策 11.2	
50代	99	公園・緑化・景観施策 25.3	生涯学習施策 18.2	学校教育施策 16.2	レクリエーション・スポーツ・芸術振興施策 / 伝統文化保存施策 13.1	
60歳以上	165	公園・緑化・景観施策 25.5	学校教育施策 17.6	清掃・リサイクル施策 17.0	生涯学習施策 / 高齢者施策 16.4	

ライフステージ別に上位5位でみると、「公園・緑化・景観施策」と「学校教育施策」が老齢期を除き第2位までに挙げられており、「公園・緑化・景観施策」は家族形成期、家族成熟期、老齢期で第1位に、「学校教育施策」は独身期と家族成長前期で第1位になっており、家族成長後期では「公園・緑化・景観施策」と「学校教育施策」が同率で第1位に挙げられている。また、老齢期の第2位は「清掃・リサイクル施策」となっている。(表2-1-2)

表2-1-2 満足に感じている区の施策 - ライフステージ別 (上位5位)

(%)

	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体	996	公園・緑化・ 景観施策 22.6	学校教育施策 18.7	清 掃 ・ リサイクル施策 12.7	レクリエーション・ スポーツ・芸術振興 施 策 11.6	伝 統 文 化 保 存 施 策 11.1
独 身 期	179	学校教育施策 17.3	公園・緑化・ 景観施策 13.4	清 掃 ・ リサイクル施策 11.2	伝 統 文 化 保 存 施 策 10.1	レクリエーション・ スポーツ・芸術振興 施 策 9.5
家 族 形 成 期	128	公園・緑化・ 景観施策 22.7	学校教育施策 18.8	子育て支援施策 10.9	清 掃 ・ リサイクル施策 8.6	生涯学習施策 7.8
家 族 成 長 前 期	105	学校教育施策 28.6	公園・緑化・ 景観施策 20.0	レクリエーション・ スポーツ・芸術振興 施 策 12.4	伝統文化保存施策/ 清掃・リサイクル施策 9.5	
家 族 成 長 後 期	60	学校教育施策/ 公園・緑化・景観施策 23.3		レクリエーション・ スポーツ・芸術振興 施 策 20.0	伝 統 文 化 保 存 施 策 18.3	生涯学習施策 15.0
家 族 成 熟 期	145	公園・緑化・ 景観施策 29.0	学校教育施策 20.0	レクリエーション・ スポーツ・芸術振興 施 策 18.6	生涯学習施策 17.9	清 掃 ・ リサイクル施策 13.8
老 齢 期	215	公園・緑化・ 景観施策 26.0	清 掃 ・ リサイクル施策 21.4	高 齢 者 施 策 15.8	学 校 教 育 施 策 14.9	生涯学習施策/ 伝統文化保存施策 14.4
そ の 他	162	公園・緑化・ 景観施策 24.1	学校教育施策 16.0	レクリエーション・ スポーツ・芸術振興 施 策 13.0	生涯学習施策 9.9	伝統文化保存施策/ 清掃・リサイクル施 策 / 環 境 施 策 9.3

2 - 2 不満に感じている区の施策

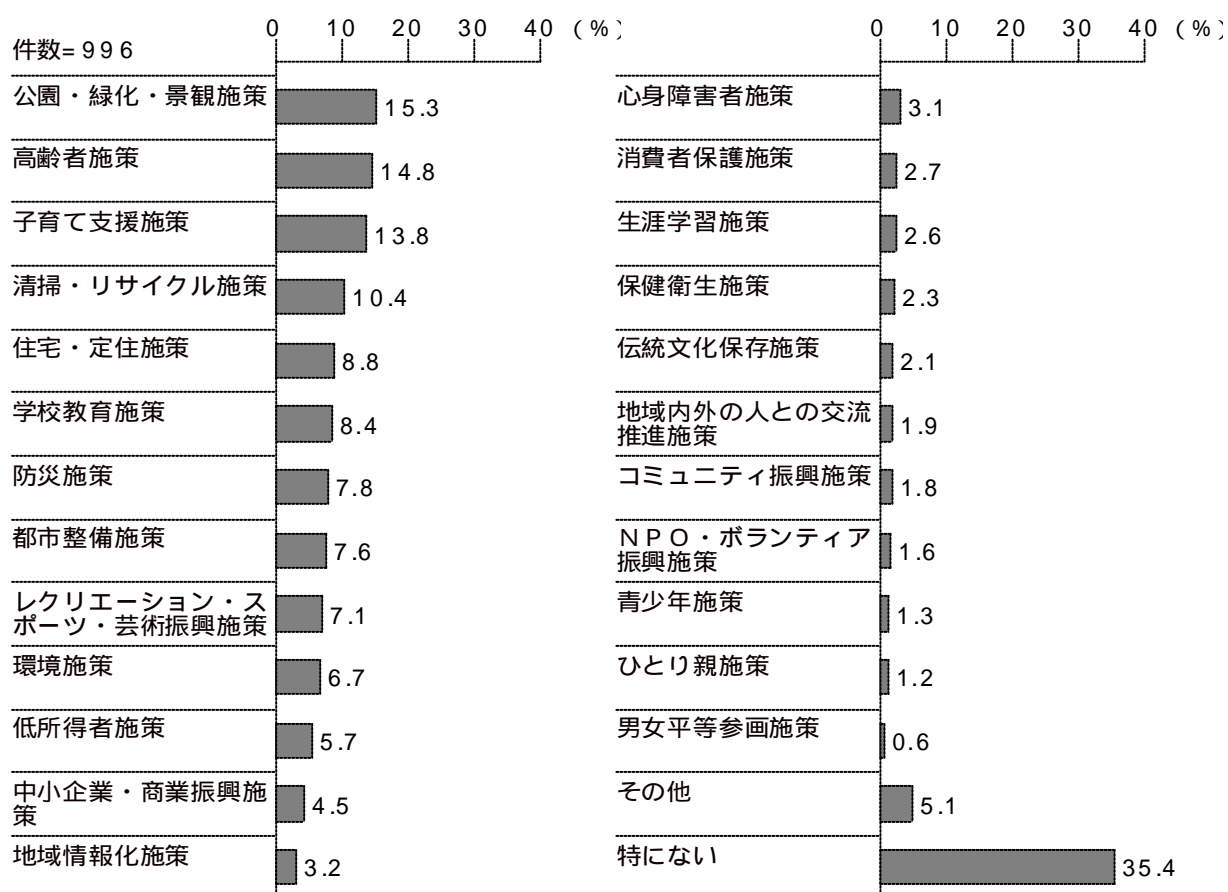
問4 次の区の施策のうち、あなたが不満に感じているものを、3つ以内でお選びください。

(n = 996)

1. 学校教育施策	8.4%	14. 都市整備施策	7.6%
2. 生涯学習施策	2.6%	15. 清掃・リサイクル施策	10.4%
3. レクリエーション・スポーツ・芸術振興施策	7.1%	16. 環境施策	6.7%
4. 伝統文化保存施策	2.1%	17. 住宅・定住施策	8.8%
5. 地域内外の人との交流推進施策	1.9%	18. 公園・緑化・景観施策	15.3%
6. 保健衛生施策	2.3%	19. 防災施策	7.8%
7. 子育て支援施策	13.8%	20. コミュニティ振興施策	1.8%
8. 高齢者施策	14.8%	21. NPO・ボランティア振興施策	1.6%
9. 心身障害者施策	3.1%	22. 中小企業・商業振興施策	4.5%
10. ひとり親施策	1.2%	23. 消費者保護施策	2.7%
11. 低所得者施策	5.7%	24. 地域情報化施策	3.2%
12. 青少年施策	1.3%	25. その他	5.1%
13. 男女平等参画施策	0.6%	26. 特にない	35.4%

不満に感じている区の施策について聞いたところ、「公園・緑化・景観施策」(15.3%)が1割半ばと最も多く、次いで「高齢者施策」(14.8%)、「子育て支援施策」(13.8%)などの順となっている。また、「特にない」(35.4%)が3割半ばとなっている。(図2-2-1)

図2-2-1 不満に感じている区の施策



性・年代別に上位5位でみると、第1位には「公園・緑化・景観施策」が男性の20代と50代、女性20代の年代で、「高齢者施策」が男性60歳以上と女性の50代以上の年代で、「子育て支援施策」が男女とも30代と40代の年代で第1位となっている。また、「公園・緑化・景観施策」は女性60歳以上を除いた年代で第3位までに挙げられている。(表2-2-1)

表2-2-1 不満に感じている区の施策 - 性・年代別(上位5位)

							(%)
	n	1位	2位	3位	4位	5位	
全体	996	公園・緑化・景観施策 15.3	高齢者施策 14.8	子育て支援施策 13.8	清掃・リサイクル施策 10.4	住宅・定住施策 8.8	
男性(計)	464	公園・緑化・景観施策 16.4	子育て支援施策 14.7	清掃・リサイクル施策 11.2	住宅・定住施策 10.8	高齢者施策 10.1	
20代	46	公園・緑化・景観施策 17.4	レクリエーション・スポーツ・芸術振興施策/都市整備施策 13.0		学校教育施策 10.9	清掃・リサイクル施策 8.7	
30代	111	子育て支援施策 29.7	学校教育施策 17.1	公園・緑化・景観施策 14.4	住宅・定住施策 12.6	清掃・リサイクル施策 11.7	
40代	86	子育て支援施策 20.9	公園・緑化・景観施策 16.3	学校教育施策/住宅・定住施策 14.0		清掃・リサイクル施策 11.6	
50代	93	公園・緑化・景観施策 19.4	高齢者施策 16.1	清掃・リサイクル施策 15.1	レクリエーション・スポーツ・芸術振興施策 11.8	住宅・定住施策 10.8	
60歳以上	128	高齢者施策 17.2	公園・緑化・景観施策 15.6	都市整備施策 13.3	環境施策/防災施策 10.2		
女性(計)	532	高齢者施策 18.8	公園・緑化・景観施策 14.3	子育て支援施策 13.0	清掃・リサイクル施策 9.8	防災施策 8.5	
20代	65	公園・緑化・景観施策 13.8	子育て支援施策 12.3	レクリエーション・スポーツ・芸術振興施策 10.8	高齢者施策 7.7	生涯学習施策/清掃・リサイクル施策/環境施策/防災施策 6.2	
30代	114	子育て支援施策 28.9	公園・緑化・景観施策 24.6	清掃・リサイクル施策/防災施策 11.4		学校教育施策 9.6	
40代	89	子育て支援施策 21.3	公園・緑化・景観施策 15.7	学校教育施策 14.6	環境施策/住宅・定住施策 10.1		
50代	99	高齢者施策 26.3	清掃・リサイクル施策/公園・緑化・景観施策 13.1		住宅・定住施策 9.1	都市整備施策 8.1	
60歳以上	165	高齢者施策 32.7	清掃・リサイクル施策/防災施策 9.7		低所得者施策/環境施策 8.5		

ライフステージ別に上位5位でみると、第1位には「公園・緑化・景観施策」が独身期と家族成長後期で、「高齢者施策」が家族成熟期と老齢期で第1位となっている。家族形成期と家族成長前期ではいずれも「子育て支援施策」が第1位に挙げられており、いずれも4割以上と他の年代に比べかなり多くなっている。この2つのライフステージでは「学校施策」が第2位と第3位に挙げられていることも特徴的である。また、「公園・緑化・景観施策」は全てのライフステージで第3位までに、「清掃・リサイクル施策」は家族成長前期を除き第5位までに挙げられている。(表2-2-2)

表2-2-2 不満に感じている区の施策 - ライフステージ別 (上位5位)

							(%)
	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	
全 体	996	公園・緑化・ 景観施策 15.3	高 齢 者 施 策 14.8	子 育 て 支 援 施 策 13.8	清 掃 ・ リサイクル施策 10.4	住 宅 ・ 定 住 施 策 8.8	
独 身 期	179	公園・緑化・ 景観施策 16.2	防 災 施 策 10.1	レクリエーション・ スポーツ・芸術振興 施 策 9.5	清 掃 ・ リサイクル施策 8.9	都 市 整 備 施 策 7.3	
家 族 形 成 期	128	子 育 て 支 援 施 策 40.6	公園・緑化・ 景観施策 23.4	学 校 教 育 施 策 13.3	清 掃 ・ リ サ イ ク ル 施 策 / 住 宅 ・ 定 住 施 策 12.5		
家 族 成 長 前 期	105	子 育 て 支 援 施 策 40.0	学 校 教 育 施 策 29.5	公園・緑化・ 景観施策 19.0	レクリエーション・スポーツ・ 芸術振興施策 / 住宅・定住施策 11.4		
家 族 成 長 後 期	60	公園・緑化・ 景観施策 18.3	清 掃 ・ リサイクル施策 16.7	住 宅 ・ 定 住 施 策 15.0	学 校 教 育 施 策 13.3	子 育 て 支 援 施 策 11.7	
家 族 成 熟 期	145	高 齢 者 施 策 22.8	公園・緑化・ 景観施策 13.1	都 市 整 備 施 策 9.7	清 掃 ・ リサイクル施策 9.0	住 宅 ・ 定 住 施 策 8.3	
老 齢 期	215	高 齢 者 施 策 24.2	防 災 施 策 12.6	公園・緑化・ 景観施策 10.7	清 掃 ・ リサイクル施策 10.2	環 境 施 策 9.8	
そ の 他	162	高 齢 者 施 策 21.6	低 所 得 者 施 策 13.0	公園・緑化・ 景観施策 11.7	住 宅 ・ 定 住 施 策 11.1	清 掃 ・ リサイクル施策 9.9	

2 - 3 さらに力を入れてほしい区の施策

問5 次の区の施策のうち、あなたがさらに力を入れるべきだと考えるものを、順位をつけて、3つ以内で選び、下の記入欄に番号をご記入ください。

1位

2位

3位

(n = 996)

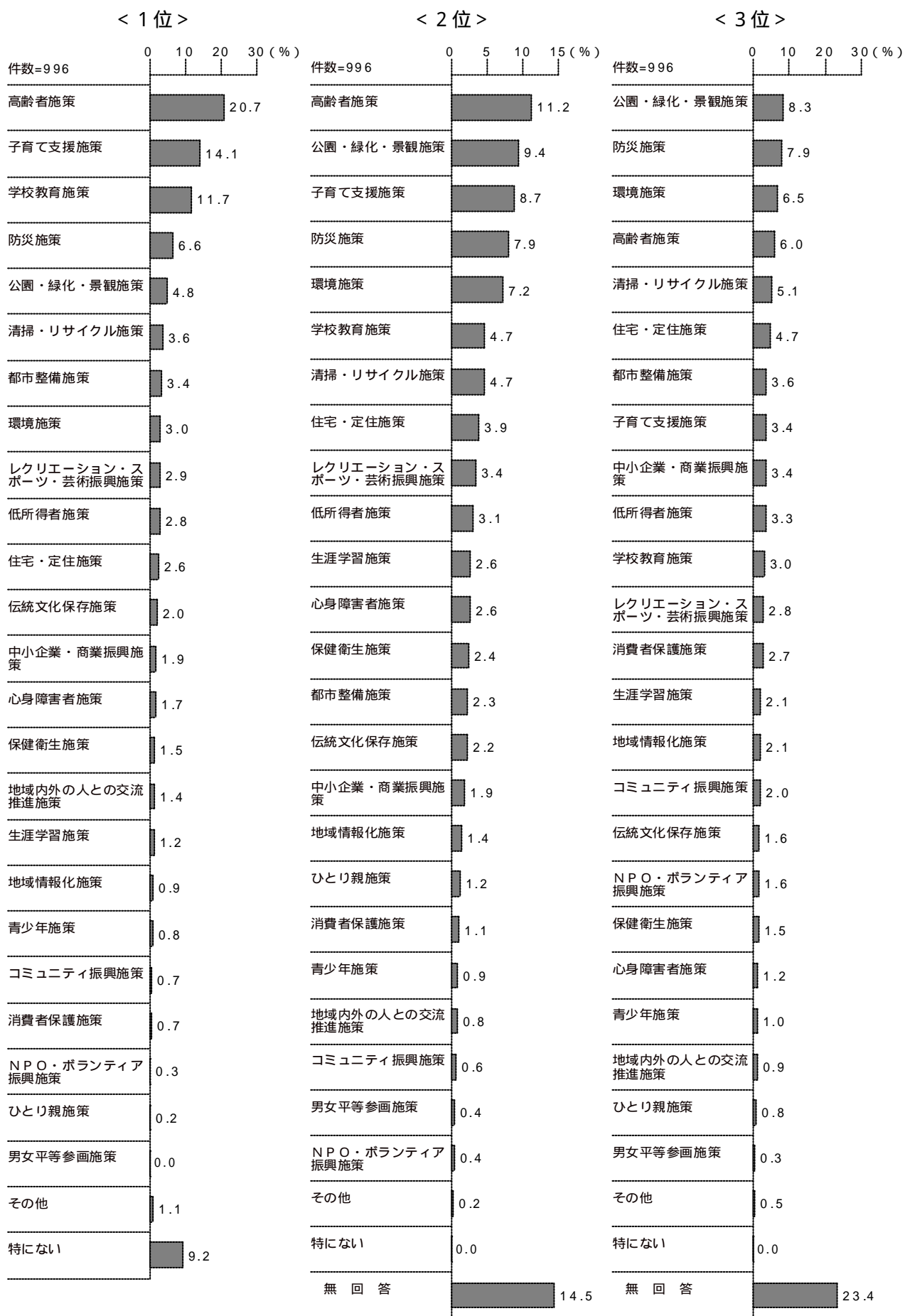
	< 1位 >	< 2位 >	< 3位 >
1. 学校教育施策	11.7%	4.7%	3.0%
2. 生涯学習施策	1.2%	2.6%	2.1%
3. レクリエーション・スポーツ・ 芸術振興施策	2.9%	3.4%	2.8%
4. 伝統文化保存施策	2.0%	2.2%	1.6%
5. 地域内外の人との交流推進施策	1.4%	0.8%	0.9%
6. 保健衛生施策	1.5%	2.4%	1.5%
7. 子育て支援施策	14.1%	8.7%	3.4%
8. 高齢者施策	20.7%	11.2%	6.0%
9. 心身障害者施策	1.7%	2.6%	1.2%
10. ひとり親施策	0.2%	1.2%	0.8%
11. 低所得者施策	2.8%	3.1%	3.3%
12. 青少年施策	0.8%	0.9%	1.0%
13. 男女平等参画施策	0.0%	0.4%	0.3%
14. 都市整備施策	3.4%	2.3%	3.6%
15. 清掃・リサイクル施策	3.6%	4.7%	5.1%
16. 環境施策	3.0%	7.2%	6.5%
17. 住宅・定住施策	2.6%	3.9%	4.7%
18. 公園・緑化・景観施策	4.8%	9.4%	8.3%
19. 防災施策	6.6%	7.9%	7.9%
20. コミュニティ振興施策	0.7%	0.6%	2.0%
21. NPO・ボランティア振興施策	0.3%	0.4%	1.6%
22. 中小企業・商業振興施策	1.9%	1.9%	3.4%
23. 消費者保護施策	0.7%	1.1%	2.7%
24. 地域情報化施策	0.9%	1.4%	2.1%
25. その他	1.1%	0.2%	0.5%
26. 特にない 無回答	9.2% 0.0%	0.0% 14.5%	0.0% 23.4%

さらに力を入れてほしい区の施策について聞いたところ、1位に挙げられた割合が最も多いのは、「高齢者施策」(20.7%)でほぼ2割となっている。次いで「子育て支援施策」(14.1%)、「学校教育施策」(11.7%)などの順となっている。

2位でも「高齢者施策」(11.2%)が1割を超え最も多く、次いで「公園・緑化・景観施策」(9.4%)、「子育て支援施策」(8.7%)などの順となっている。

3位は「公園・緑化・景観施策」が8.3%と最も多く、次いで「防災施策」(7.9%)、「環境施策」(6.5%)などの順となっている。(図2-3-1)

図2-3-1 さらに力を入れてほしい区の施策



2 - 4 区の財政状況に対する関心

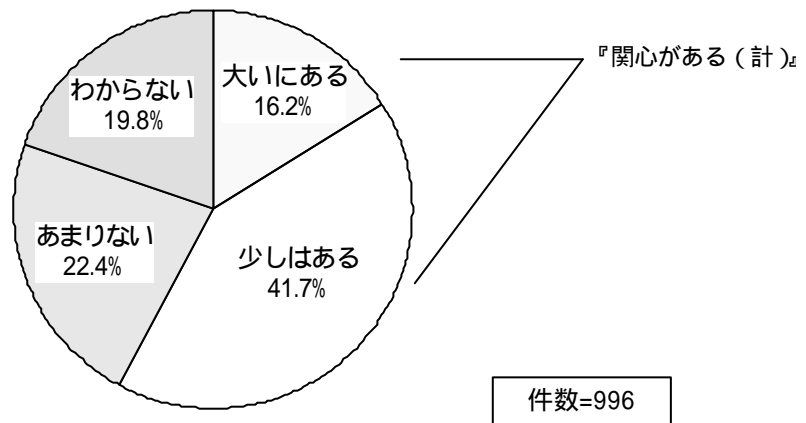
問6 あなたは、区の財政状況に関心がありますか。1つお選びください。

(n = 996)

1 . 大いにある	16.2%	3 . あまりない	22.4%
2 . 少しはある	41.7%	4 . わからない	19.8%

区の財政状況に対する関心について聞いたところ、「大いにある」(16.2%)と「少しはある」(41.7%)を合わせた『関心がある(計)』(57.9%)が6割近くとなっている。また、「あまりない」(22.4%)が2割を超え、「わからない」(19.8%)が2割となっている。(図2 - 4 - 1)

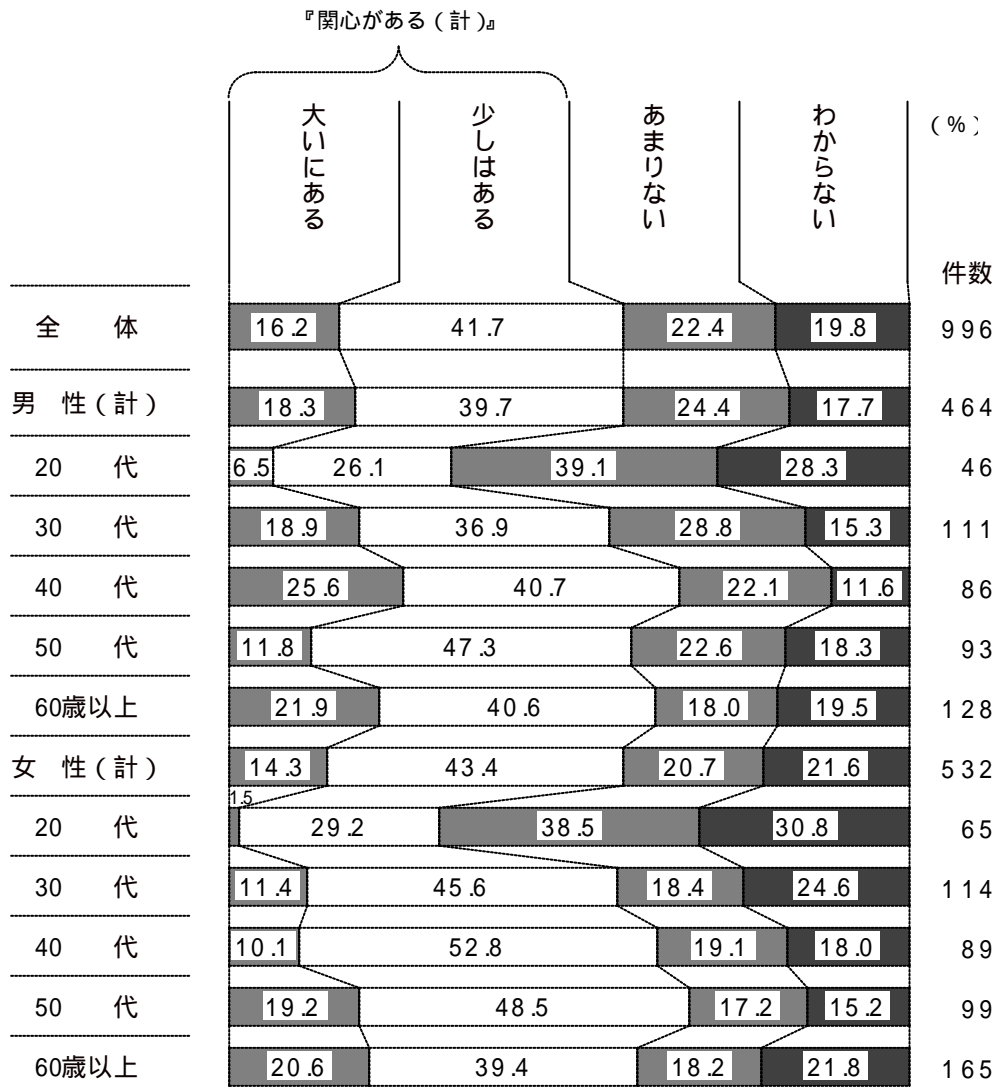
図2 - 4 - 1 区の財政状況に対する関心



性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

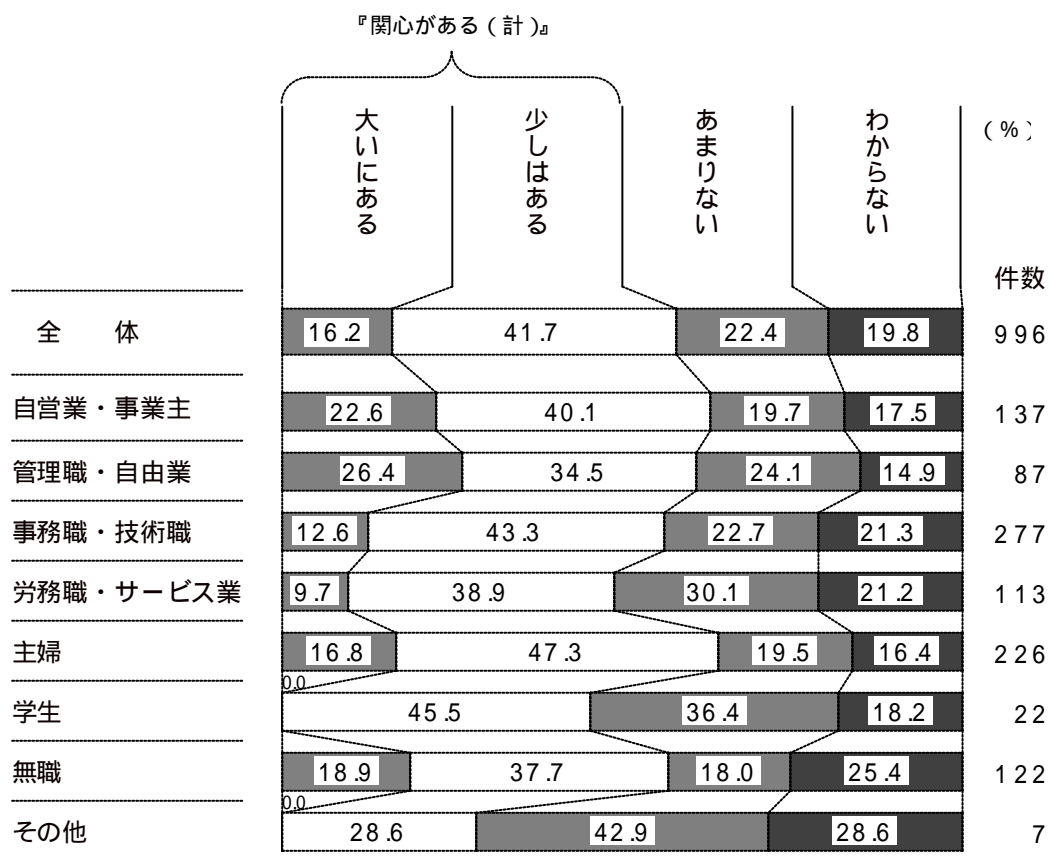
性・年代別にみると、『関心がある（計）』は男性の40代と60歳以上、女性の40代以上の年代で6割以上を占めている。一方、男女とも20代では「あまりない」は4割近く、「わからない」は3割前後と多くなっている。（図2-4-2）

図2-4-2 区の財政状況に対する関心 - 性・年代別



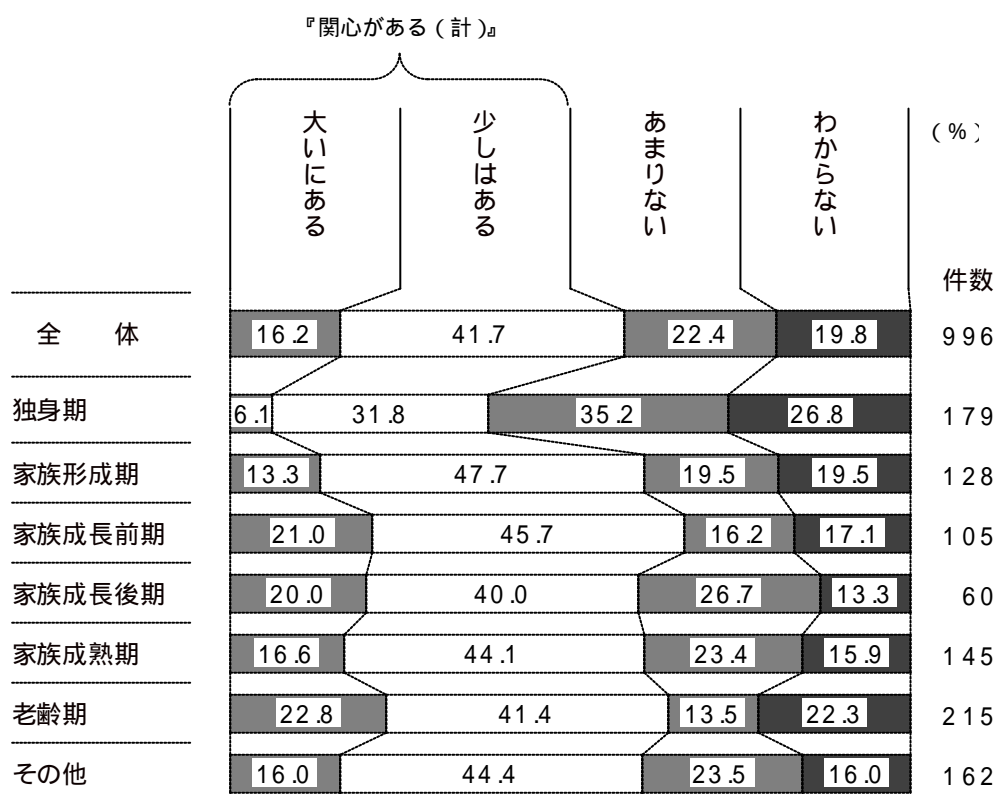
職業別にみると、「大いにある」は管理職・自由業で2割半ば、『関心がある(計)』は自営業・事業主、管理職・自由業、主婦で6割以上を占めている。一方、「あまりない」は学生で3割半ばと多くなっている。(図2-4-3)

図2-4-3 区の財政状況に対する関心 - 職業別



ライフステージ別にみると、『関心がある（計）』は家族成長前期で7割近く、「あまりない」は独身期で3割半ばと多くなっている。（図2 - 4 - 4）

図2 - 4 - 4 区の財政状況に対する関心 - ライフステージ別



2 - 5 区の財政状況に対する印象

(問6で「1. 大いにある」または「2. 少しはある」とお答えの方にかがいます)

問6 - 1 あなたは、区の財政状況について、どのような印象をお持ちですか。1つお選びください。

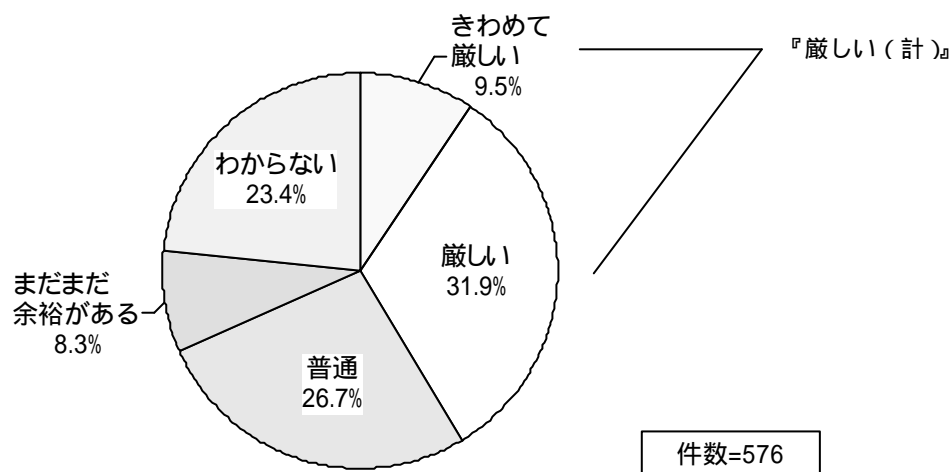
(n = 576)

1. きわめて厳しい	9.5%	3. 普通	26.7%	5. わからない	23.4%
2. 厳しい	31.9%	4. まだまだ余裕がある	8.3%		

区の財政状況に対する関心が「大いにある」および「少しはある」と答えた人(576人)に、区の財政状況に対する印象について聞いたところ、「きわめて厳しい」(9.5%)と「厳しい」(31.9%)を合わせた『厳しい(計)』(41.4%)が4割を超え、「普通」(26.7%)が3割近く、「まだまだ余裕がある」が8.3%となっている。また、「わからない」(23.4%)が2割を超えている。

(図2 - 5 - 1)

図2 - 5 - 1 区の財政状況に対する印象

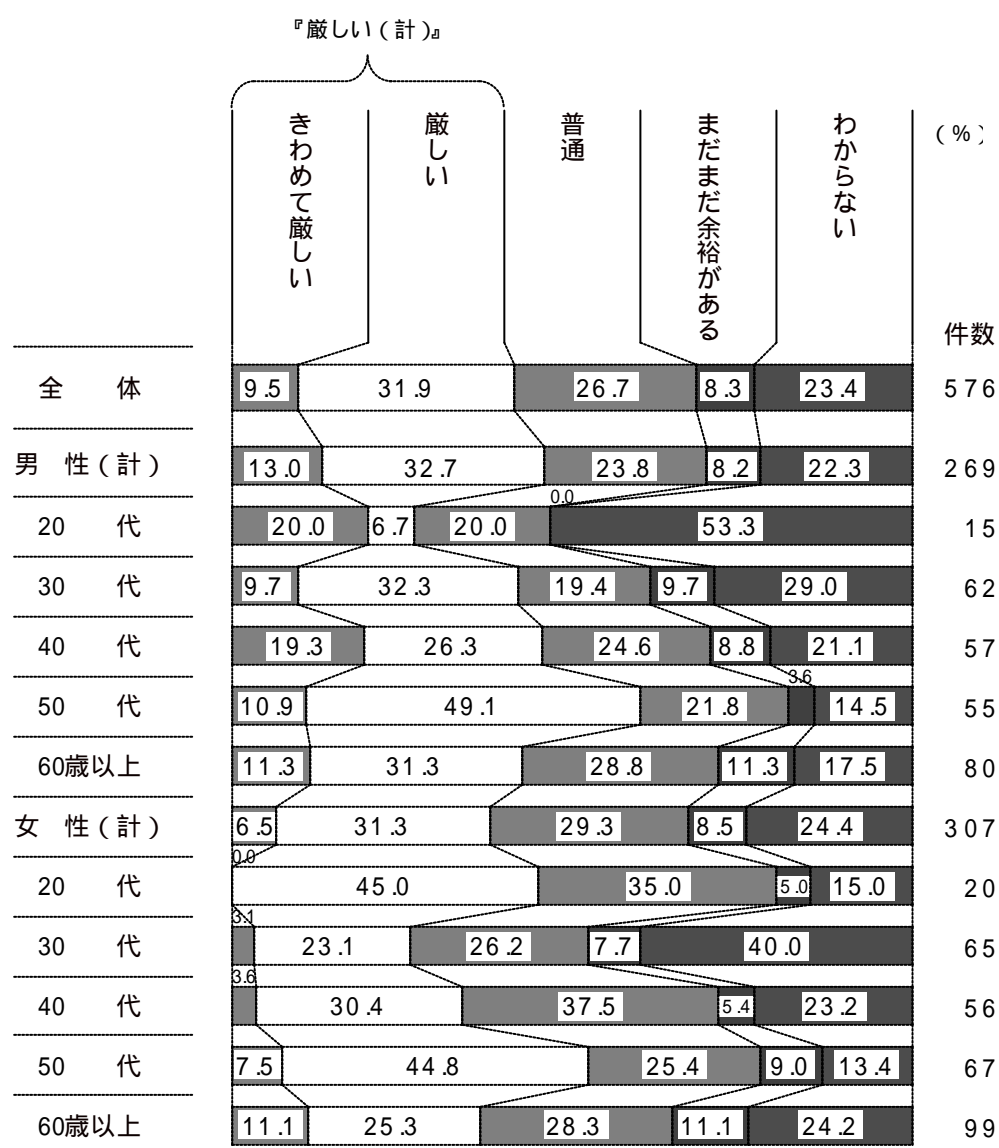


性別にみると、「きわめて厳しい」は男性の方が7ポイント高く、「普通」は女性の方が6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『厳しい(計)』は男女とも50代で5割から6割を占め、「普通」は女性40代で4割近くと多い。また、「わからない」は男性20代で5割、女性30代で4割と多くなっている。

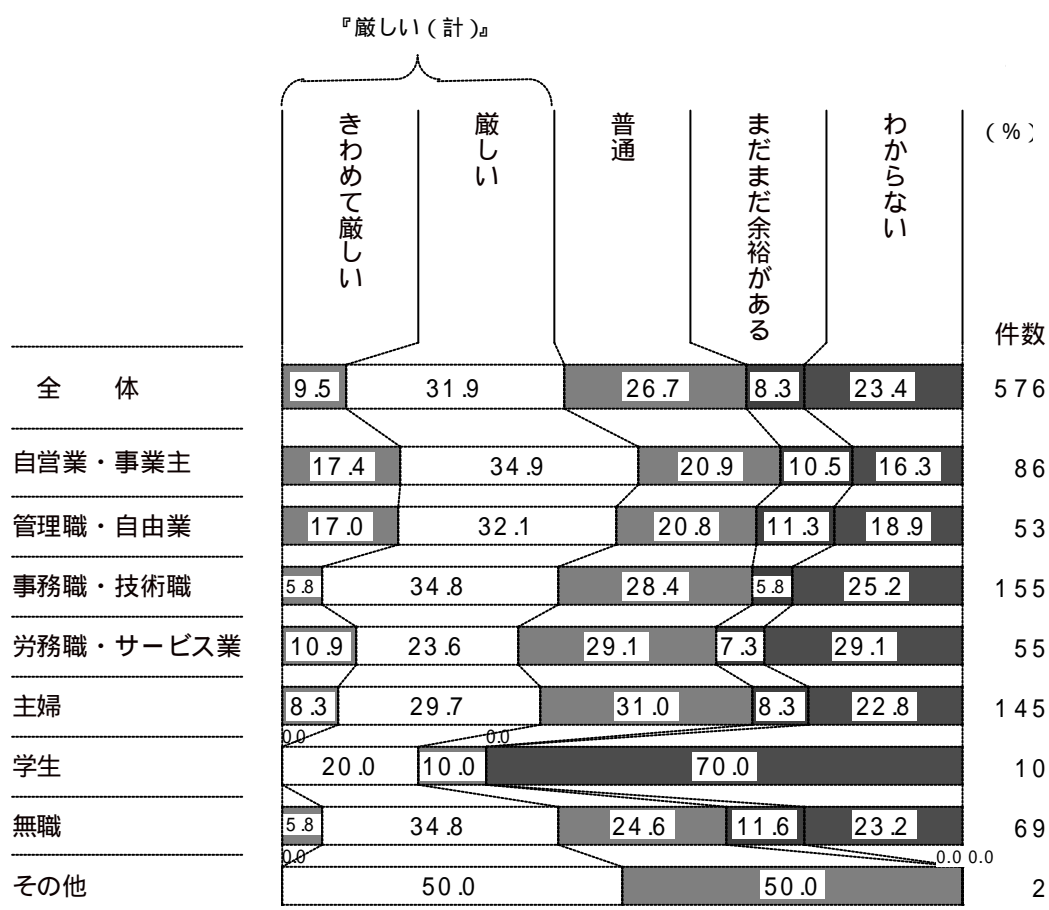
(図2-5-2)

図2-5-2 区の財政状況に対する印象 - 性・年代別



職業別にみると、『厳しい(計)』は自営業・事業主で5割を超えている。「わからない」は学生で7割になっている。(図2-5-3)

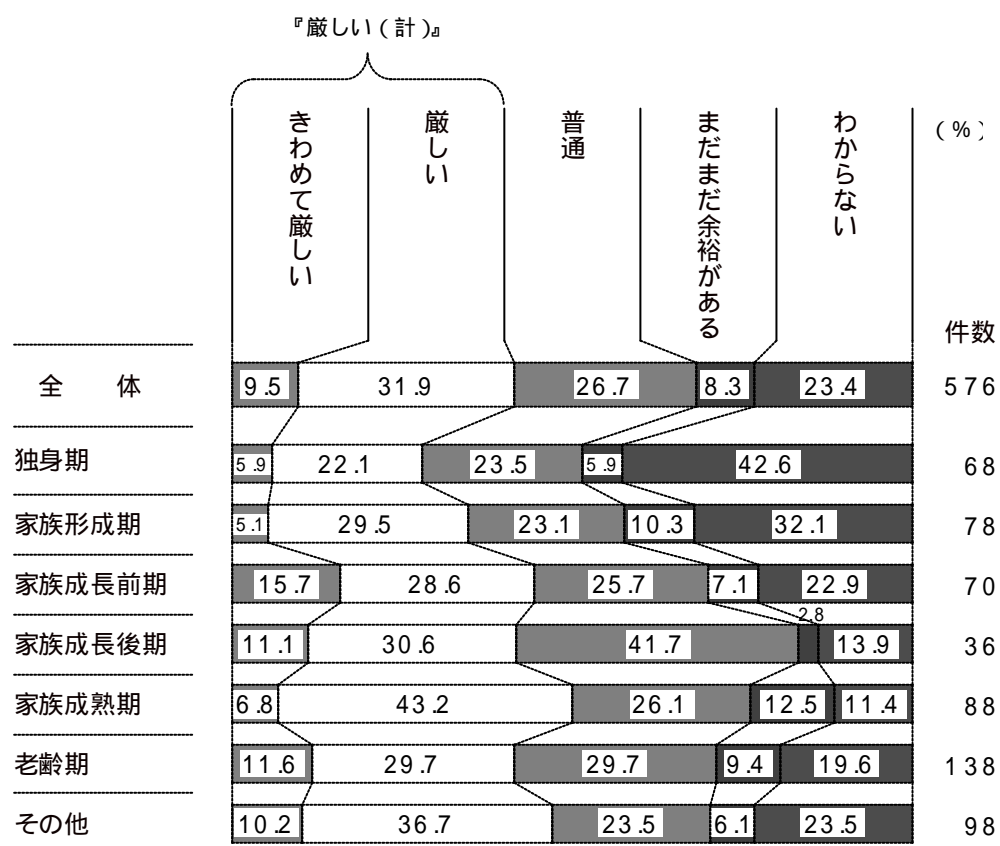
図2-5-3 区の財政状況に対する印象 - 職業別



ライフステージ別にみると、『厳しい(計)』は家族成熟期で5割とやや多く、「普通」は家族成長後期で4割を超えている。また、「わからない」は独身期で4割を超え多くなっている。

(図2-5-4)

図2-5-4 区の財政状況に対する印象 - ライフステージ別



2 - 6 区の財政状況についての広報をわかりやすくする方法

問7 区の財政状況については、これまでも「区報ぶんきょう」、「文京の過去・現在・未来」() ホームページ、ケーブルテレビ等でお知らせしていますが、よりわかりやすいものとするためには、どのような方法でお知らせすればよいと、あなたは思いますか。3つ以内でお選びください。

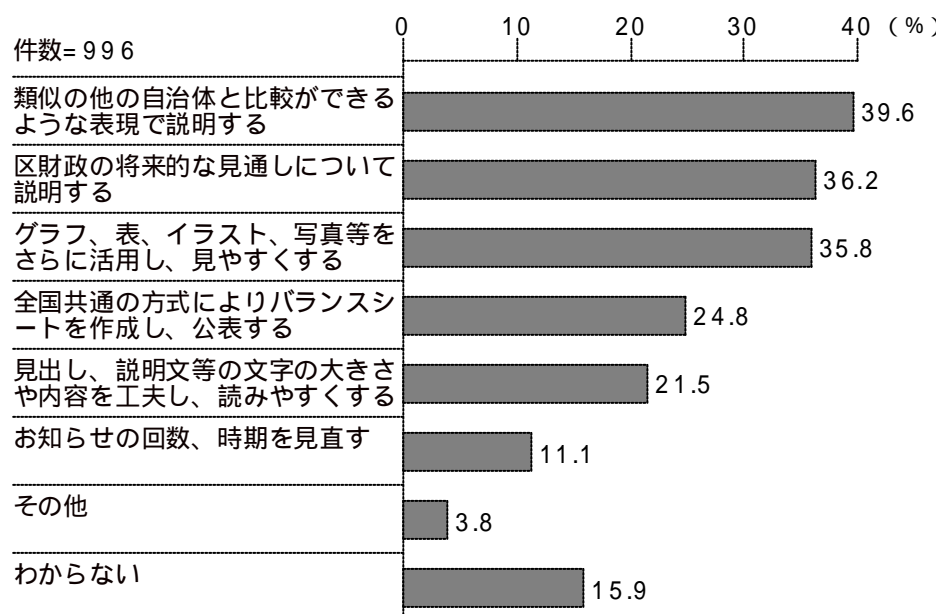
「文京の過去・現在・未来」は、区の財政状況をまとめた冊子です。

(n = 996)

1. 類似の他の自治体と比較ができるような表現で説明する	39.6%
2. 全国共通の方式(総務省方式)によりバランスシートを作成し、公表する	24.8%
3. 区財政の将来的な見通しについて説明する	36.2%
4. グラフ、表、イラスト、写真等をさらに活用し、見やすくする	35.8%
5. 見出し、説明文等の文字の大きさや内容を工夫し、読みやすくする	21.5%
6. お知らせの回数、時期を見直す	11.1%
7. その他	3.8%
8. わからない	15.9%

区の財政状況についての広報をわかりやすくする方法について聞いたところ、「類似の他の自治体と比較ができるような表現で説明する」(39.6%)が4割と最も多く、次いで「区財政の将来的な見通しについて説明する」(36.2%)「グラフ、表、イラスト、写真等をさらに活用し、見やすくする」(35.8%)などの順となっている。(図2-6-1)

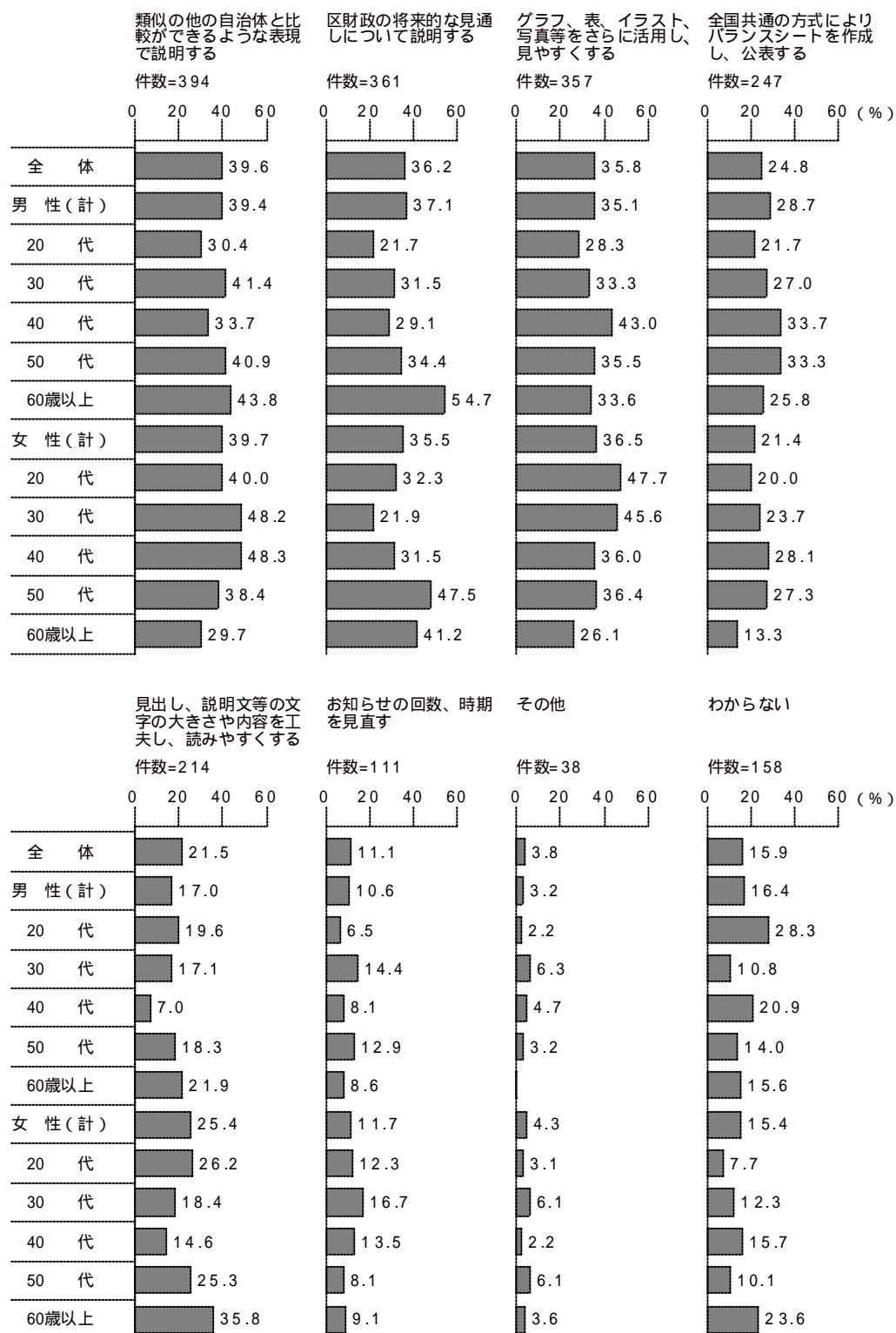
図2-6-1 区の財政状況についての広報をわかりやすくする方法



性別にみると、「見出し、説明文等の文字の大きさや内容を工夫し、読みやすくする」は女性の方が8ポイント高く、「全国共通の方式（総務省方式）によりバランスシートを作成し、公表する」は男性の方が7ポイント高くなっている。

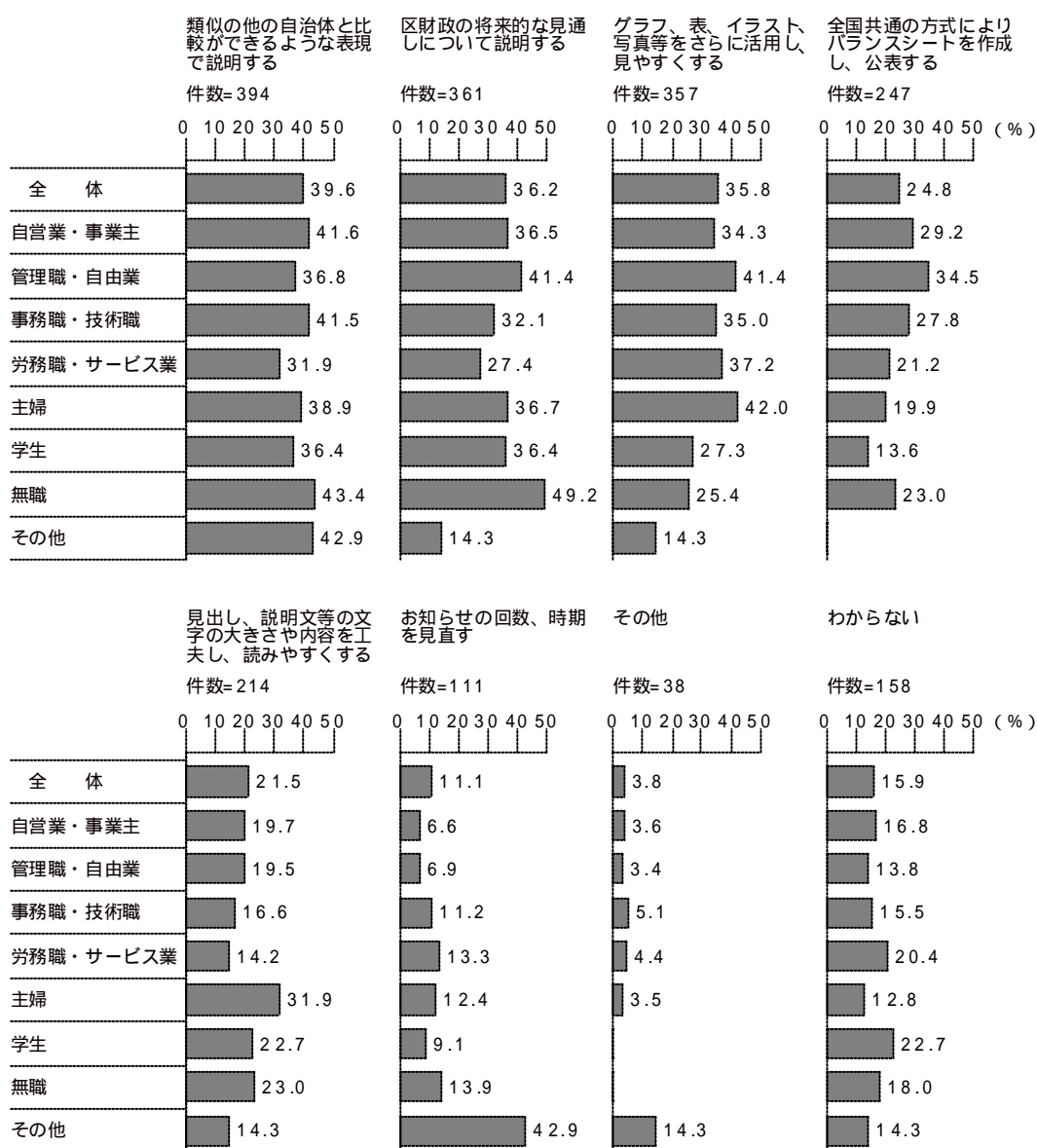
性・年代別にみると、「区財政の将来的な見通しについて説明する」は男性では高い年代ほど割合が高い傾向にあり、また男性60歳以上と女性50代で5割前後を占め、「グラフ、表、イラスト、写真等をさらに活用し、見やすくする」は女性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性20代で5割近くとなっている。「見出し、説明文等の文字の大きさや内容を工夫し、読みやすくする」は女性60歳以上で3割半ばと多い。また、「わからない」は男性20代で3割近くと多くなっている。（図2-6-2）

図2-6-2 区の財政状況についての広報をわかりやすくする方法 - 性・年代別



職業別にみると、「区財政の将来的な見通しについて説明する」は無職でほぼ5割、「全国共通の方式（総務省方式）によりバランスシートを作成し、公表する」は管理職・自由業で3割半ば、「見出し、説明文等の文字の大きさや内容を工夫し、読みやすくする」は主婦で3割を超え多くなっている。（図2-6-3）

図2-6-3 区の財政状況についての広報をわかりやすくする方法 - 職業別



2 - 7 持続可能な財政体質をつくり上げるために取り組むべきこと

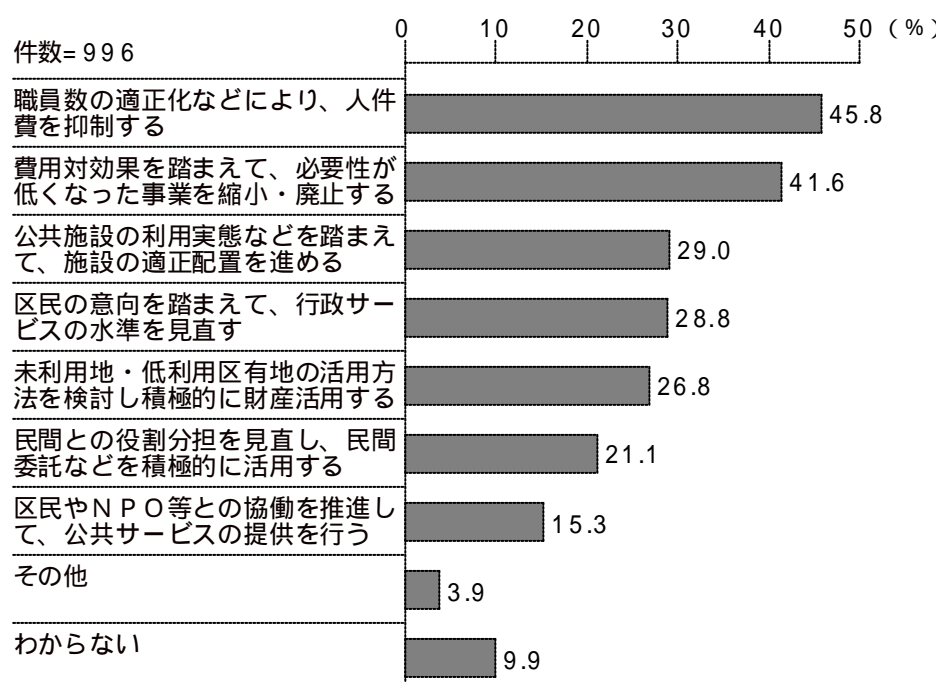
問8 区は、これまで、財政運営の見直しに取り組み、歳入に見合った歳出規模という良好な状態を維持しています。今後も、時代の要請に的確に応えつつ、将来世代に対する責任もしっかり果たしていくためには、持続可能な財政体質をつくり上げる必要があります。そこで、今後どのようなことに力を入れていくべきだと、あなたは思いますか。3つ以内でお選びください。

(n = 996)

1. 公共施設の利用実態や中長期的な見直しなどを踏まえて、施設の適正配置を進める	29.0%
2. 職員数の適正化などにより、人件費を抑制する	45.8%
3. 費用対効果を踏まえて、必要性が低くなった事業を縮小・廃止する	41.6%
4. 未利用地または低利用区有地の活用方法を検討し、積極的に財産活用する	26.8%
5. 民間との役割分担を見直し、民間委託などを積極的に活用する	21.1%
6. 区民やNPO等との協働を推進して、公共サービスの提供を行う	15.3%
7. 区民の意向を踏まえて、行政サービスの水準を見直す	28.8%
8. その他	3.9%
9. わからない	9.9%

持続可能な財政体質をつくり上げるために取り組むべきことについて聞いたところ、「職員数の適正化などにより、人件費を抑制する」(45.8%)が4割半ばと最も多く、次いで「費用対効果を踏まえて、必要性が低くなった事業を縮小・廃止する」(41.6%)「公共施設の利用実態や中長期的な見直しなどを踏まえて、施設の適正配置を進める」(29.0%)「区民の意向を踏まえて、行政サービスの水準を見直す」(28.8%)などの順となっている。(図2-7-1)

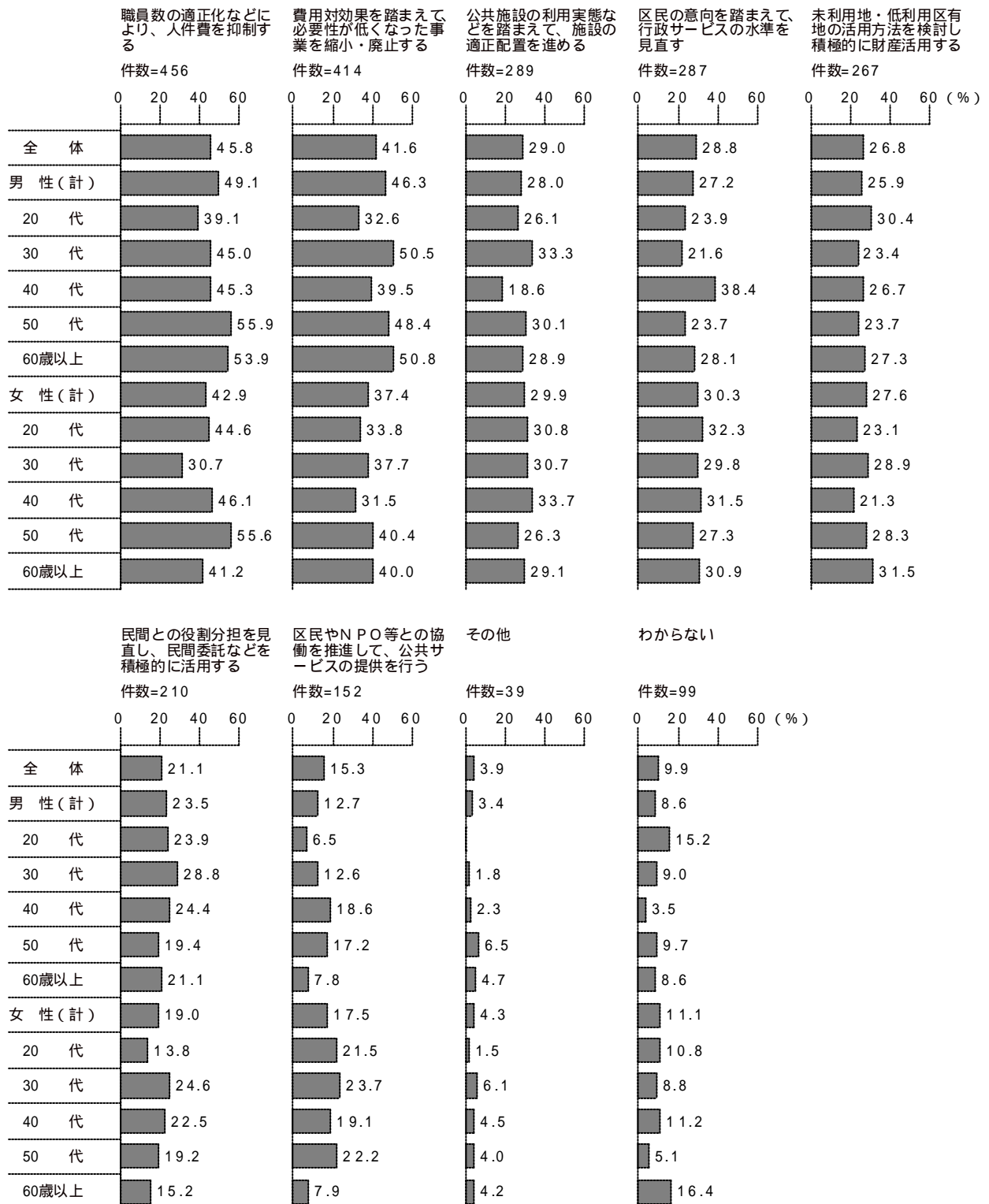
図2-7-1 持続可能な財政体質をつくり上げるために取り組むべきこと



性別にみると、男性の方が「費用対効果を踏まえて、必要性が低くなった事業を縮小・廃止する」で9ポイント、「職員数の適正化などにより、人件費を抑制する」で6ポイント、「民間との役割分担を見直し、民間委託などを積極的に活用する」で5ポイント高い。一方、「区民やNPO等との協働を推進して、公共サービスの提供を行う」は女性の方が5ポイント高くなっている。

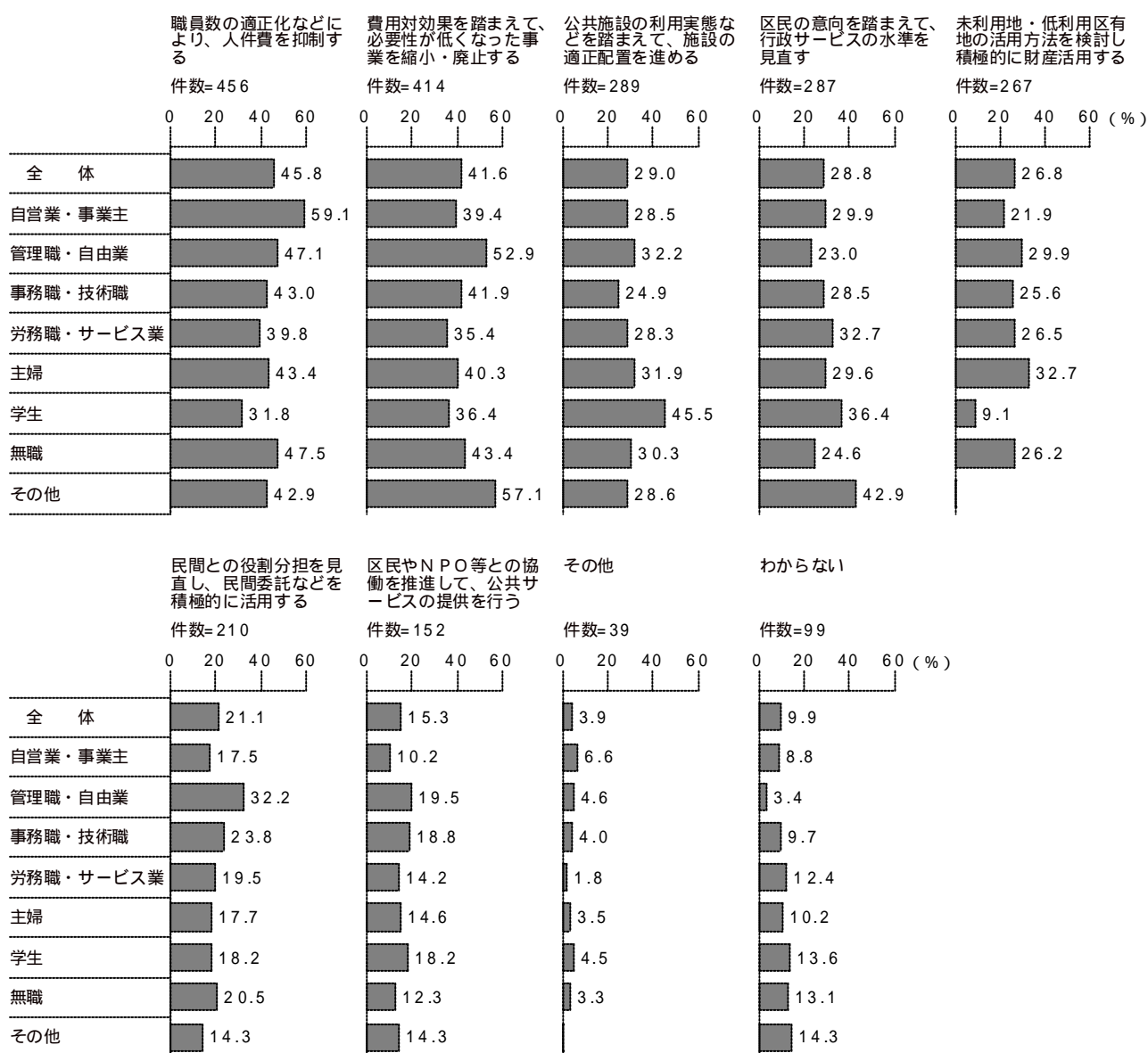
性・年代別にみると、「職員数の適正化などにより、人件費を抑制する」は男女とも50代で5割半ば、「費用対効果を踏まえて、必要性が低くなった事業を縮小・廃止する」は男性の30代と50代以上の年代で5割前後、「区民の意向を踏まえて、行政サービスの水準を見直す」は男性40代で4割近くと多くなっている。(図2-7-2)

図2-7-2 持続可能な財政体質をつくり上げるために取り組むべきこと - 性・年代別



職業別にみると、「職員数の適正化などにより、人件費を抑制する」は自営業・事業主でほぼ6割、「公共施設の利用実態や中長期的な見通しなどを踏まえて、施設の適正配置を進める」は学生で4割半ばと多い。管理職・自由業では「費用対効果を踏まえて、必要性が低くなった事業を縮小・廃止する」で5割を超え、「民間との役割分担を見直し、民間委託などを積極的に活用する」で3割を超え多くになっている。(図2-7-3)

図2-7-3 持続可能な財政体質をつくり上げるために取り組むべきこと - 職業別



3 . 協働 ・ 協治

-
- 3 - 1 「文の京」自治基本条例の認知度
 - 3 - 2 協働事業の認知度と参加経験
 - 3 - 3 協働の事業に参加する形態
 - 3 - 4 協働の事業で関心のあるテーマ
-

3 . 協働・協治

3 - 1 「文の京」自治基本条例の認知度

問9 区では、「協働・協治」()で豊かな地域社会の実現を目指し、区の憲法ともいえる「文の京」自治基本条例を平成17年4月1日より施行しております。あなたは、この条例をご存知ですか。1つお選びください。

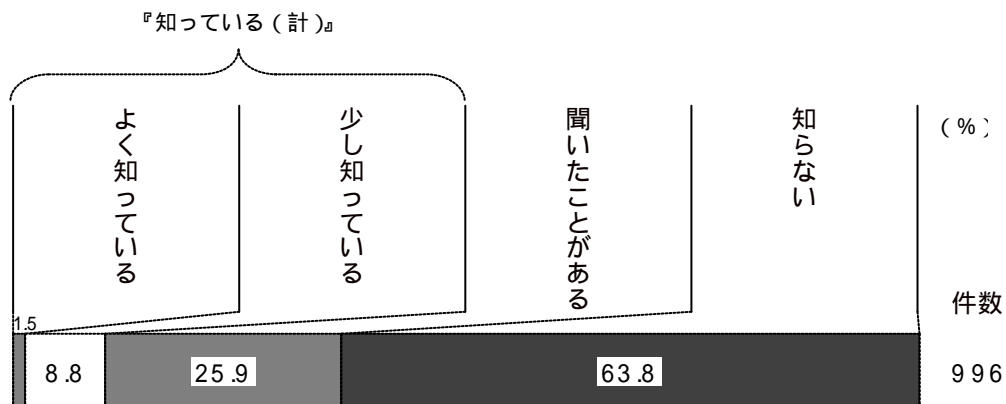
「協働・協治」とは、区民、地域活動団体、民間の非営利活動団体(NPO)事業者、区が対等の関係で協力し、社会資源を有効に活用しながら、地域の課題の解決を図る社会のあり方をいいます。

(n = 996)

1 . よく知っている	1.5%	3 . 聞いたことがある	25.9%
2 . 少し知っている	8.8%	4 . 知らない	63.8%

「文の京」自治基本条例の認知度について聞いたところ、「よく知っている」(1.5%)と「少し知っている」(8.8%)を合わせた『知っている(計)』(10.3%)が1割、「聞いたことがある」(25.9%)が2割半ば、「知らない」(63.8%)が6割を超えている。(図3-1-1)

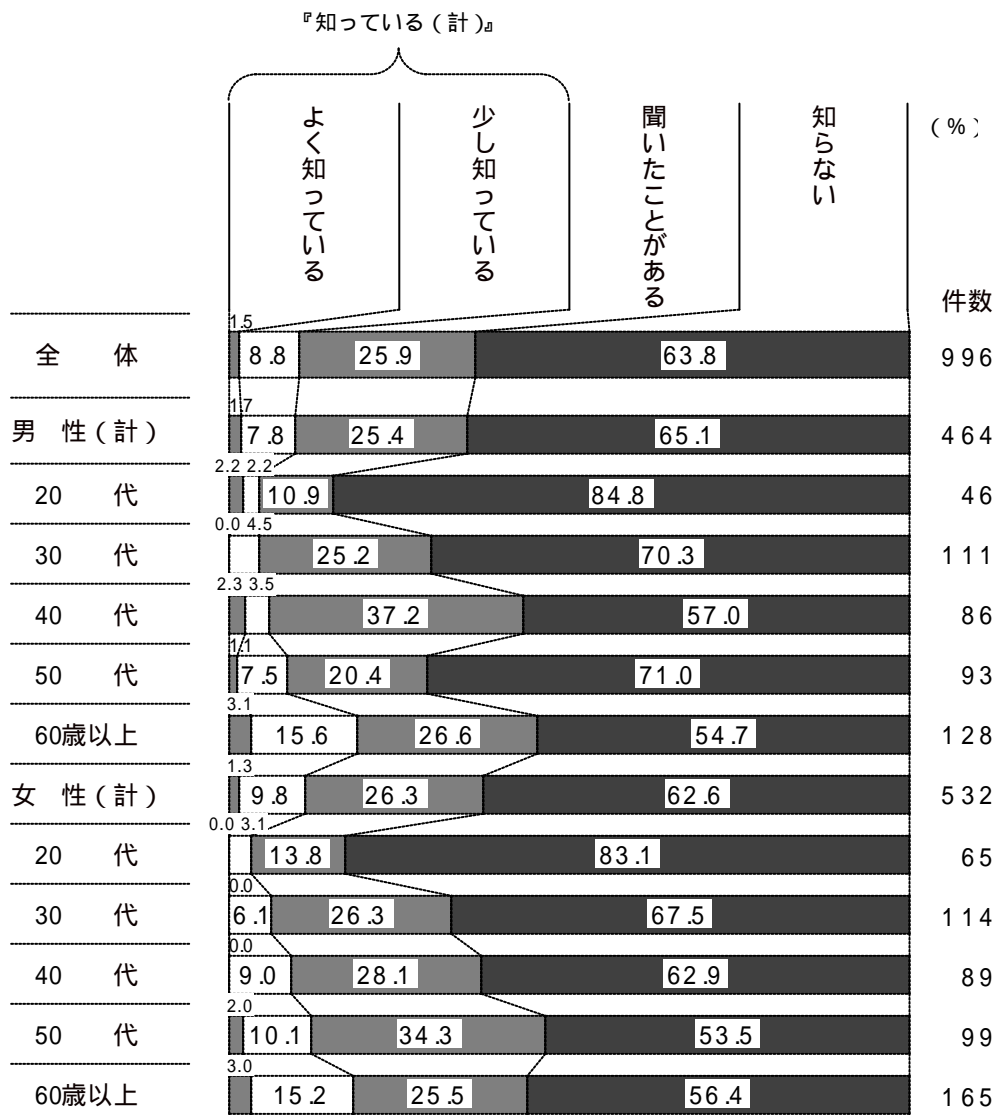
図3-1-1 「文の京」自治基本条例の認知度



性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別にみると、『知っている（計）』は男女とも高い年代ほど割合が高い傾向にあり、男女とも60歳以上で2割近くと多い。また、「聞いたことがある」は男性40代で4割近くと多く、「知らない」は男女とも20代で8割以上を占めている。（図3-1-2）

図3-1-2 「文の京」自治基本条例の認知度 - 性・年代別



3 - 2 協働事業の認知度と参加経験

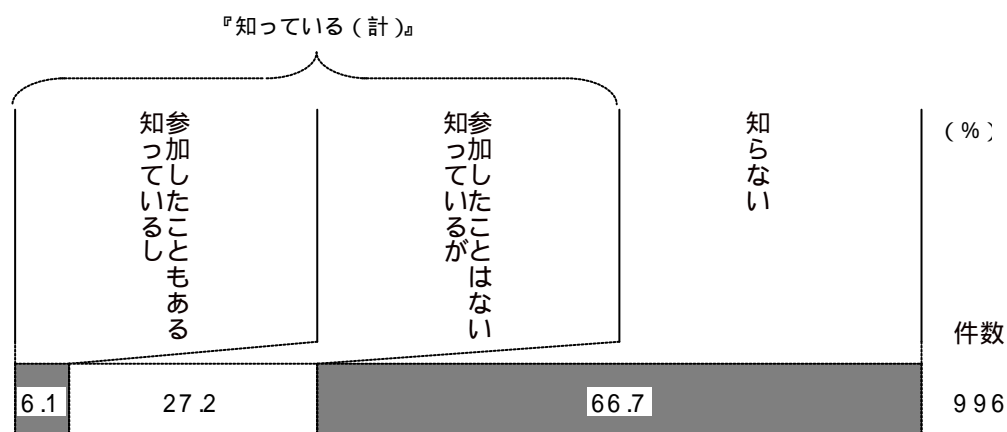
問 10 区では、協働・協治の理念を踏まえ、地域の活力を高めるため、区民や地域活動団体が中心となった「花の五大まつり」や、NPO等と協働した「親子環境教室」、「学校ボランティア」など様々な協働事業を行っていますが、あなたはご存知ですか。1つお選びください。

(n = 996)

- 1 . 知っているし参加したこともある 6.1% 3 . 知らない 66.7%
- 2 . 知っているが参加したことはない 27.2%

協働事業の認知度と参加経験について聞いたところ、「知っているし参加したこともある」が6.1%、「知っているが参加したことはない」(27.2%)が3割近くとなっており、この2項目を合わせた『知っている(計)』(33.3%)で3割を超え、3人に1人が認知しているといえる。また、「知らない」(66.7%)が7割近くとなっている。(図3-2-1)

図3-2-1 協働事業の認知度と参加経験

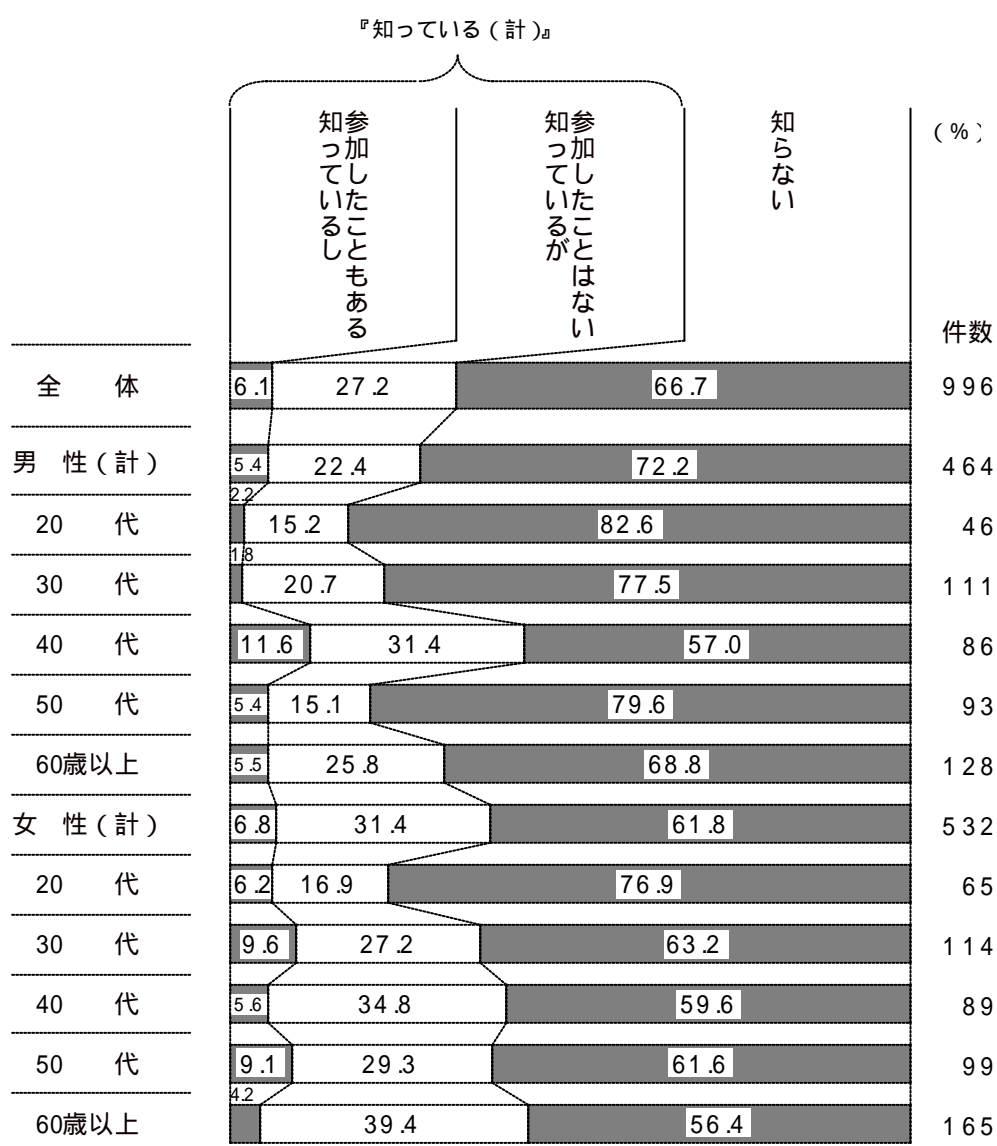


性別にみると、「知らない」は男性の方が10ポイント高く、「知っているが参加したことはない」は女性の方が9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『知っている（計）』は男性40代と女性の40代以上の年代で4割前後を占めている。一方、「知らない」は男性の20代、30代、50代と女性20代で8割前後と多くなっている。

(図3 - 2 - 2)

図3 - 2 - 2 協働事業の認知度と参加経験 - 性・年代別



3 - 3 協働の事業に参加する形態

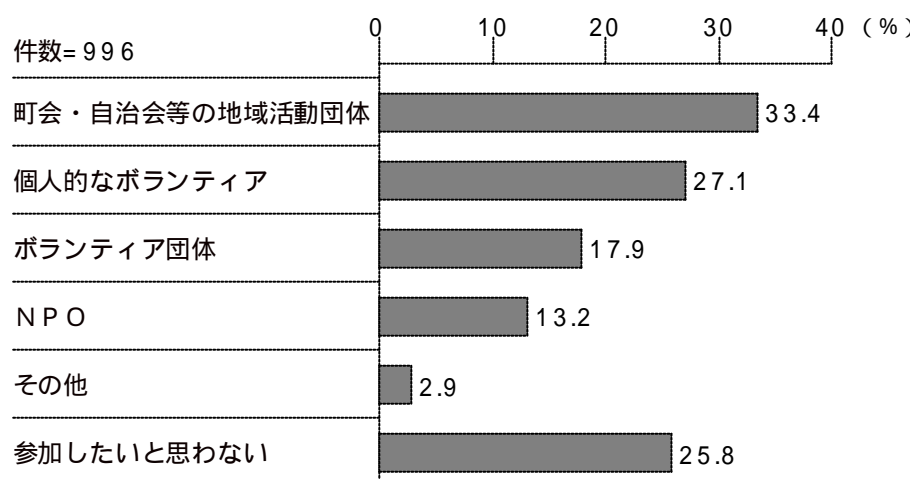
問 11 あなたが、区と協働して事業を行うとしたら、どのような形での参加を希望されますか。いくつでもお選びください。

(n = 996)

1 . 町会・自治会等の地域活動団体	33.4%	4 . 個人的なボランティア	27.1%
2 . ボランティア団体	17.9%	5 . その他	2.9%
3 . N P O	13.2%	6 . 参加したいと思わない	25.8%

協働の事業に参加する形態について聞いたところ、「町会・自治会等の地域活動団体」(33.4%)が3割を超え最も多く、次いで「個人的なボランティア」(27.1%)、「ボランティア団体」(17.9%)、「N P O」(13.2%)の順となっている。また、「参加したいと思わない」(25.8%)が2割半ばとなっている。(図3 - 3 - 1)

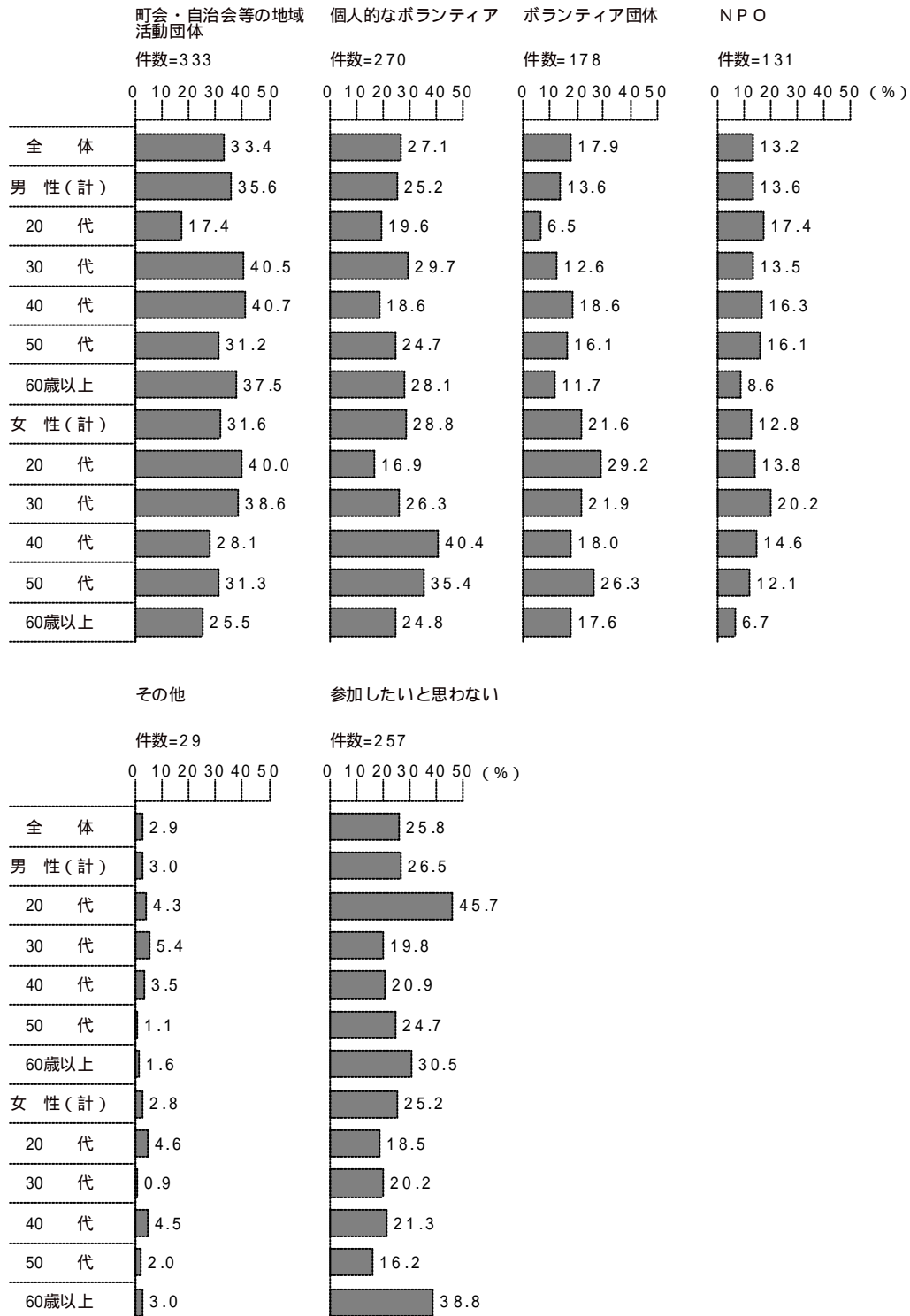
図3 - 3 - 1 協働の事業に参加する形態



性別にみると、「ボランティア団体」で女性の方が8ポイント高くなっている。

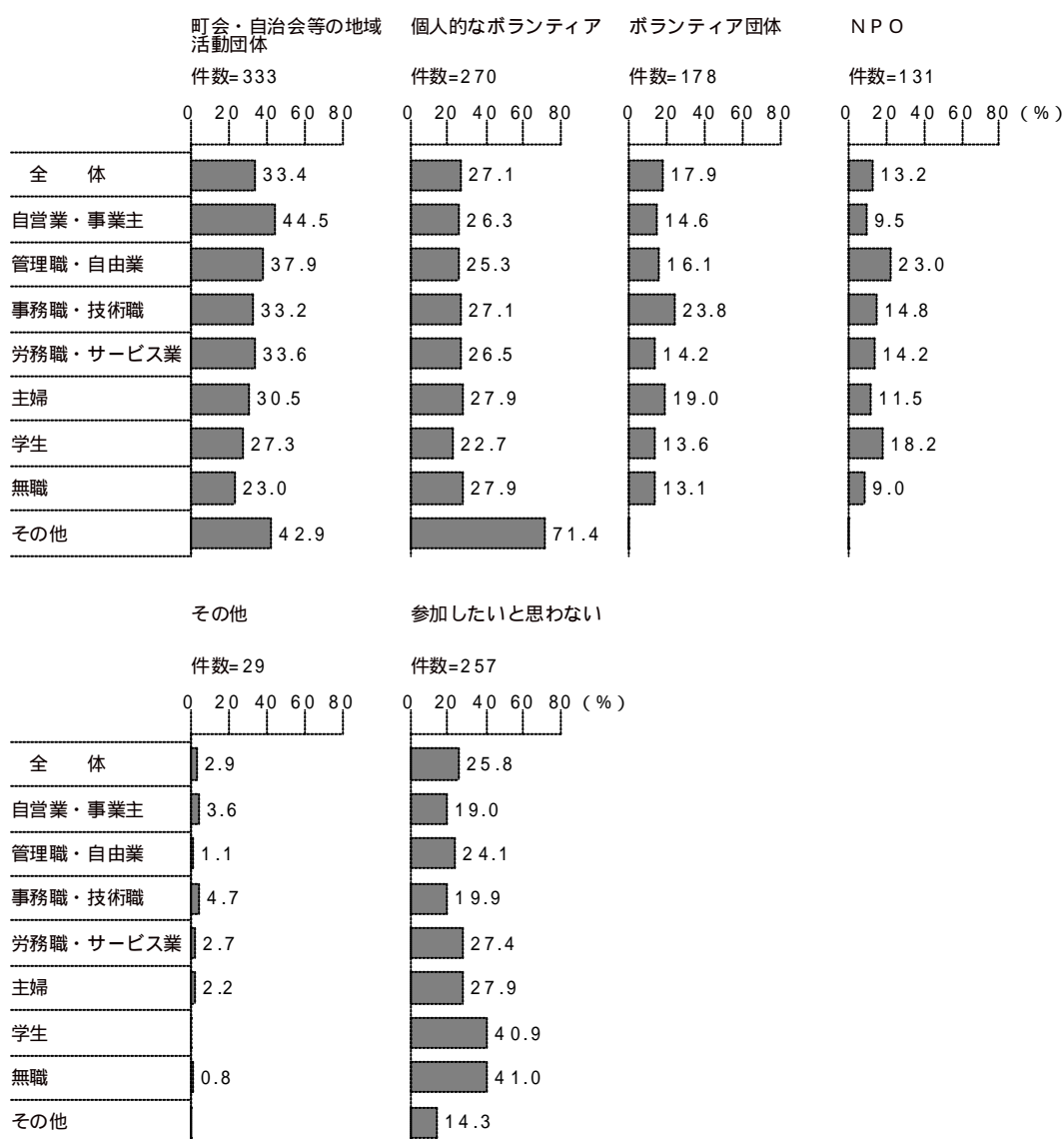
性・年代別にみると、「個人的なボランティア」は女性40代で4割、「ボランティア団体」は女性20代でほぼ3割と多い。一方、「参加したいと思わない」は男性20代と女性60歳以上で4割前後を占めている。(図3-3-2)

図3-3-2 協働の事業に参加する形態 - 性・年代別



職業別にみると、「町会・自治会等の地域活動団体」は自営業・事業主で4割半ば、「NPO」は管理職・自由業で2割を超え多い。一方、「参加したいと思わない」は学生と無職でほぼ4割と多くなっている。(図3-3-3)

図3-3-3 協働の事業に参加する形態 - 職業別



3 - 4 協働の事業で関心のあるテーマ

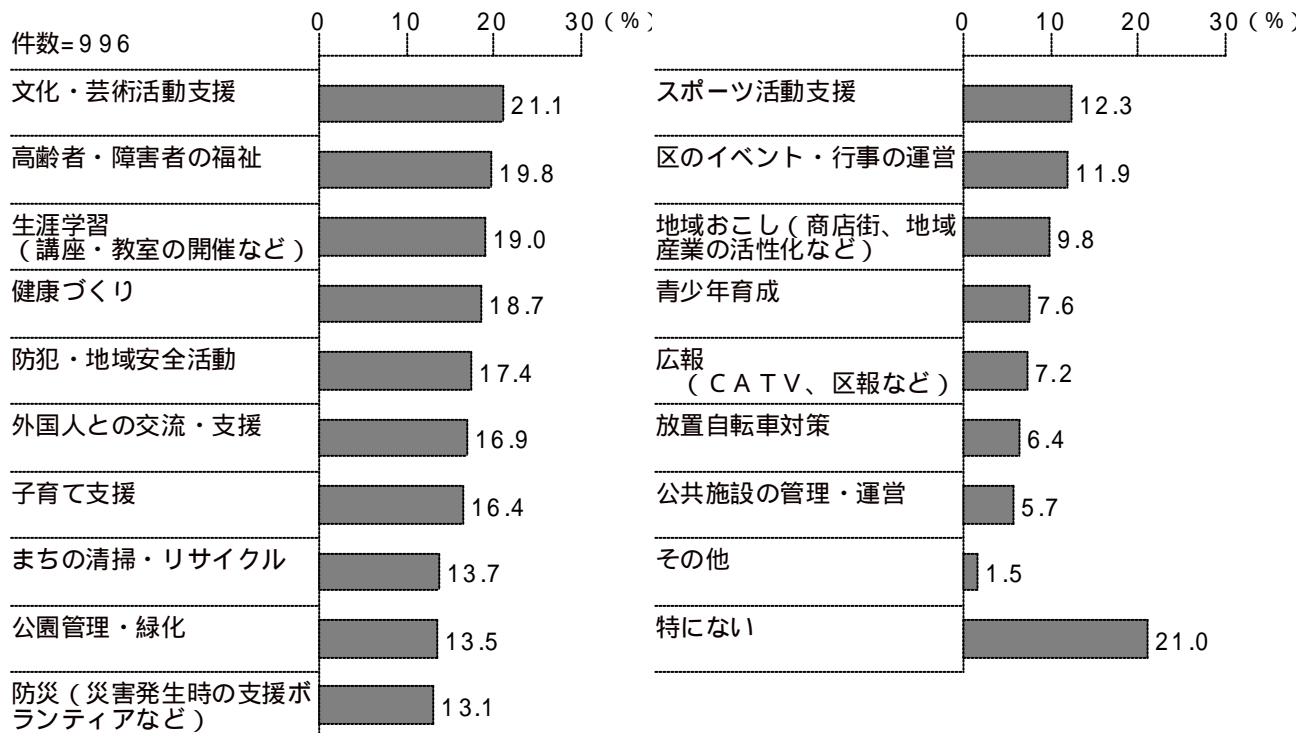
問 12 あなたが、区と協働して事業を行うとしたら、どのような事業に参加したいと思いますか。いくつでもお選びください。

(n = 996)

1. 区のイベント・行事の運営	11.9%	11. まちの清掃・リサイクル	13.7%
2. 広報（CATV、区報など）	7.2%	12. 放置自転車対策	6.4%
3. 防犯・地域安全活動	17.4%	13. 生涯学習	
4. 防災（災害発生時の支援ボランティアなど）	13.1%	（講座・教室の開催など）	19.0%
5. 地域おこし（商店街、地域産業の活性化など）	9.8%	14. 文化・芸術活動支援	21.1%
6. 青少年育成	7.6%	15. スポーツ活動支援	12.3%
7. 子育て支援	16.4%	16. 外国人との交流・支援	16.9%
8. 高齢者・障害者の福祉	19.8%	17. 公共施設の管理・運営	5.7%
9. 健康づくり	18.7%	18. その他	1.5%
10. 公園管理・緑化	13.5%	19. 特にない	21.0%

協働の事業で関心のあるテーマについて聞いたところ、「文化・芸術活動支援」(21.1%)が2割を超え最も多く、次いで「高齢者・障害者の福祉」(19.8%)、「生涯学習(講座・教室の開催など)」(19.0%)、「健康づくり」(18.7%)などの順となっている。また、「特にない」(21.0%)が2割を超えている。(図3-4-1)

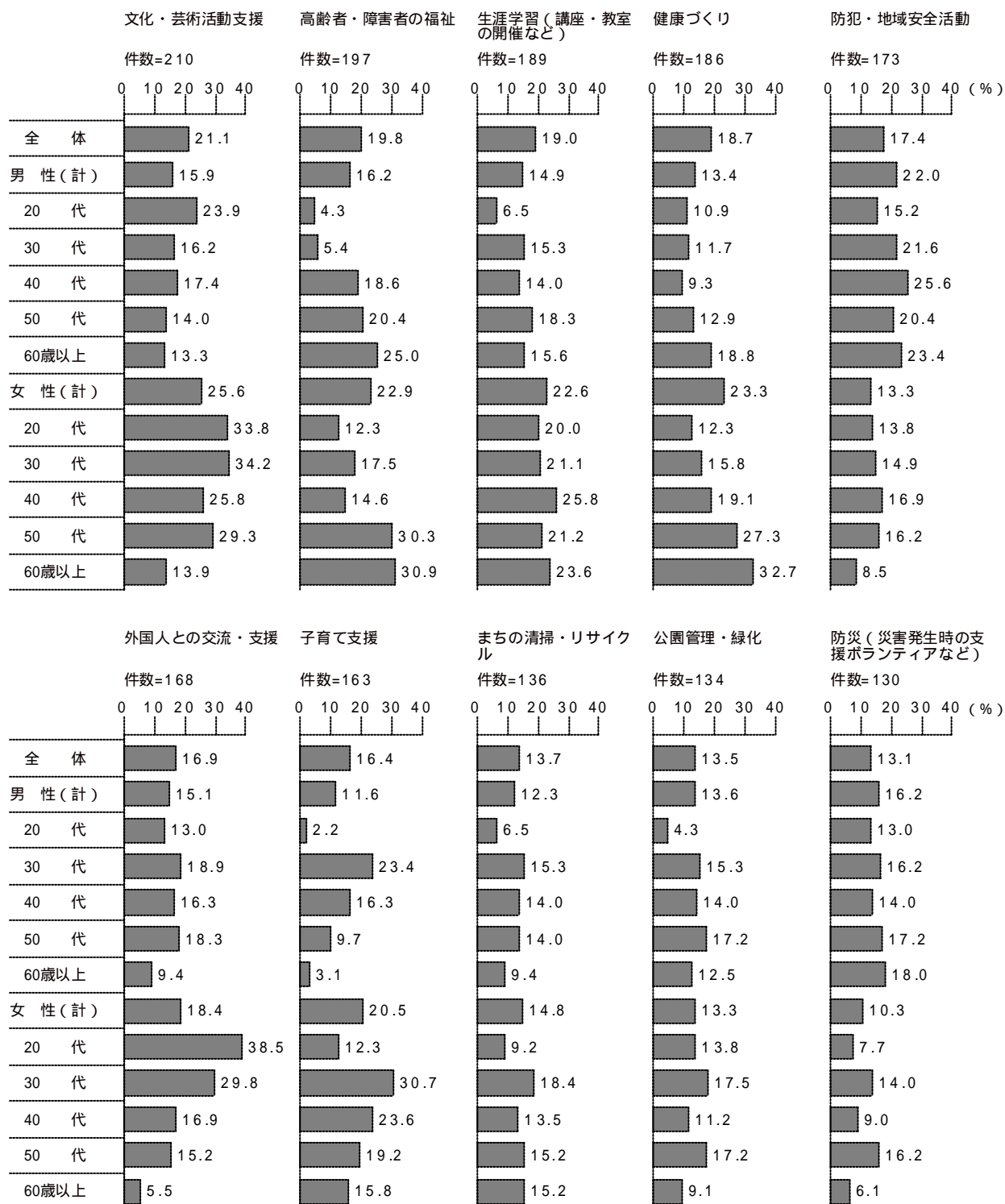
図3-4-1 協働の事業で関心のあるテーマ



性別にみると、ほとんどの項目で女性の方が高く、特に「文化・芸術活動支援」と「健康づくり」で10ポイント、「子育て支援」で9ポイント、「生涯学習（講座・教室の開催など）」で8ポイント高くなっている。一方、男性の方が「防犯・地域安全活動」で9ポイント、「防災（災害発生時の支援ボランティアなど）」で6ポイント高くなっている。

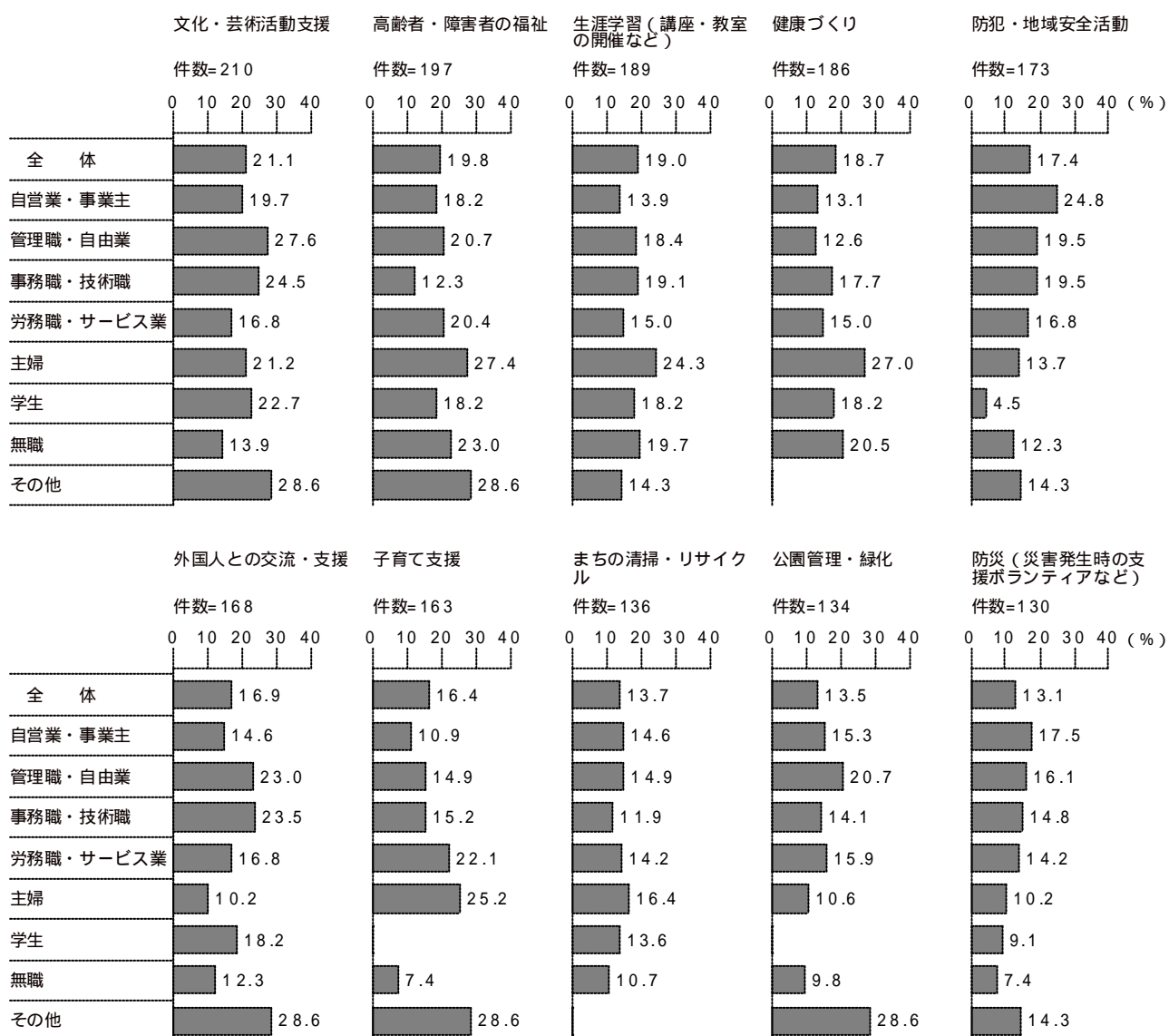
性・年代別にみると、「文化・芸術活動支援」は女性の20代と30代の年代、「高齢者・障害者の福祉」は女性の50代以上の年代で、それぞれで3割以上を占めている。「健康づくり」は男女とも高い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性60歳以上で3割を超える。「外国人との交流・支援」は女性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性20代で4割近くとなっている。「子育て支援」は女性30代でほぼ3割と多くなっている。（図3-4-2）

図3-4-2 協働の事業で関心のあるテーマ - 性・年代別（上位10項目）



職業別にみると、「健康づくり」は主婦で3割近くと多くなっている。(図3-4-3)

図3-4-3 協働の事業で関心のあるテーマ - 職業別(上位10項目)



4 . 安全・安心

-
- 4 - 1 「文京区防災対策条例」の認知度
 - 4 - 2 家庭における防災対策
 - 4 - 3 「文の京安心メール」の認知度
 - 4 - 4 地域の子どもたちとの関わり方
-

4 . 安全・安心

4 - 1 「文京区防災対策条例」の認知度

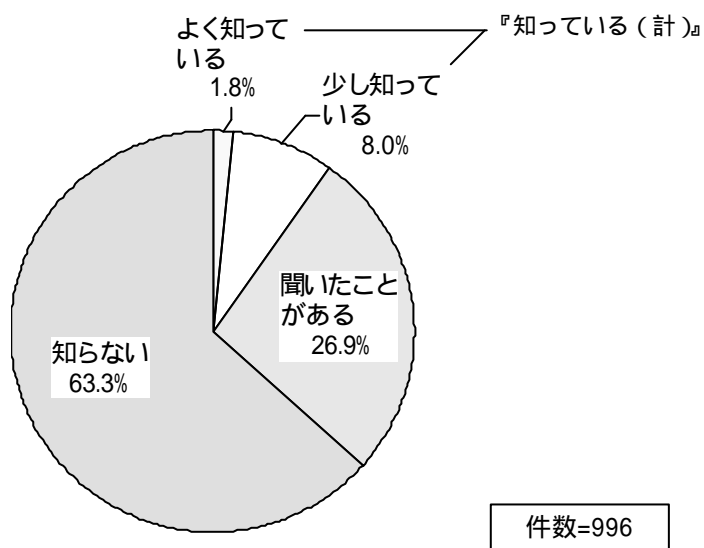
問 13 区では、区民、事業者及び区が、「文の京」自治基本条例の協働・協治の考え方に基づき、災害に強いまちづくりを推進するため、「文京区防災対策条例」を平成 18 年 4 月 1 日より施行しております。あなたは、この条例をご存知ですか。1つお選びください。

(n = 996)

1 . よく知っている	1.8%	3 . 聞いたことがある	26.9%
2 . 少し知っている	8.0%	4 . 知らない	63.3%

「文京区防災対策条例」の認知度について聞いたところ、「よく知っている」(1.8%)と「少し知っている」(8.0%)を合わせた『知っている(計)』が9.8%、「聞いたことがある」(26.9%)が3割近く、「知らない」(63.3%)が6割を超えている。(図4 - 1 - 1)

図 4 - 1 - 1 「文京区防災対策条例」の認知度

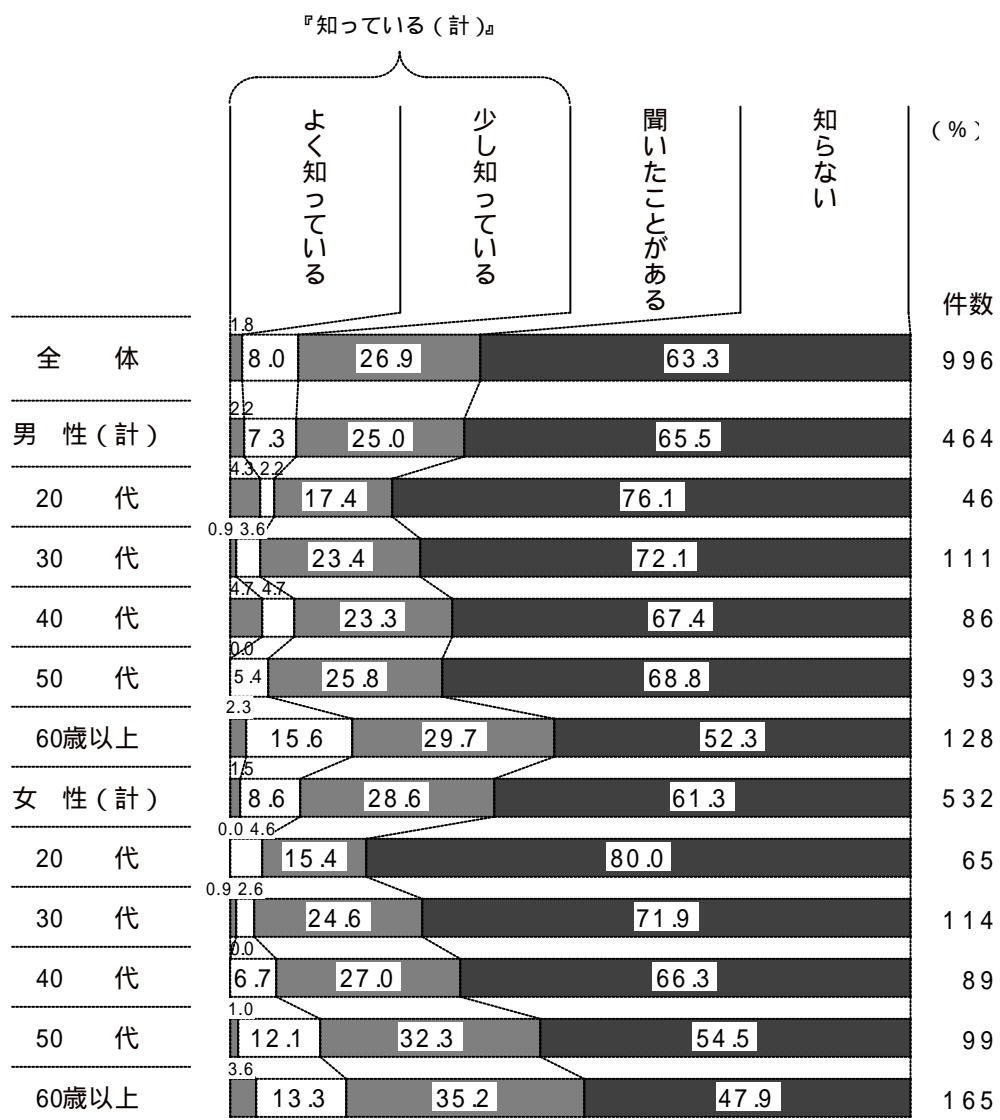


性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別にみると、「聞いたことがある」は女性では高い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性60歳以上で3割半ばとなっている。一方、「知らない」は女性20代で8割と多くなっている。

(図4 - 1 - 2)

図4 - 1 - 2 「文京区防災対策条例」の認知度 - 性・年代別



4 - 2 家庭における防災対策

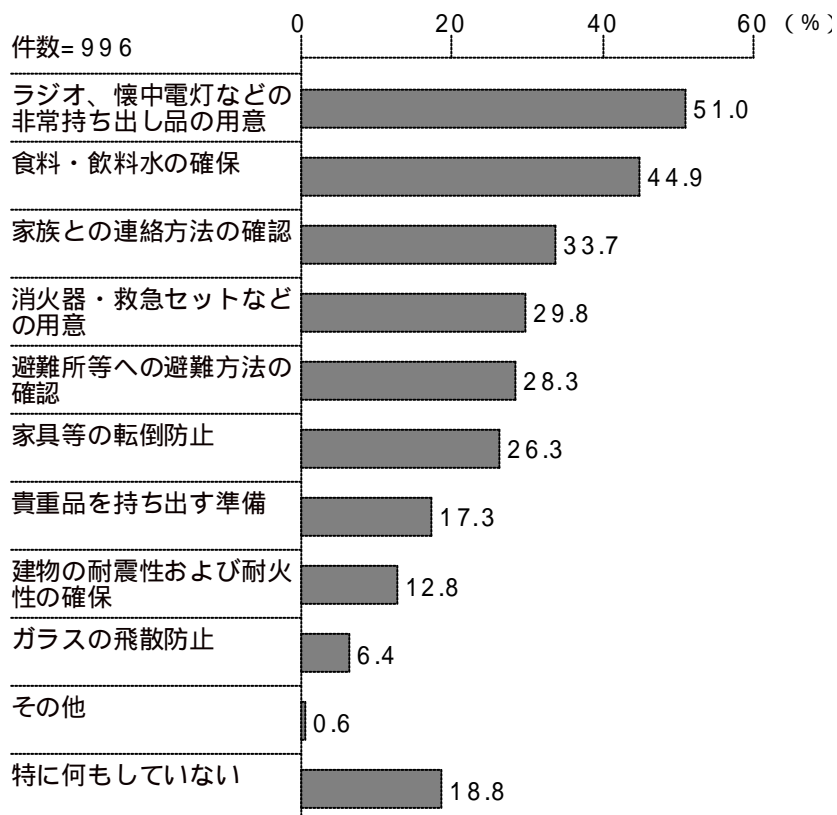
問 14 この条例では、区民の責務として、災害に備える手段を講ずるよう努めなければならないと規定していますが、あなたは、災害に備えて、どのような対策をとっていますか。次の中からいくつでもお選びください。

(n = 996)

1 . 食料・飲料水の確保	44.9%	6 . ガラスの飛散防止	6.4%
2 . 消火器・救急セットなどの用意	29.8%	7 . 建物の耐震性および耐火性の確保	12.8%
3 . ラジオ、懐中電灯などの非常持ち出し品の用意	51.0%	8 . 避難所等への避難方法の確認	28.3%
4 . 貴重品を持ち出す準備	17.3%	9 . 家族との連絡方法の確認	33.7%
5 . 家具等の転倒防止	26.3%	10 . その他	0.6%
		11 . 特に何もしていない	18.8%

家庭における防災対策について聞いたところ、「ラジオ、懐中電灯などの非常持ち出し品の用意」(51.0%)が5割を超え最も多く、次いで「食料・飲料水の確保」(44.9%)、「家族との連絡方法の確認」(33.7%)などの順となっている。(図4-2-1)

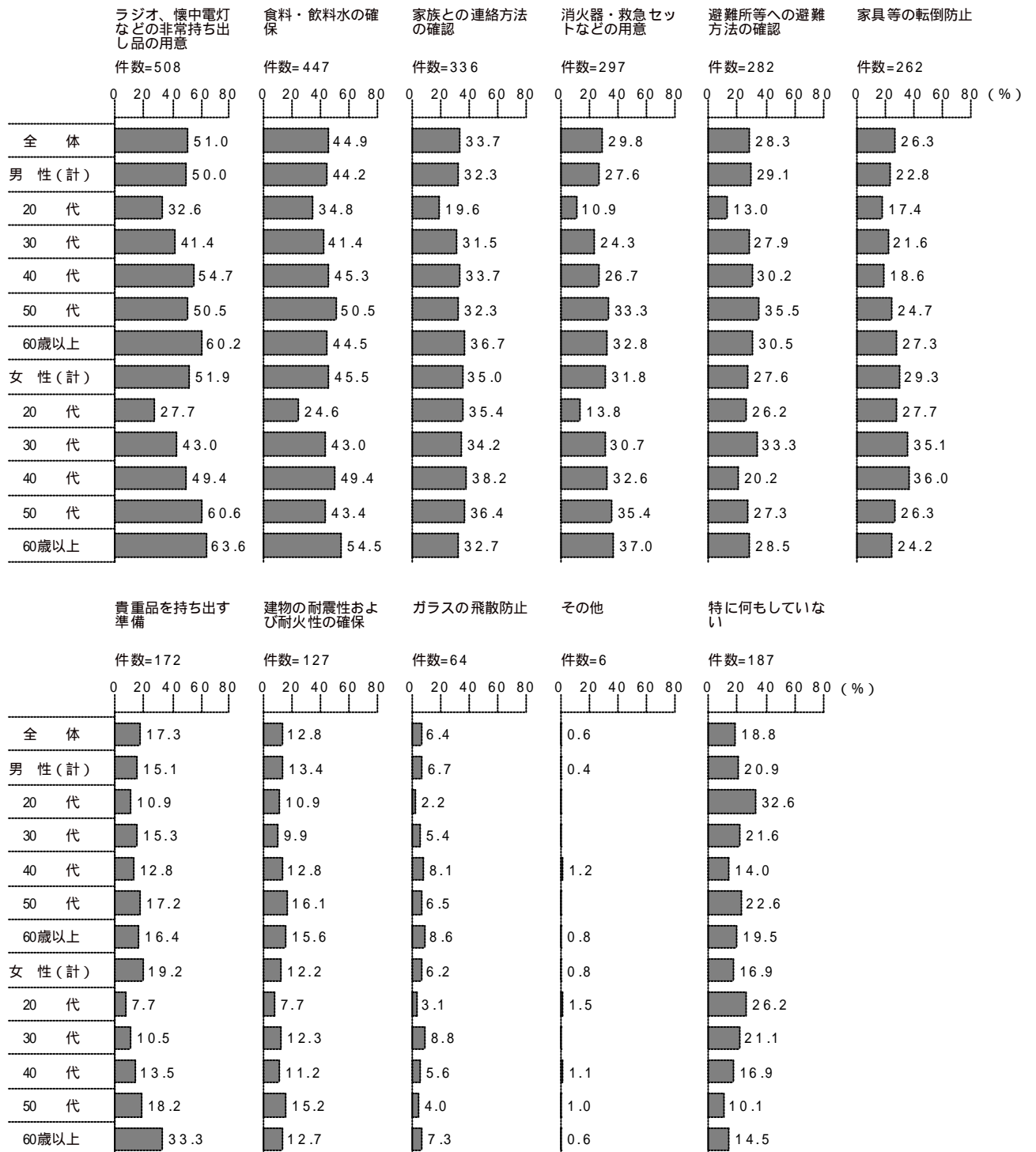
図4-2-1 家庭における防災対策



性別にみると、「家具等の転倒防止」は女性の方が7ポイント高くなっている。

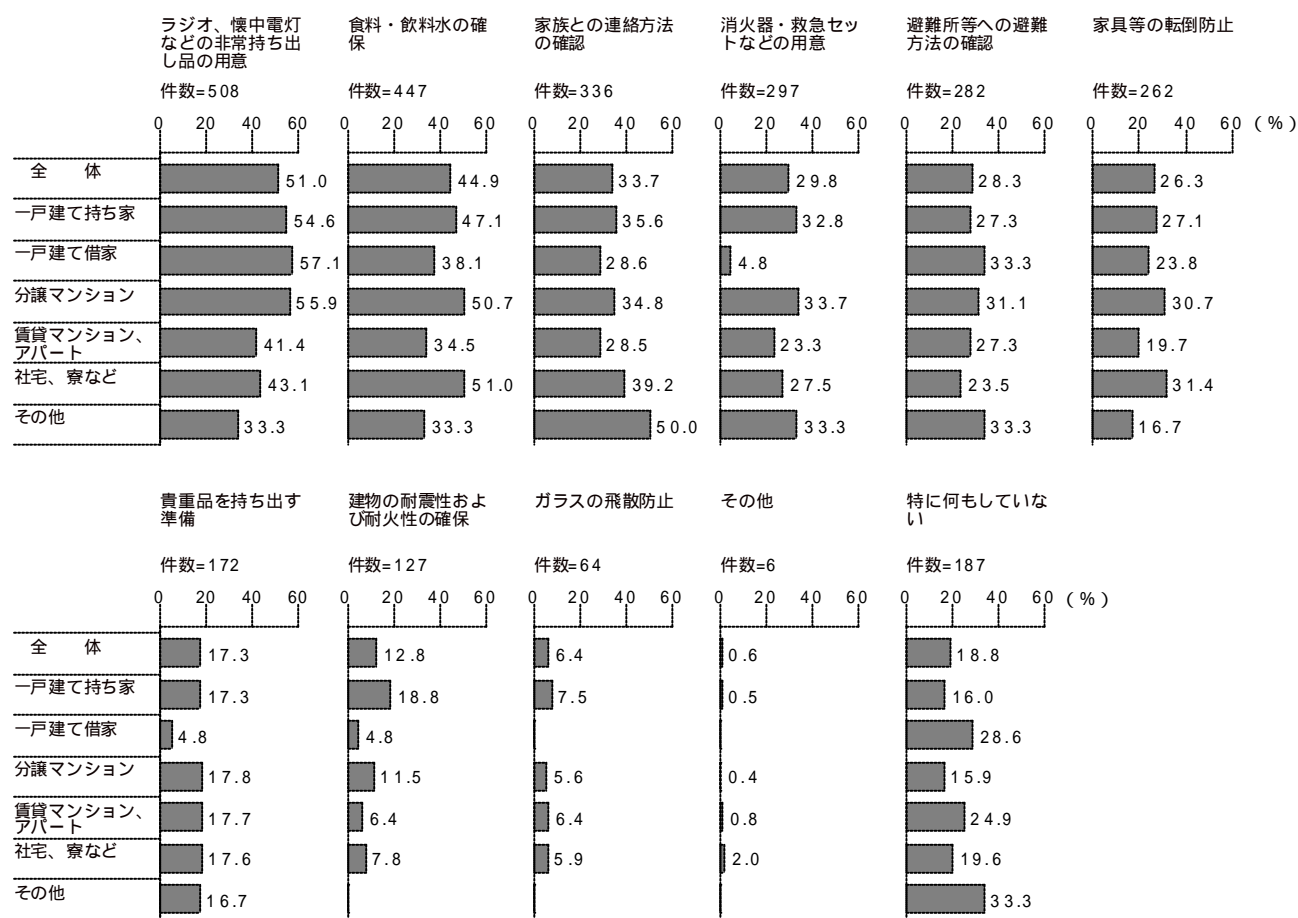
性・年代別にみると、「ラジオ、懐中電灯などの非常持ち出し品の用意」は女性では高い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性の50代以上の年代で6割を超え、「貴重品を持ち出す準備」でも女性では高い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性60歳以上で3割を超えている。「食料・飲料水の確保」は女性60歳以上で5割半ばと多い。一方、「特に何もしていない」は男性20代で3割を超え多くなっている。(図4-2-2)

図4-2-2 家庭における防災対策 - 性・年代別



住居形態別にみると、「ラジオ、懐中電灯などの非常持ち出し品の用意」は一戸建て持ち家、一戸建て借家、分譲マンションで5割以上を占めている。(図4-2-3)

図4-2-3 家庭における防災対策 - 住居形態別



4 - 3 「文の京安心メール」の認知度

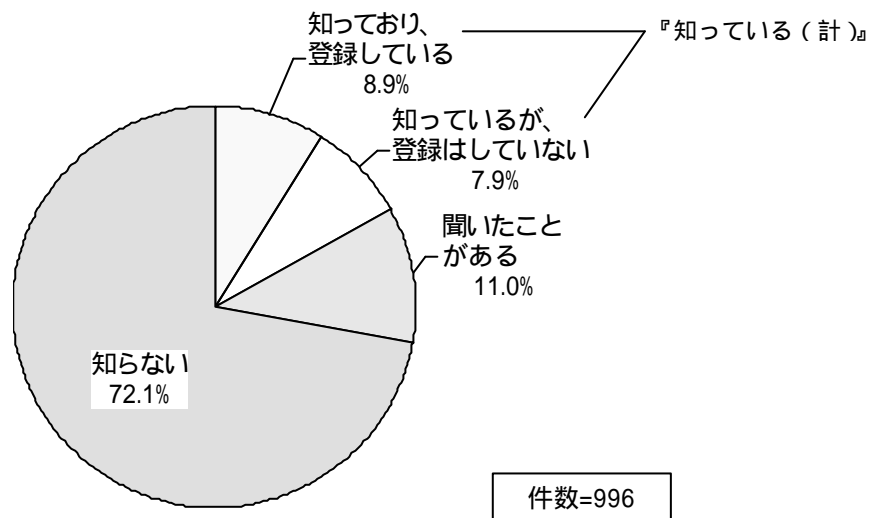
問 15 区では、子どもの安全を図るため、区内の幼稚園、小学校、中学校等（私立学校も含む）に通報している「子どもの安全にかかわる事件等の情報」を携帯電話やパソコンに電子メールで配信する「文の京安心メール」を平成 17 年 9 月 1 日より実施しております。あなたは、この「文の京安心メール」をご存知ですか。1 つお選びください。

(n = 996)

- | | | | |
|---------------------|------|--------------|-------|
| 1 . 知っており、登録している | 8.9% | 3 . 聞いたことがある | 11.0% |
| 2 . 知っているが、登録はしていない | 7.9% | 4 . 知らない | 72.1% |

「文の京安心メール」の認知度について聞いたところ、「知っており、登録している」(8.9%)と「知っているが、登録はしていない」(7.9%)を合わせると『知っている(計)』は16.8%となっている。また、「聞いたことがある」(11.0%)が1割を超え、「知らない」(72.1%)が7割を超えている。(図4 - 3 - 1)

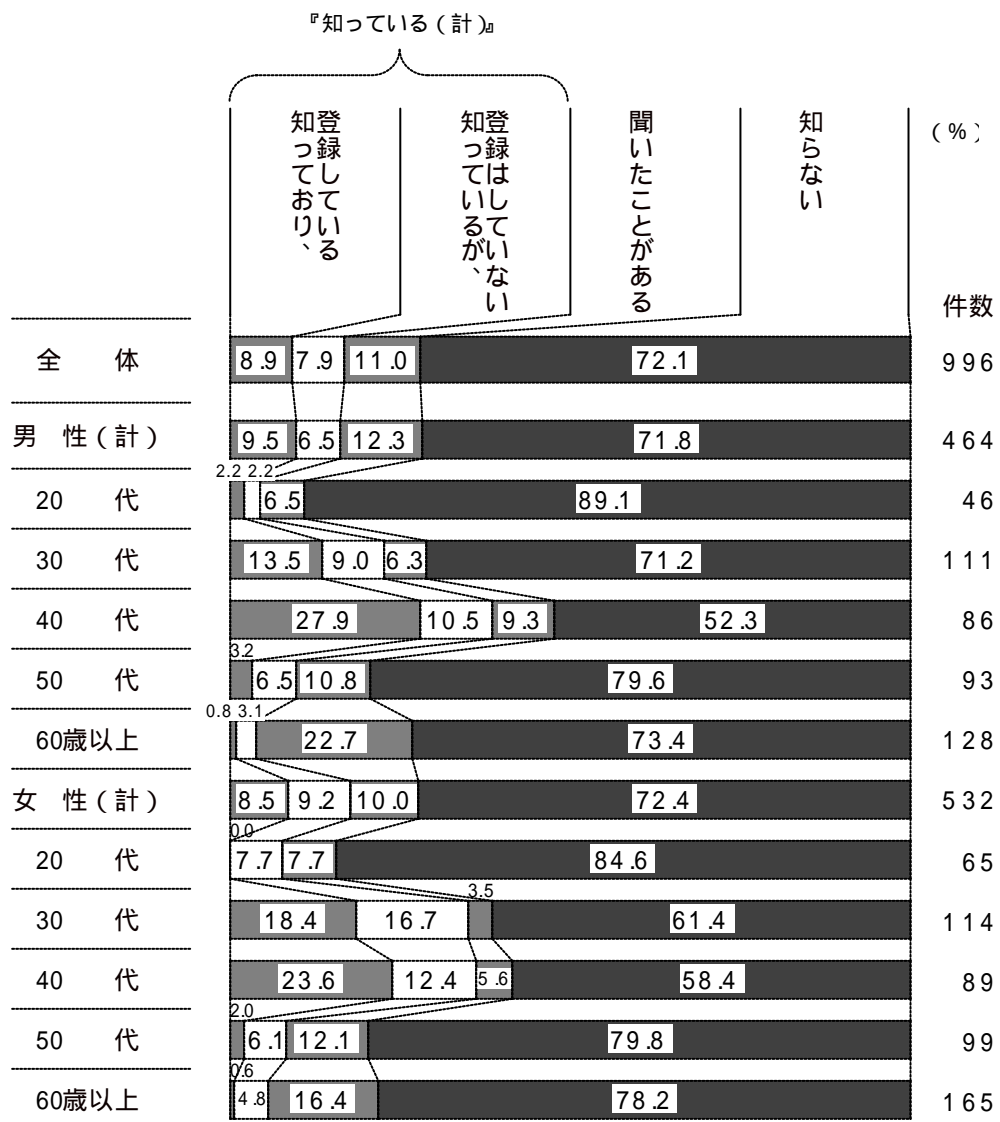
図4 - 3 - 1 「文の京安心メール」の認知度



性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

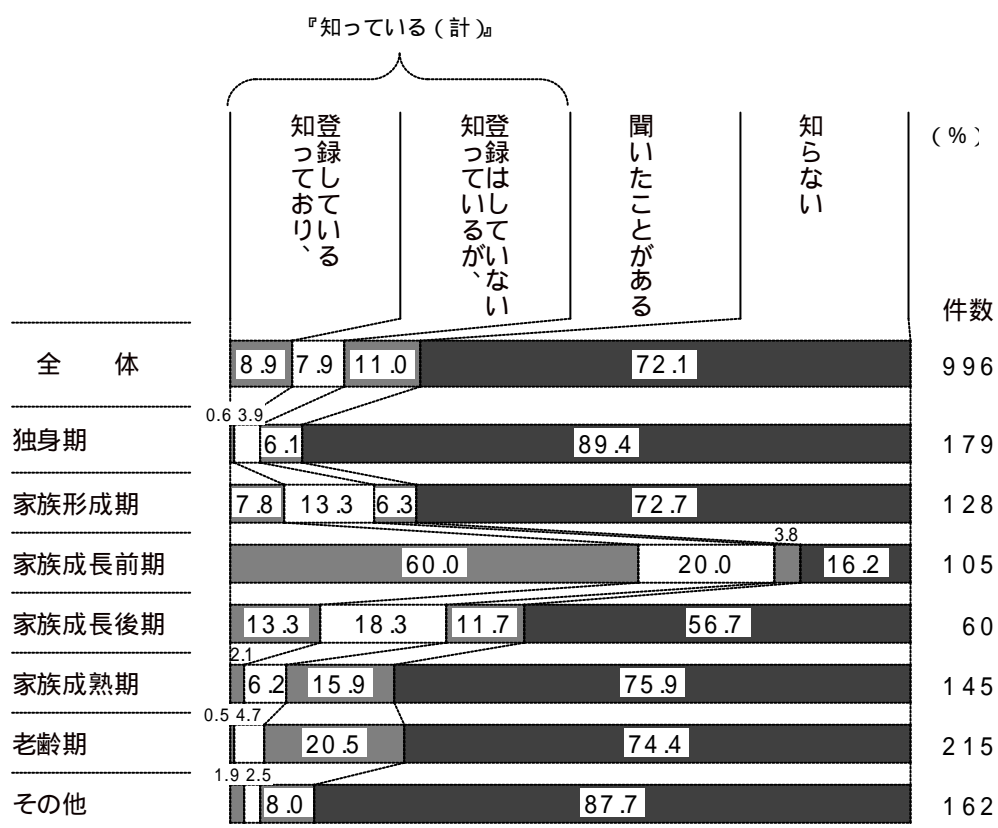
性・年代別にみると、「知っており、登録している」は男女とも30代と40代で多く、40代では2割台、30代では1割台と、他の年代に比べかなり多くなっている。『知っている(計)』も同様に、特に男性40代では4割近くと多くなっている。また、「聞いたことがある」は男性60歳以上で2割を超え多い。一方、「知らない」は男女とも20代で8割以上を占めている。(図4-3-2)

図4-3-2 「文の京安心メール」の認知度 - 性・年代別



ライフステージ別にみると、「知っており、登録している」は家族成長前期では6割と他の年代に比べてとびぬけて多い。「知っているが、登録はしていない」を加えた『知っている(計)』は家族成長前期では8割を占める。また、「知っているが、登録はしていない」は家族成長前期と家族成長後期で2割前後、「聞いたことがある」は老齢期でほぼ2割と多い。一方、「知らない」は独身期でほぼ9割と多くなっている。(図4-3-3)

図4-3-3 「文の京安心メール」の認知度 - ライフステージ別



4 - 4 地域の子どもたちとの関わり方

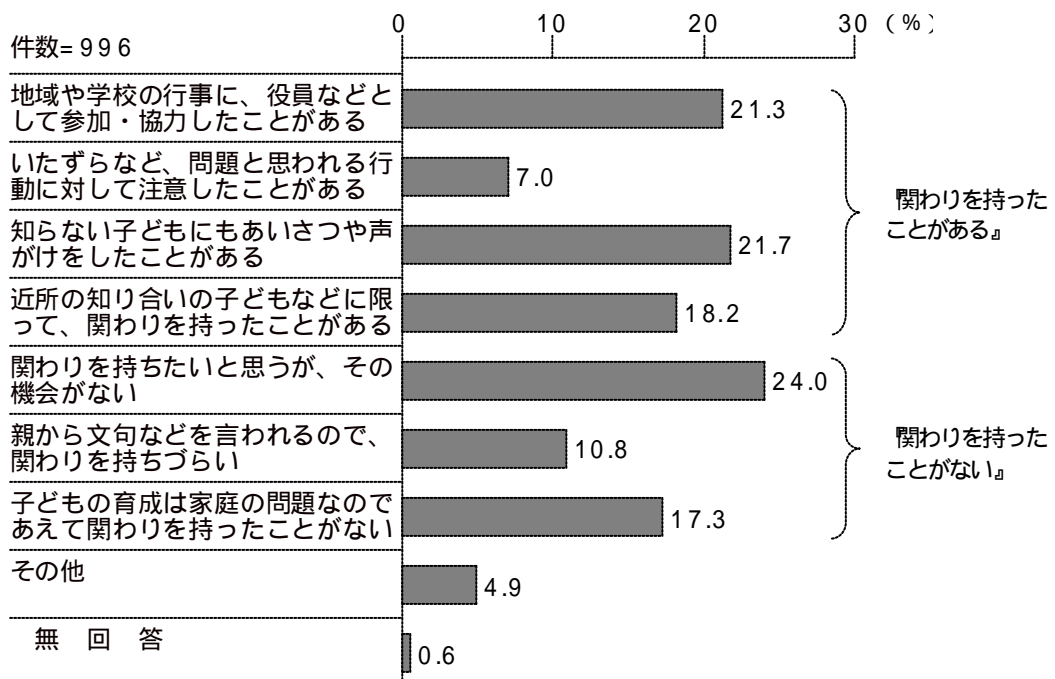
問 16 あなたはこれまでに、地域の子どもたちとどのような関わりを持ったことがありますか。いくつでもお選びください。

(n = 996)

1 . 地域や学校の行事に、役員や運営スタッフとして参加・協力したことがある	21.3%
2 . いたずら・喫煙・深夜徘徊など、問題と思われる行動に対して注意したことがある	7.0%
3 . 知らない子どもにも「おはよう」「こんにちは」などのあいさつや声かけをしたことがある	21.7%
4 . 近所の知り合いの子どもなどに限って、関わりを持ったことがある	18.2%
5 . 関わりを持ちたいと思うが、その機会がない	24.0%
6 . 子どもに声をかけたり注意したりすると、親から文句などと言われるので、関わりを持ちづらい	10.8%
7 . 子どもの育成は家庭の問題なので、あえて関わりを持ったことがない	17.3%
8 . その他	4.9%
無回答	0.6%

地域の子どもたちとの関わり方について聞いたところ、関わりを持ったことがあるものとしては、「地域や学校の行事に、役員や運営スタッフとして参加・協力したことがある」(21.3%)と「知らない子どもにも『おはよう』『こんにちは』などのあいさつや声かけをしたことがある」(21.7%)が2割を超え多くなっている。一方、関わりを持ったことがないものとしては、「関わりを持ちたいと思うが、その機会がない」(24.0%)が2割半ばと多くなっている。(図4 - 4 - 1)

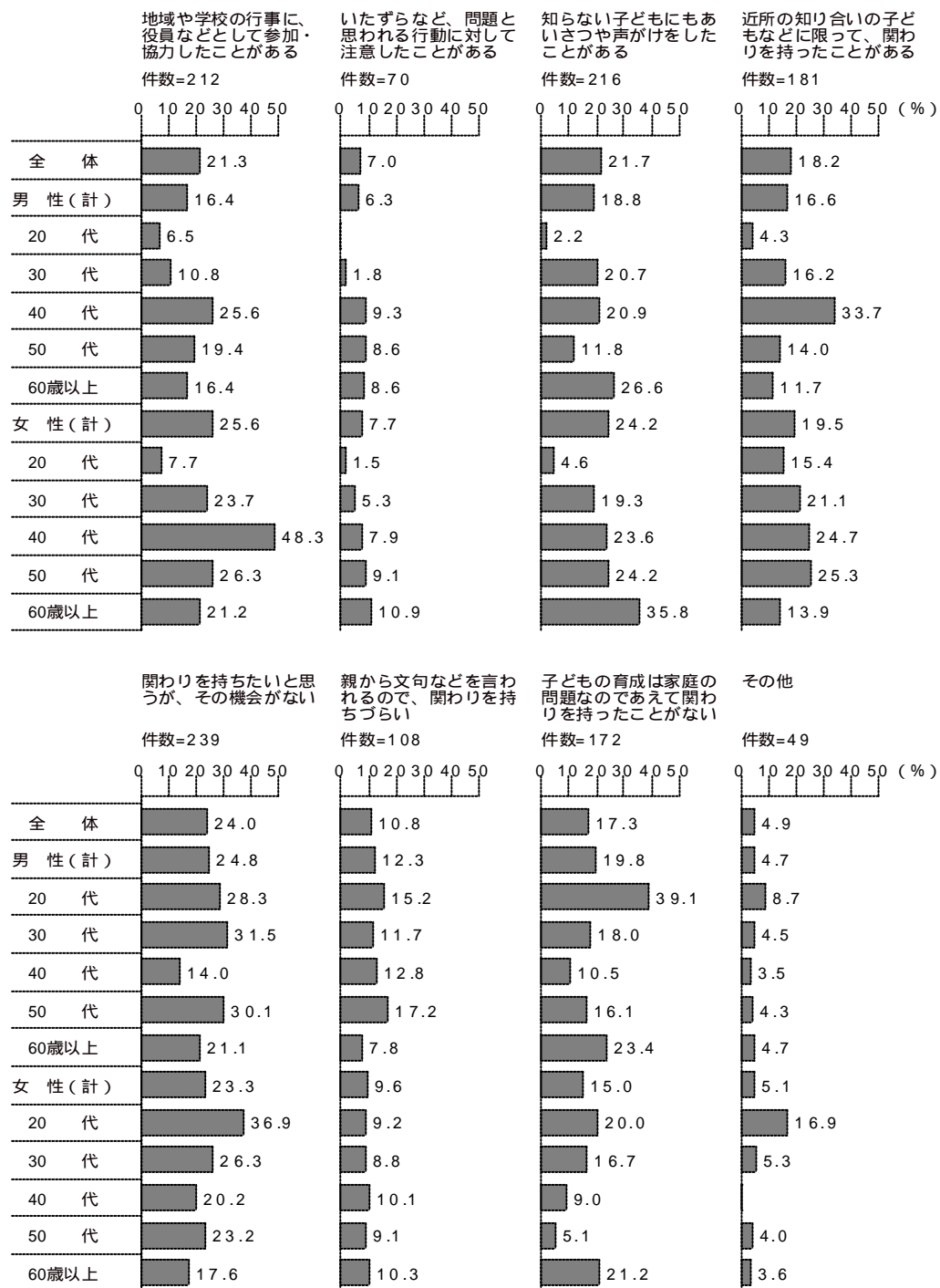
図4 - 4 - 1 地域の子どもたちとの関わり方



性別にみると、女性の方が「地域や学校の行事に、役員や運営スタッフとして参加・協力したことがある」で9ポイント、「知らない子どもにも『おはよう』『こんにちは』などのあいさつや声かけをしたことがある」で5ポイント高くなっている。一方、「子どもの育成は家庭の問題なので、あえて関わりを持ったことがない」は男性の方が5ポイント高くなっている。

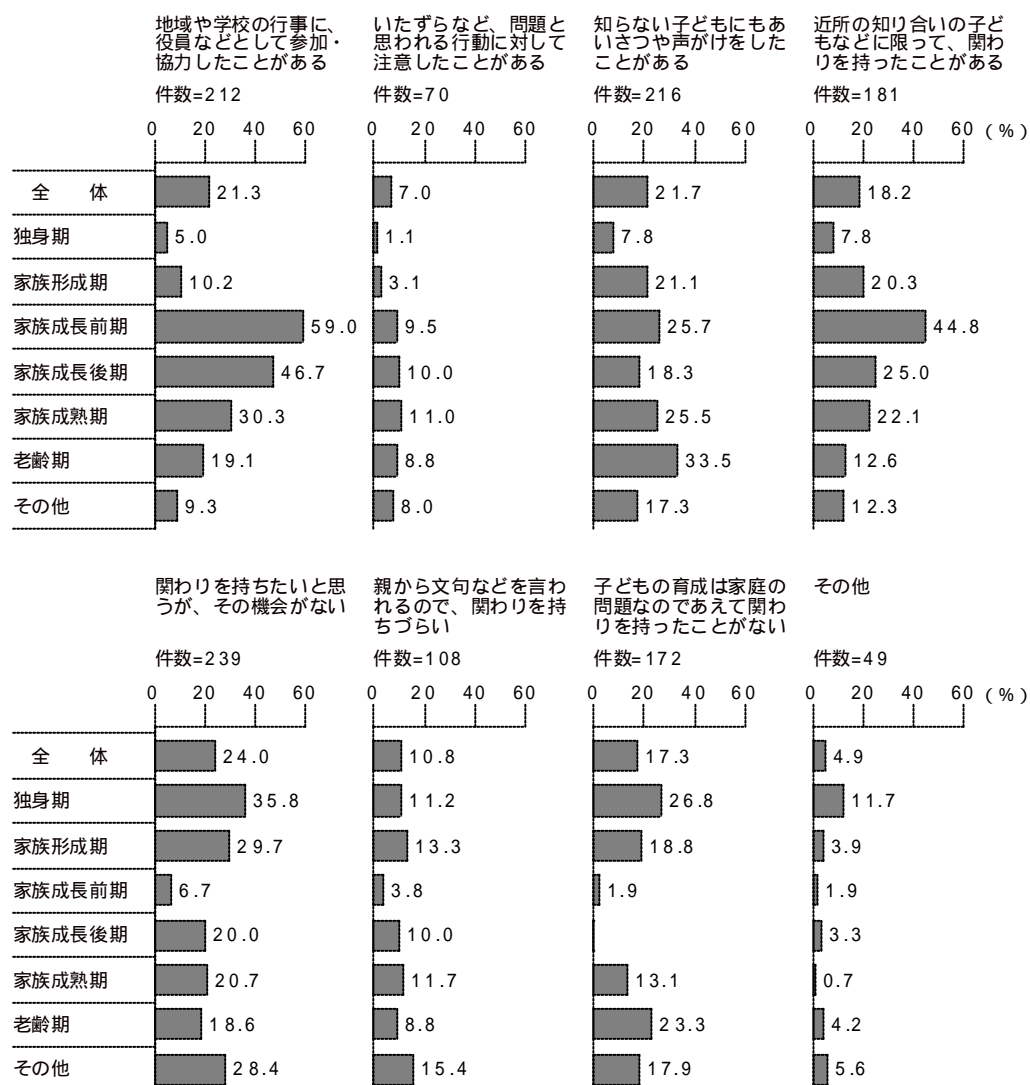
性・年代別にみると、「地域や学校の行事に、役員や運営スタッフとして参加・協力したことがある」は女性40代で5割近くと多い。「知らない子どもにも『おはよう』『こんにちは』などのあいさつや声かけをしたことがある」は女性では高い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性60歳以上で3割半ばとなっている。「近所の知り合いの子どもなどに限って、関わりを持ったことがある」は男性40代で3割を超えている。また、「関わりを持ちたいと思うが、その機会がない」は女性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性20代で4割近くとなっている。「子どもの育成は家庭の問題なので、あえて関わりを持ったことがない」は男性20代でほぼ4割と多くなっている。(図4-4-2)

図4-4-2 地域の子どもたちとの関わり方 - 性・年代別



ライフステージ別にみると、「地域や学校の行事に、役員や運営スタッフとして参加・協力したことがある」は家族成長前期と家族成長後期で4割半ばから6割近くを占めている。「知らない子どもにも『おはよう』『こんにちは』などのあいさつや声かけをしたことがある」は老齢期で3割を超え、「近所の知り合いの子どもなどに限って、関わりを持ったことがある」は家族成長前期で4割半ばと多い。また、「関わりを持ちたいと思うが、その機会がない」は独身期で3割半ばと多くなっている。(図4-4-3)

図4-4-3 地域の子もたちとの関わり方 - ライフステージ別



5 . 町会 ・ 自治会

-
- 5 - 1 町会 ・ 自治会への加入状況
 - 5 - 2 町会 ・ 自治会活動への参加意向
 - 5 - 3 町会 ・ 自治会に期待すること
-

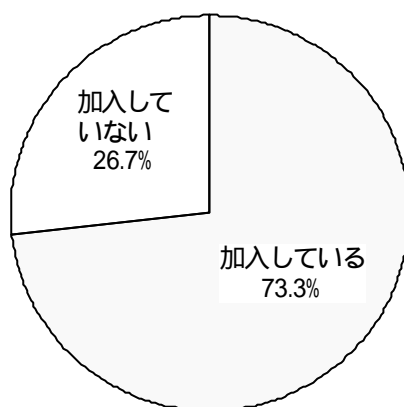
5 . 町会 ・ 自治会

5 - 1 町会 ・ 自治会への加入状況

問 17 あなたの世帯は、町会や自治会に加入していますか。			
(n = 996)			
1 . 加入している	73.3%	2 . 加入していない	26.7%

町会 ・ 自治会への加入状況について聞いたところ、「加入している」(73.3%) が7割を超え、ほぼ4人に3人が加入している。(図5 - 1 - 1)

図5 - 1 - 1 町会 ・ 自治会への加入状況

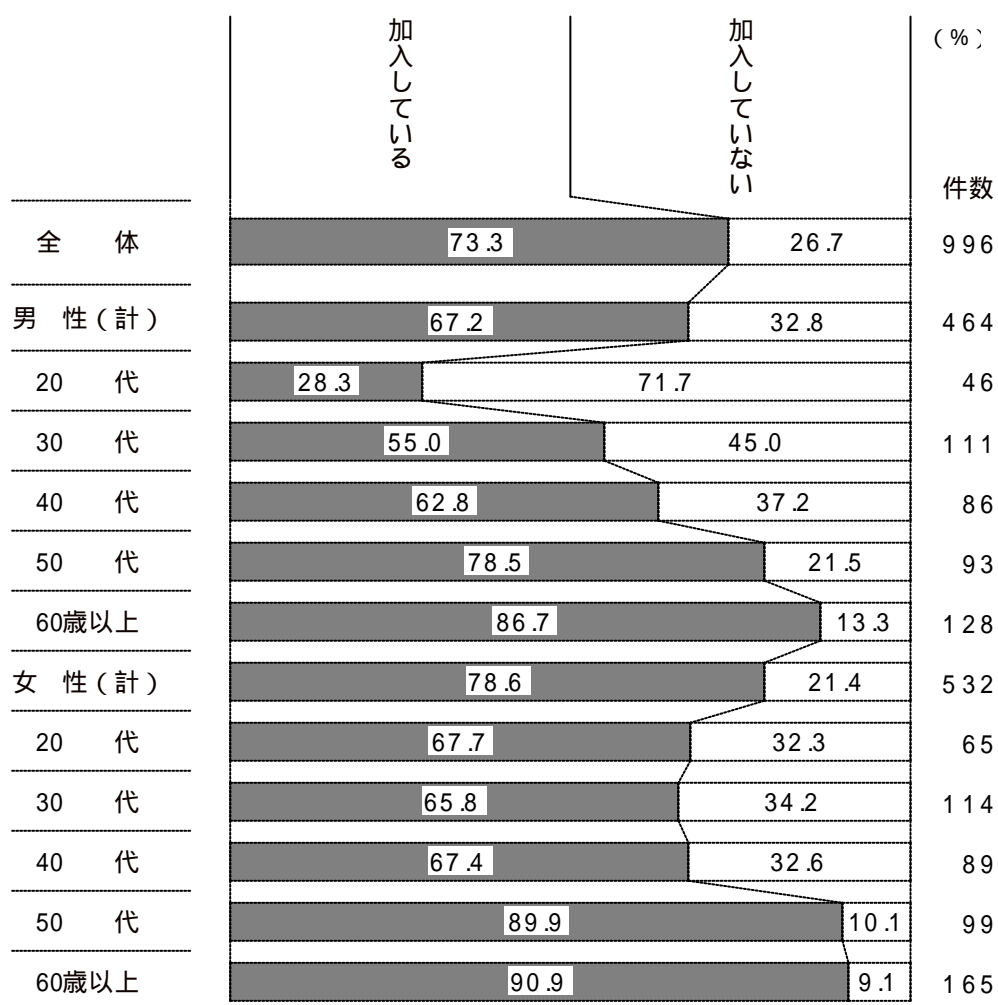


件数=996

性別にみると、「加入している」は女性の方が11ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「加入している」は男性では高い年代ほど割合が高い傾向にあり、また男性60歳以上と女性の50代以上の年代で9割前後を占めている。(図5-1-2)

図5-1-2 町会・自治会への加入状況 - 性・年代別



5 - 2 町会・自治会活動への参加意向

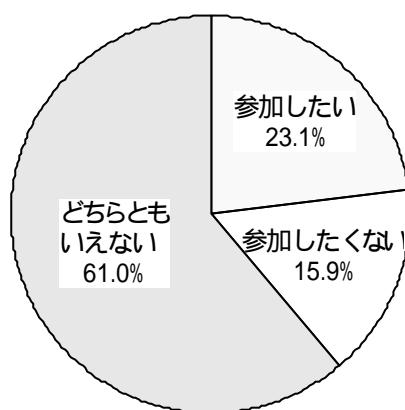
問 18 あなたは、今後、町会や自治会活動に参加したいと思いますか。1つお選びください。

(n = 996)

1 . 参加したい 23.1% 2 . 参加したくない 15.9% 3 . どちらともいえない 61.0%

町会・自治会活動への参加意向について聞いたところ、「参加したい」(23.1%)が2割を超え、「参加したくない」(15.9%)が1割半ばとなっている。また、「どちらともいえない」(61.0%)が6割を超えている。(図5 - 2 - 1)

図5 - 2 - 1 町会・自治会活動への参加意向

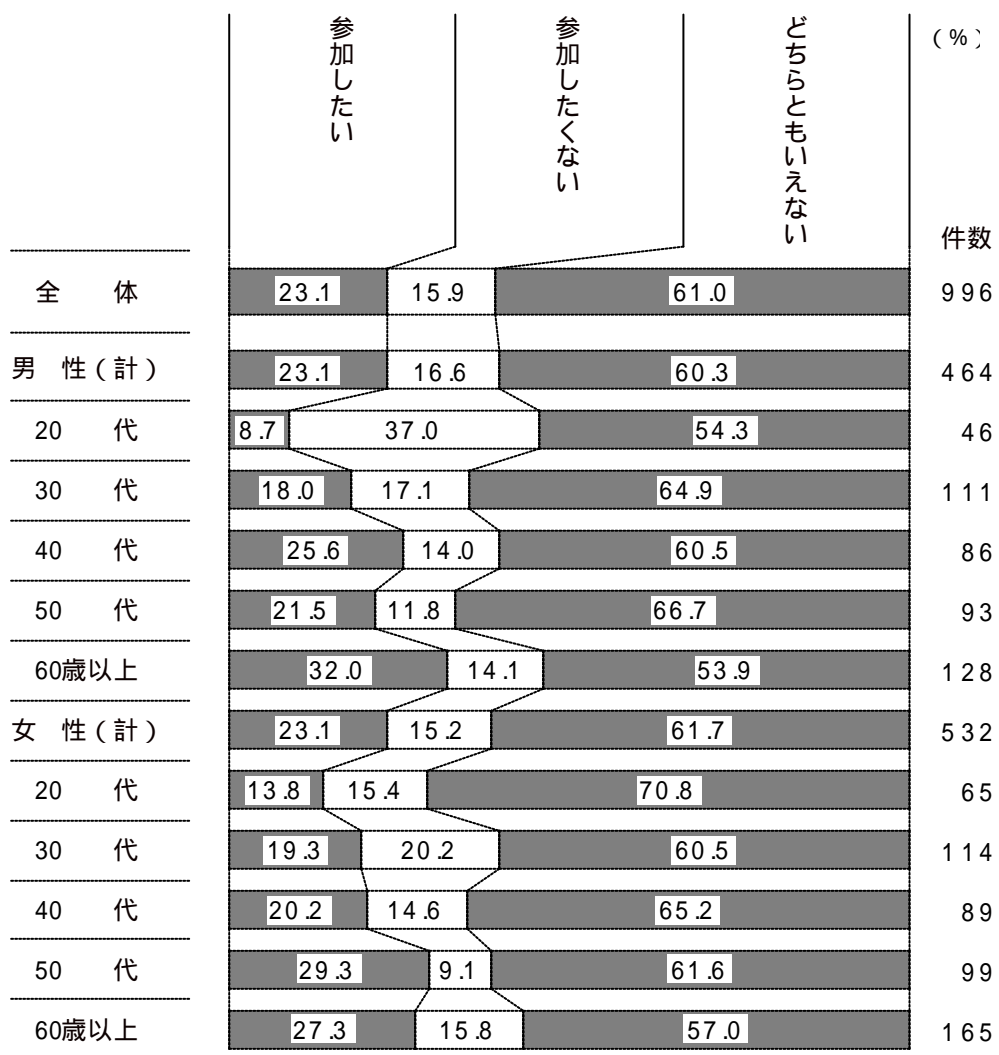


件数=996

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別にみると、「参加したい」は男女とも高い年代ほど割合が高い傾向にあり、特に男性60歳以上で3割を超えている。また、「参加したくない」は男性20代で4割近く、「どちらともいえない」は女性20代でほぼ7割と多くなっている。(図5-2-2)

図5-2-2 町会・自治会活動への参加意向 - 性・年代別



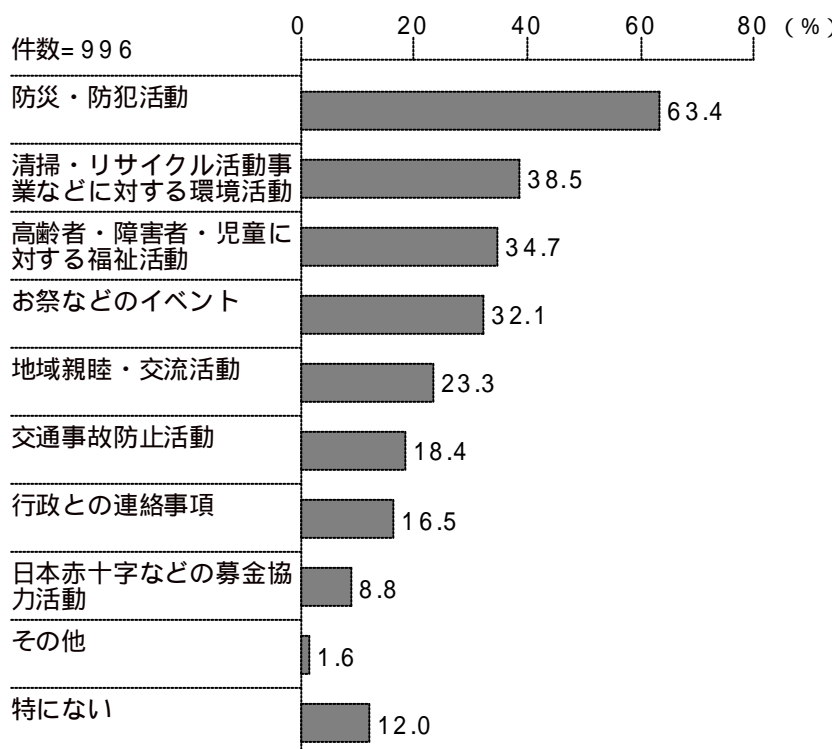
5 - 3 町会・自治会に期待すること

問 19 町会・自治会に期待する内容はどのようなことですか。いくつでもお選びください。	
	(n = 996)
1 . 防災・防犯活動	63.4%
2 . 交通事故防止活動	18.4%
3 . 清掃・リサイクル活動事業などに対する環境活動	38.5%
4 . お祭などのイベント	32.1%
5 . 地域親睦・交流活動	23.3%
6 . 高齢者・障害者・児童に対する福祉活動	34.7%
7 . 行政との連絡事項	16.5%
8 . 日本赤十字などの募金協力活動	8.8%
9 . その他	1.6%
10 . 特にない	12.0%

町会・自治会に期待することについて聞いたところ、「防災・防犯活動」(63.4%)が6割を超えとびぬけて多く、次いで「清掃・リサイクル活動事業などに対する環境活動」(38.5%)、「高齢者・障害者・児童に対する福祉活動」(34.7%)、「お祭などのイベント」(32.1%)などの順となっている。

(図 5 - 3 - 1)

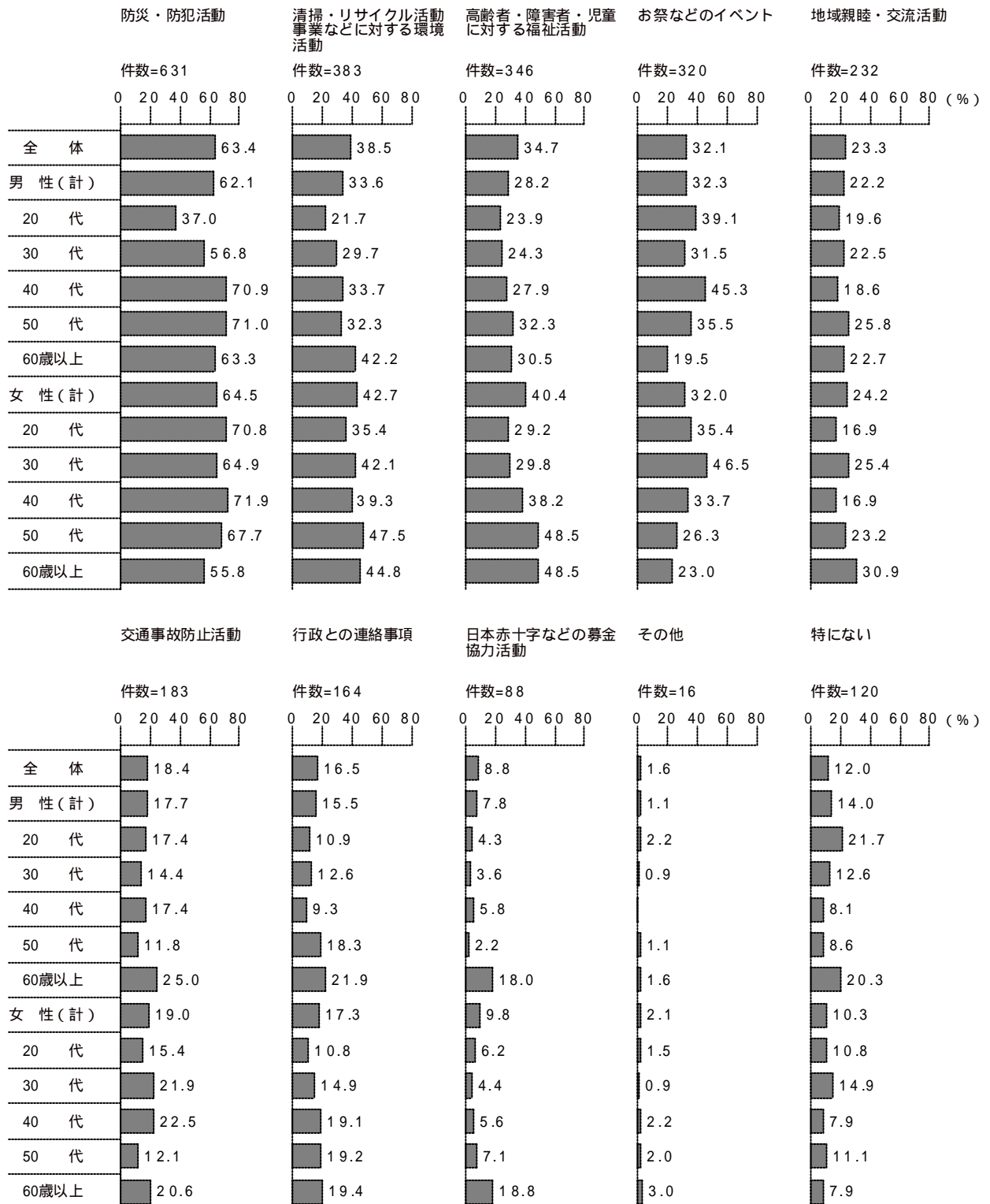
図 5 - 3 - 1 町会・自治会に期待すること



性別にみると、女性の方が「高齢者・障害者・児童に対する福祉活動」で12ポイント、「清掃・リサイクル活動事業などに対する環境活動」で9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「清掃・リサイクル活動事業などに対する環境活動」は男性では高い年代ほど割合が高い傾向にある。「高齢者・障害者・児童に対する福祉活動」は男女とも高い年代ほど割合が高い傾向にあり、特に女性の50代以上の年代で5割近くとなっている。「お祭などのイベント」は男性40代と女性30代で4割以上を占め、「日本赤十字などの募金協力活動」は男女とも60歳以上で2割近くと多くなっている。(図5-3-2)

図5-3-2 町会・自治会に期待すること - 性・年代別



6 . 子育て支援

-
- 6 - 1 少子化が進んでいる原因
 - 6 - 2 子育て支援のために取り組むべき施策
 - 6 - 3 子育て支援サービスの認知度・利用経験・利用意向
-

6 . 子育て支援

6 - 1 少子化が進んでいる原因

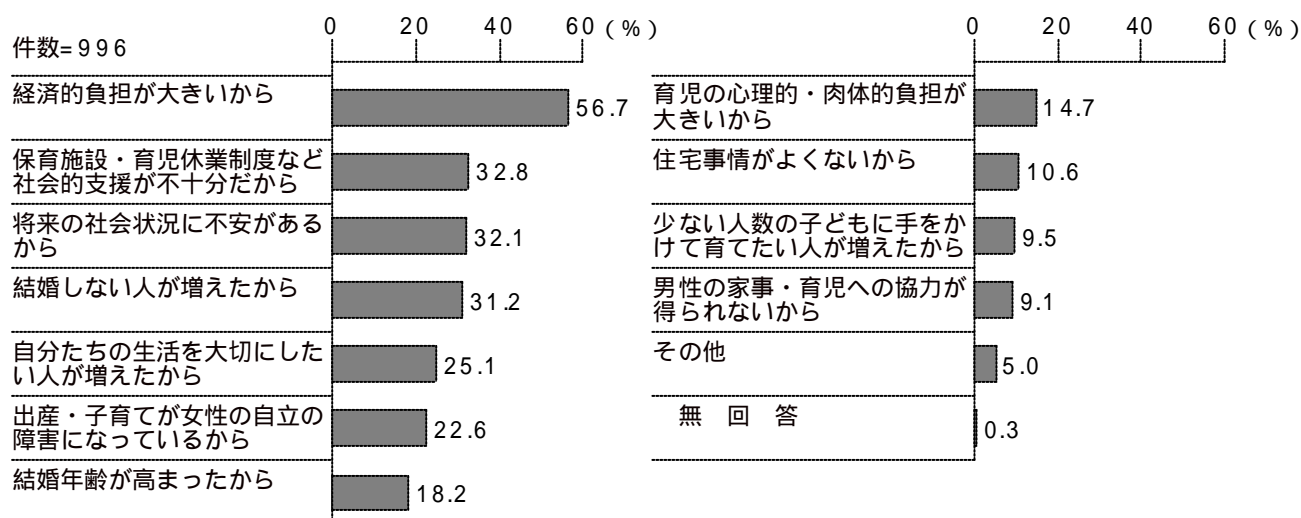
問 20 最近、生まれてくる子どもの数が減っています。それはなぜだと思いますか。3つ以内でお選びください。

(n = 996)

1 . 経済的負担が大きいから	56.7%
2 . 自分たちの生活を大切にしたい人が増えたから	25.1%
3 . 将来の社会状況に不安があるから	32.1%
4 . 結婚しない人が増えたから	31.2%
5 . 結婚年齢が高まったから	18.2%
6 . 出産・子育てが女性の自立の障害になっているから	22.6%
7 . 育児の心理的・肉体的負担が大きいから	14.7%
8 . 保育施設・育児休業制度など社会的支援が不十分だから	32.8%
9 . 住宅事情がよくないから	10.6%
10 . 少ない人数の子どもに手をかけて育てたい人が増えたから	9.5%
11 . 男性の家事・育児への協力が得られないから	9.1%
12 . その他	5.0%
無回答	0.3%

少子化が進んでいる原因について聞いたところ、「経済的負担が大きいから」(56.7%)が6割近くと最も多く、次いで「保育施設・育児休業制度など社会的支援が不十分だから」(32.8%)、「将来の社会状況に不安があるから」(32.1%)、「結婚しない人が増えたから」(31.2%)などの順となっている。(図6-1-1)

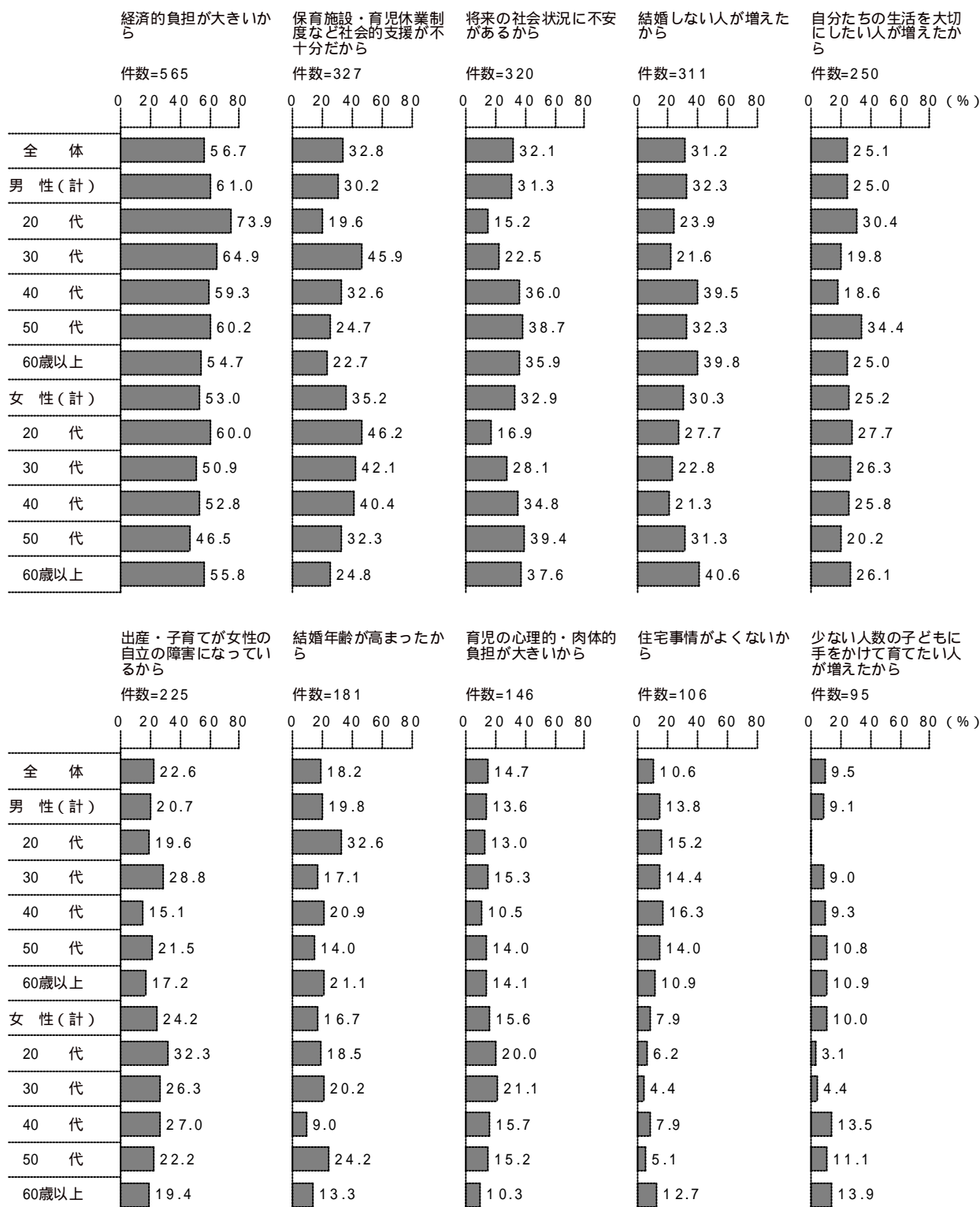
図 6 - 1 - 1 少子化が進んでいる原因



性別にみると、男性では「経済的負担が大きいから」で8ポイント、「住宅事情がよくないから」で6ポイント高い。一方、「保育施設・育児休業制度など社会的支援が不十分だから」は女性の方が5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「経済的負担が大きいから」は男性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性20代で7割を超えている。「保育施設・育児休業制度など社会的支援が不十分だから」は女性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、また男性30代と女性20代で4割半ばとなっている。「出産・子育てが女性の自立の障害になっているから」は女性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性20代で3割を超えている。(図6-1-2)

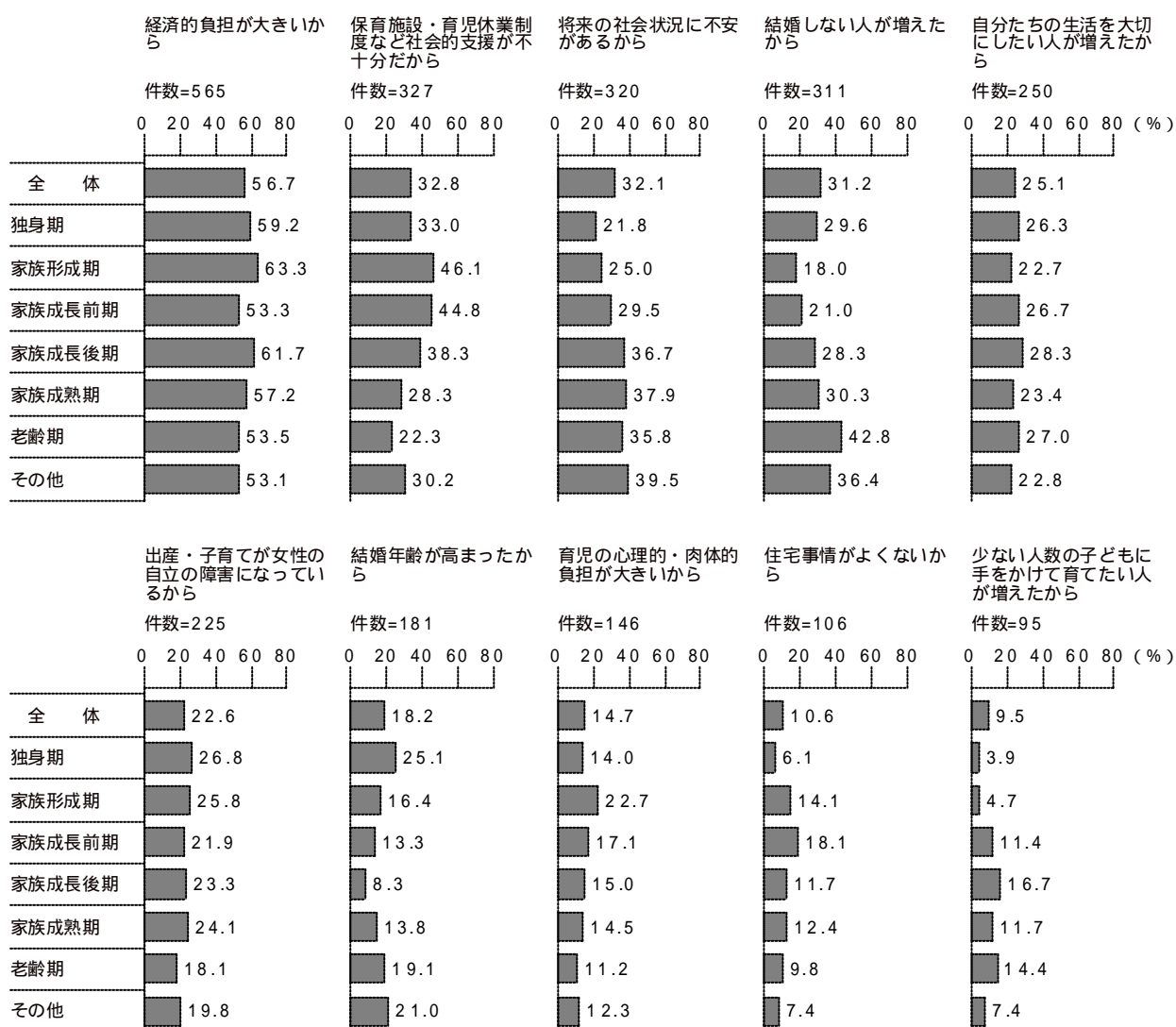
図6-1-2 少子化が進んでいる原因 - 性・年代別(上位10項目)



ライフステージ別に見ると、「保育施設・育児休業制度など社会的支援が不十分だから」は家族形成期と家族成長前期で4割半ば、「結婚しない人が増えたから」は老齢期で4割を超え多くなっている。

(図6-1-3)

図6-1-3 少子化が進んでいる原因 - ライフステージ別 (上位10項目)



6 - 2 子育て支援のために取り組むべき施策

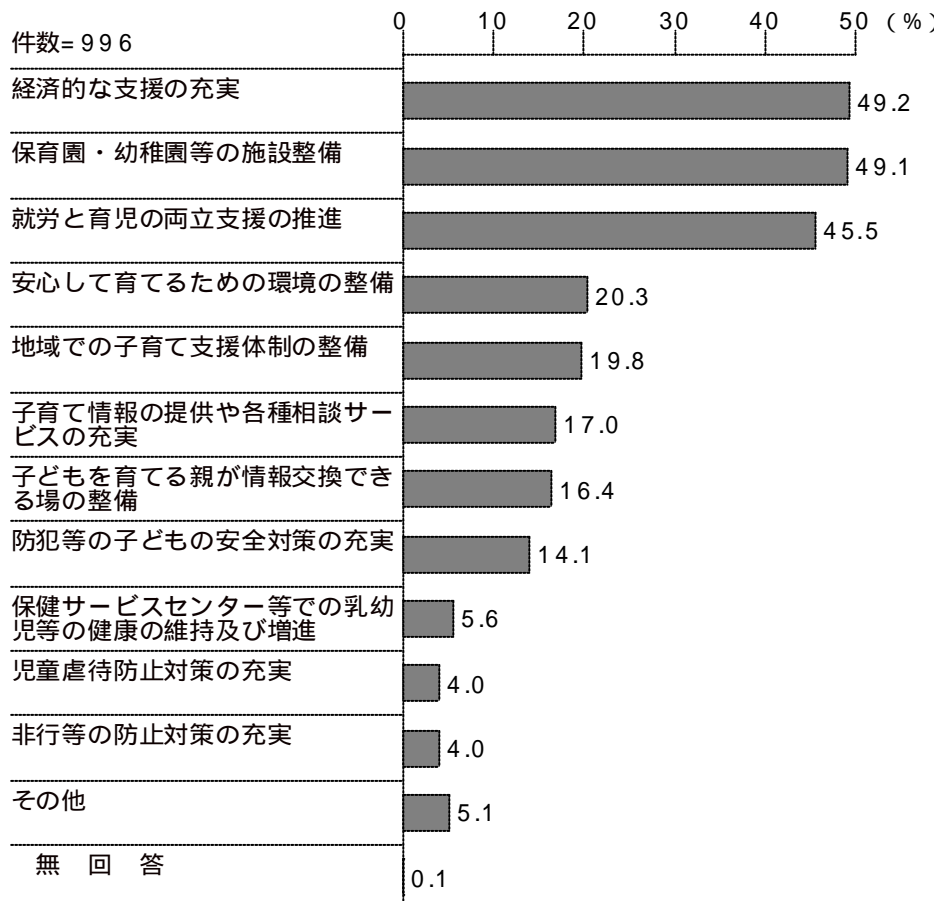
問 21 少子化への対応として、区はどのような施策をすべきでしょうか。3つ以内で選びください。

	(n = 996)
1. 保育園・幼稚園等の施設整備	49.1%
2. 安心して育てるための環境の整備（道路の段差解消、公園整備など）	20.3%
3. 子どもを育てる親が情報交換できる場の整備	16.4%
4. 子育て情報の提供や各種相談サービスの充実	17.0%
5. 保健サービスセンター等での乳幼児等の健康の維持及び増進	5.6%
6. 経済的な支援の充実	49.2%
7. 就労と育児の両立支援の推進（職場での育児休暇制度の充実、一時保育等）	45.5%
8. 児童虐待防止対策の充実	4.0%
9. 防犯等の子どもの安全対策の充実	14.1%
10. 非行等の防止対策の充実	4.0%
11. 地域での子育て支援体制の整備	19.8%
12. その他	5.1%
無回答	0.1%

子育て支援のために取り組むべき施策について聞いたところ、「経済的な支援の充実」(49.2%)と「保育園・幼稚園等の施設整備」(49.1%)がともにほぼ5割と多く、「就労と育児の両立支援の推進（職場での育児休暇制度の充実、一時保育等）」(45.5%)が4割半ばと3項目が多くなっている。

(図 6 - 2 - 1)

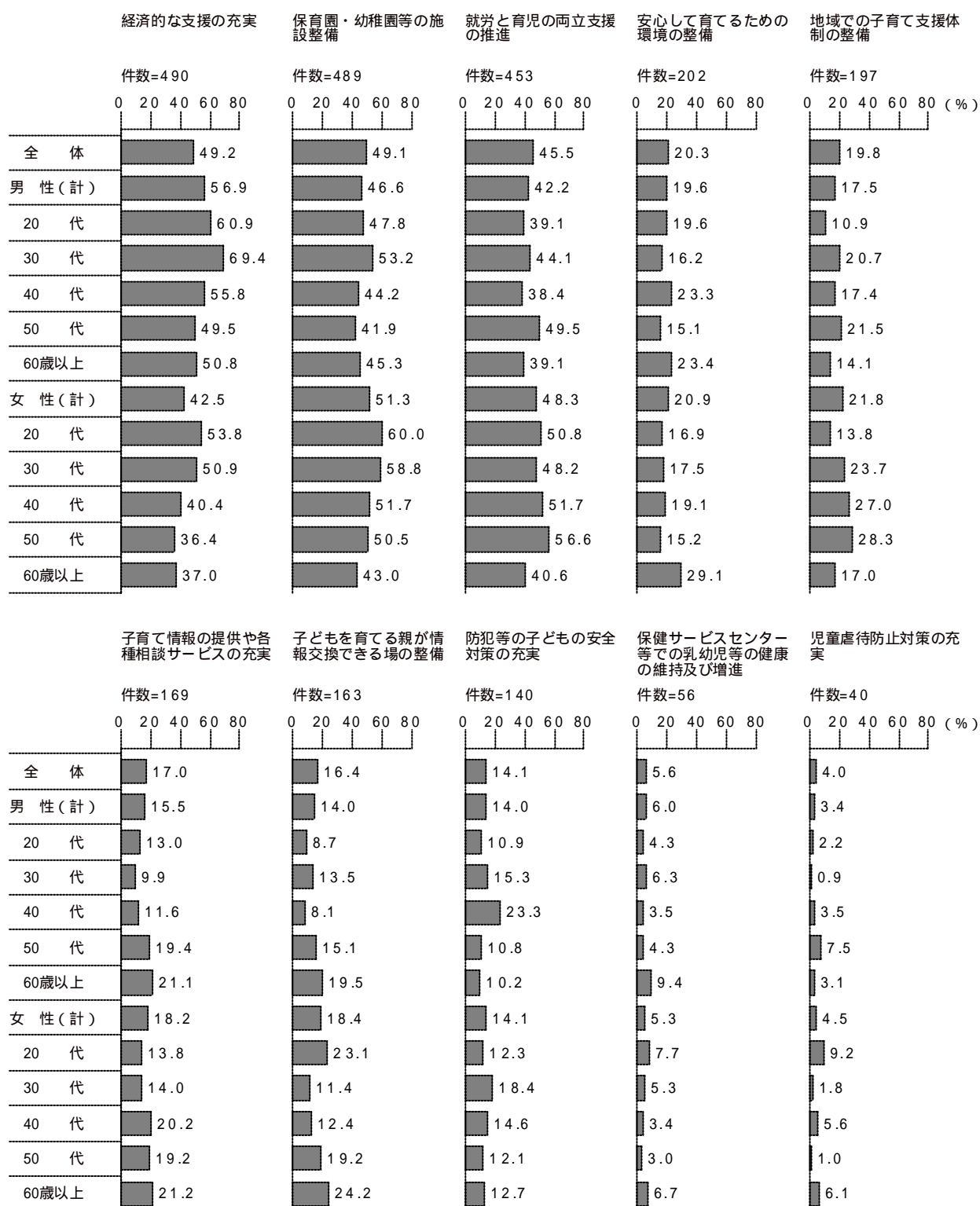
図 6 - 2 - 1 子育て支援のために取り組むべき施策



性別にみると、「経済的な支援の充実」は男性の方が14ポイント高い。一方、女性では「就労と育児の両立支援の推進（職場での育児休暇制度の充実、一時保育等）」で6ポイント、「保育園・幼稚園等の施設整備」で5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「経済的な支援の充実」は男女とも低い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性30代ではほぼ7割となっている。「保育園・幼稚園等の施設整備」は女性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性20代で6割を占める。「就労と育児の両立支援の推進（職場での育児休暇制度の充実、一時保育等）」は女性50代で6割近くと多くなっている。（図6-2-2）

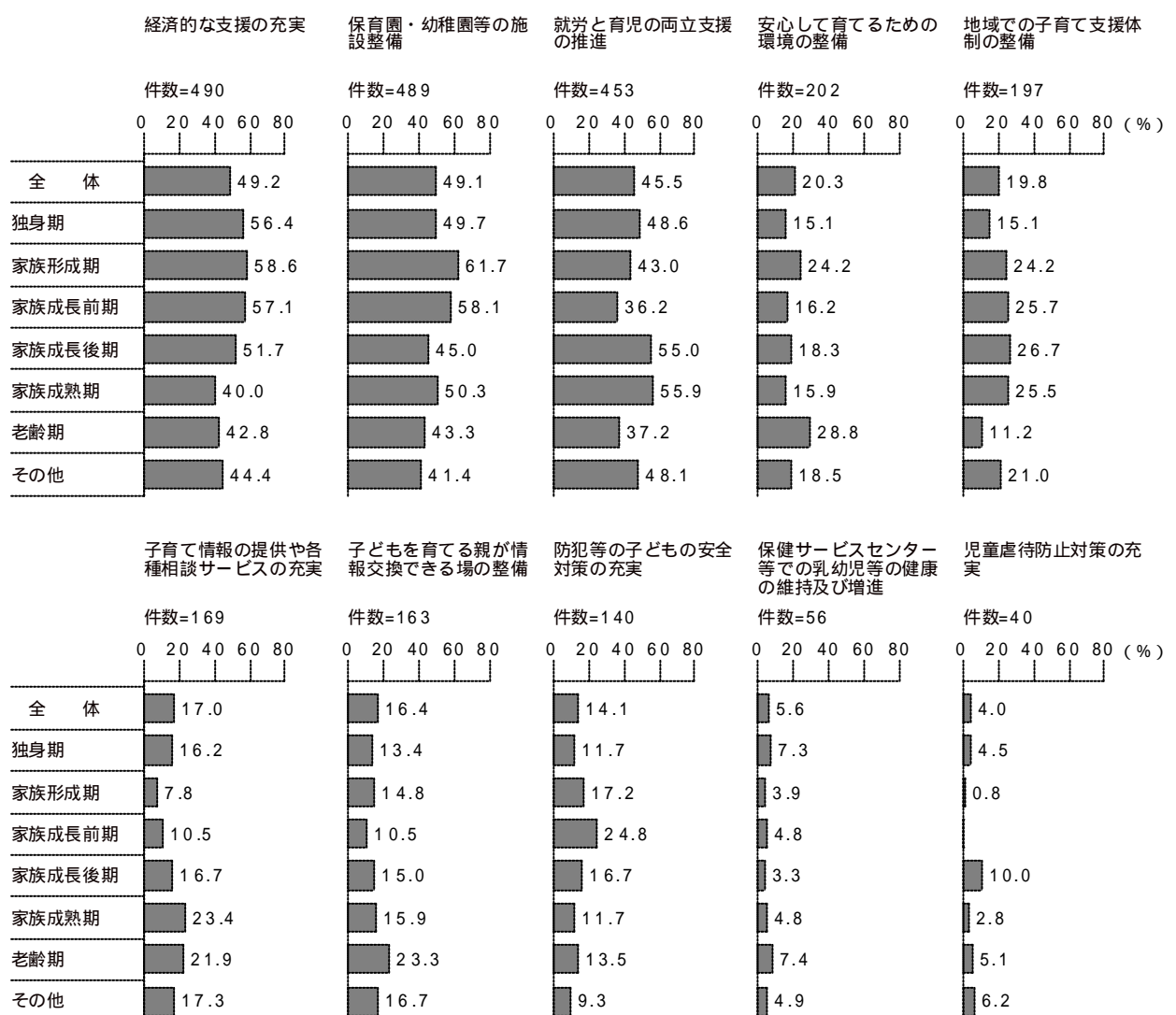
図6-2-2 子育て支援のために取り組むべき施策 - 性・年代別（上位10項目）



ライフステージ別にみると、「保育園・幼稚園等の施設整備」は家族形成期で6割を超え、「就労と育児の両立支援の推進（職場での育児休暇制度の充実、一時保育等）」は家族成長後期と家族成熟期で5割半ば、「防犯等の子どもの安全対策の充実」は家族成長前期で2割半ばと多くなっている。

(図6-2-3)

図6-2-3 子育て支援のために取り組むべき施策 - ライフステージ別(上位10項目)



6 - 3 子育て支援サービスの認知度・利用経験・利用意向

問 22 あなたは、下の表に記載されている子育て支援サービスについてお伺いします。

(1) これらのサービスを知っていますか。(はい/いくつか/いいえ)

(2) これらのサービスを利用したことはありますか。(はい/いくつか/いいえ)

(3) これらのサービスを今後利用したいと思いませんか。(はい/いくつか/いいえ)

(n = 996)

	(1) 認知度	(2) 利用経験	(3) 利用意向
ア．両親学級、母親学級	38.0%	11.7%	7.2%
イ．保健サービスセンターの情報・相談サービス	29.9%	6.7%	11.6%
ウ．家庭教育学級に関する学級・講座	14.8%	2.8%	6.7%
エ．教育センター、教育相談室	28.8%	5.0%	7.2%
オ．保育園や幼稚園の園庭等の開放	31.0%	10.0%	11.1%
カ．身近な地域における親子の交流の場			
カ - 児童館	43.4%	21.1%	10.3%
カ - 子育てひろば	17.4%	4.7%	6.2%
カ - ぴよぴよひろば	9.8%	3.3%	5.1%
キ．ファミリーサポートセンター	15.7%	1.6%	6.9%
ク．子ども家庭支援センター (総合相談、子育て支援講座、ぴよぴよひろば)	13.0%	1.6%	7.3%
ケ．内職あっせんサービス	10.2%	1.4%	6.0%
コ．一時保育サービス(キッズルーム等)	20.5%	2.5%	10.4%
サ．区内商店で使える子育て支援券	17.2%	-	13.9%
シ．子育てを気軽に相談できる地域の経験者の紹介	-	-	6.1%
ス．訪問型一時保育サービス	-	-	8.7%
セ．産後の育児支援ヘルパーサービス	-	-	9.4%
ソ．特になし	37.3%	61.0%	60.0%
無回答	3.1%	8.3%	7.8%

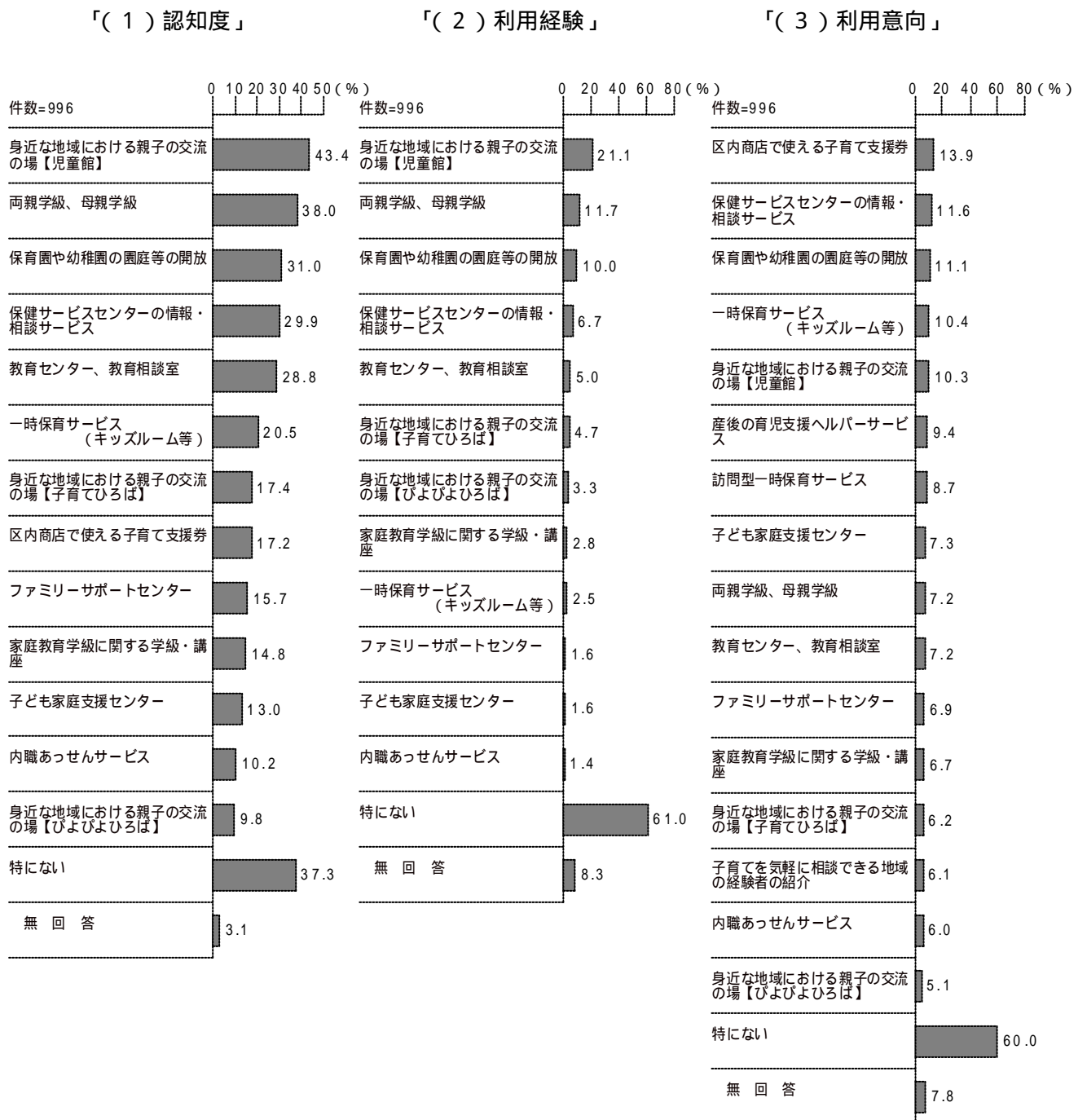
「シ」、「ス」及び「セ」については、文京区では現在実施していない事業です。(平成18年8月調査実施時点)
(なお、「サ」は平成18年9月より、「シ」は平成18年10月より実施しています。)

子育て支援サービスの認知度について聞いたところ、「身近な地域における親子の交流の場【児童館】」(43.4%)が4割を超え最も多く、次いで「両親学級、母親学級」(38.0%)、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」(31.0%)などの順となっている。

子育て支援サービスの利用経験について聞いたところ、「身近な地域における親子の交流の場【児童館】」(21.1%)が2割を超え最も多く、次いで「両親学級、母親学級」(11.7%)、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」(10.0%)などの順となっている。また、「特になし」(61.0%)が6割を超えている。

子育て支援サービスの利用意向について聞いたところ、「区内商店で使える子育て支援券」(13.9%)が1割を超え最も多く、次いで「保健サービスセンターの情報・相談サービス」(11.6%)、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」(11.1%)、「一時保育サービス(キッズルーム等)」(10.4%)、「身近な地域における親子の交流の場【児童館】」(10.3%)などの順となっている。また、「特になし」(60.0%)が6割となっている。(図6-3-1)

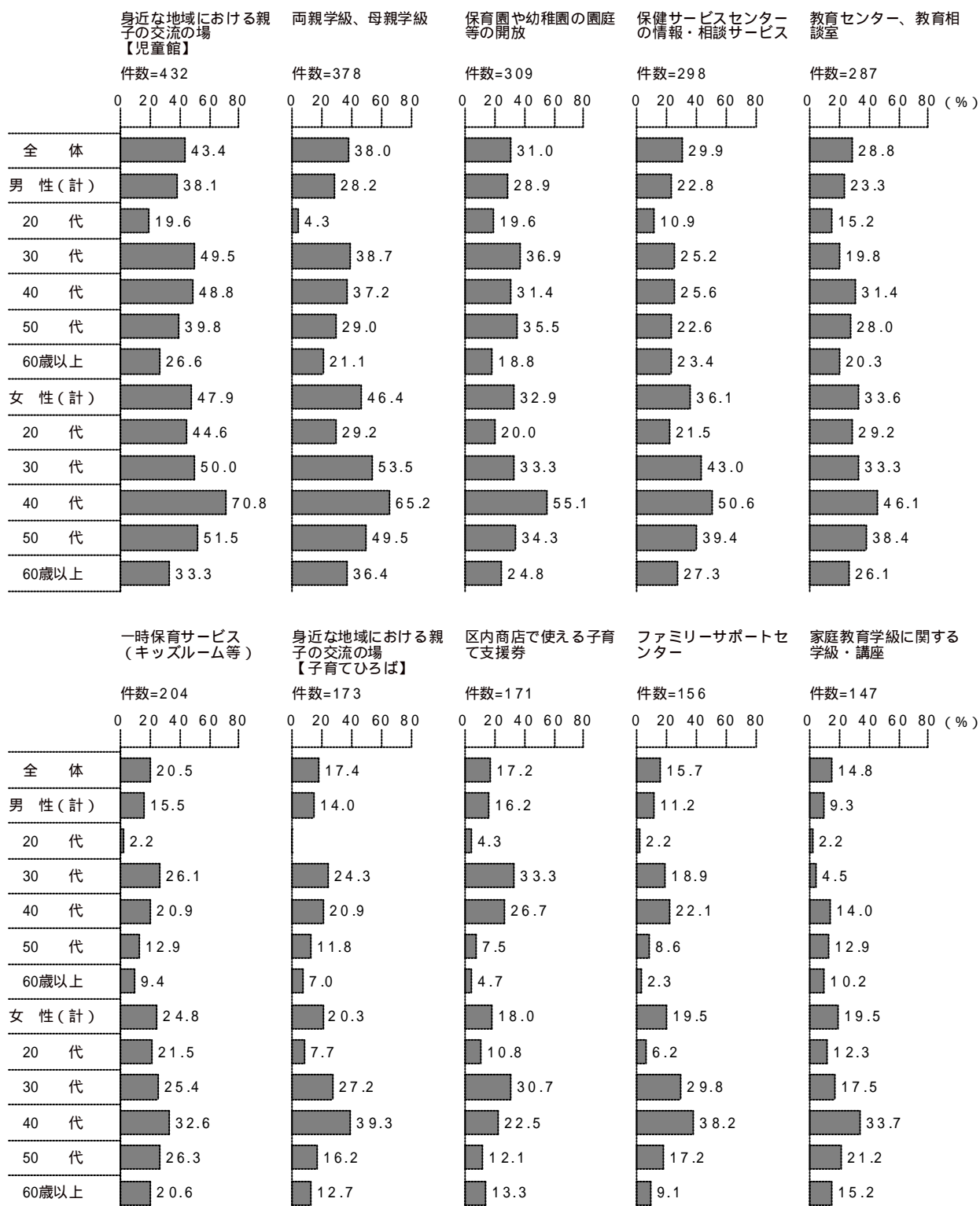
図6-3-1 子育て支援サービスの認知度・利用経験・利用意向



認知度を性別にみると、全ての子育て支援サービスで女性の方が高くなっており、特に「両親学級、母親学級」で18ポイント、「保健サービスセンターの情報・相談サービス」で13ポイント高い。

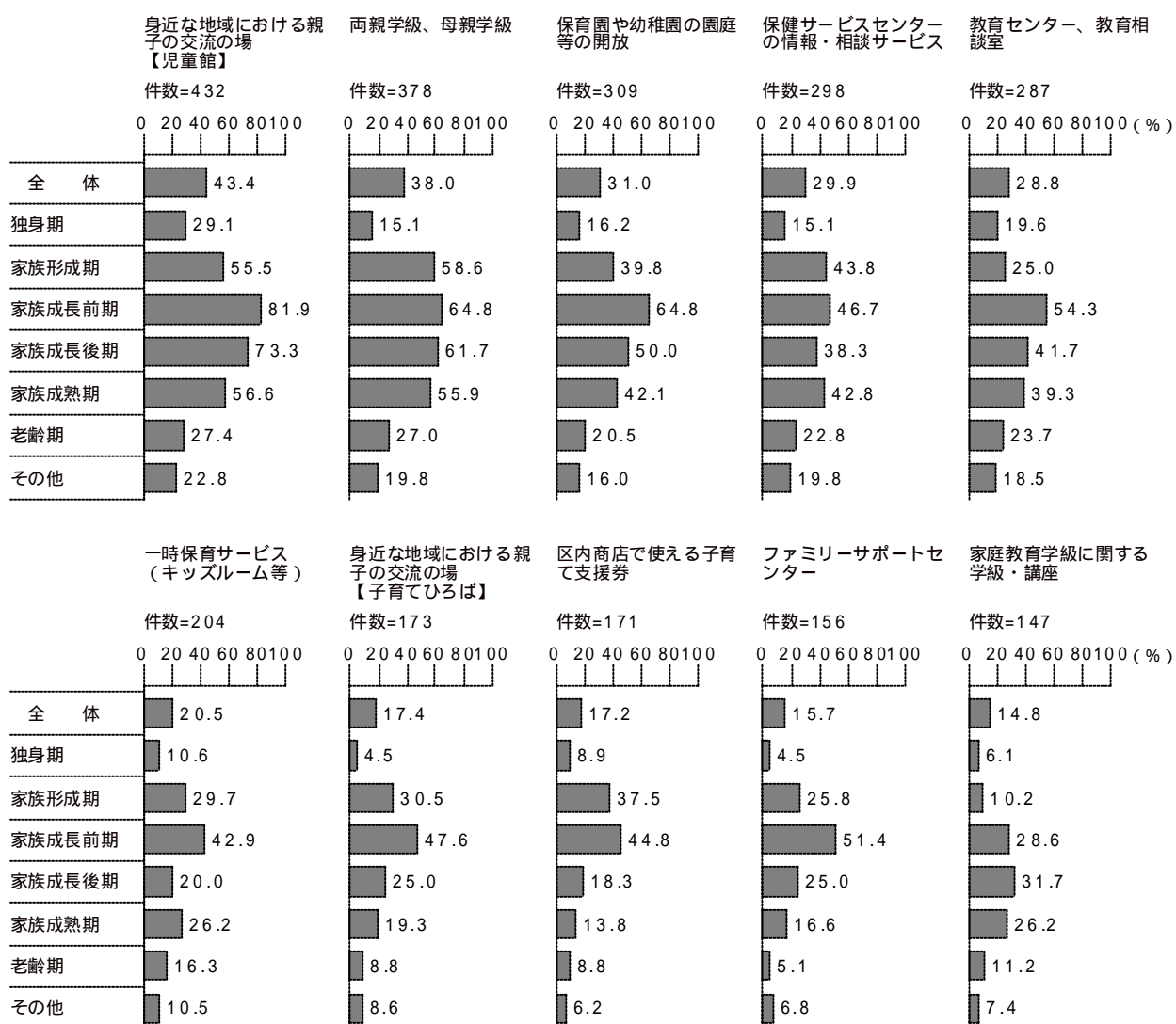
性・年代別にみると、ほとんどの子育て支援サービスで女性の30代から50代の認知度が高くなっている。特に女性40代はいずれの支援サービスでも認知度が最も高く、特に「身近な地域における親子の交流の場【児童館】」は7割を占めている。(図6-3-2)

図6-3-2 子育て支援サービスの認知度 - 性・年代別(上位10項目)



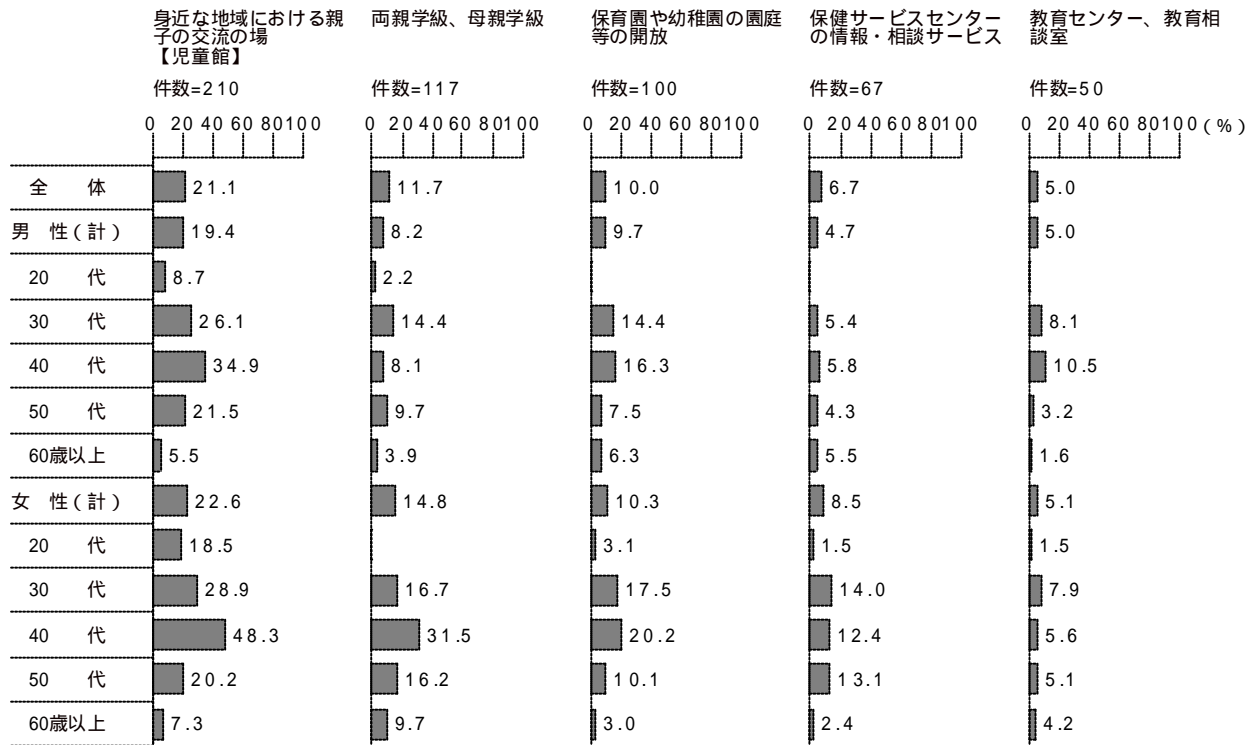
認知度をライフステージ別にみると、ほとんどの子育て支援サービスで家族成長前期の割合が高く、特に「身近な地域における親子の交流の場【児童館】」で8割を超えている。(図6-3-3)

図6-3-3 子育て支援サービスの認知度 - ライフステージ別 (上位10項目)



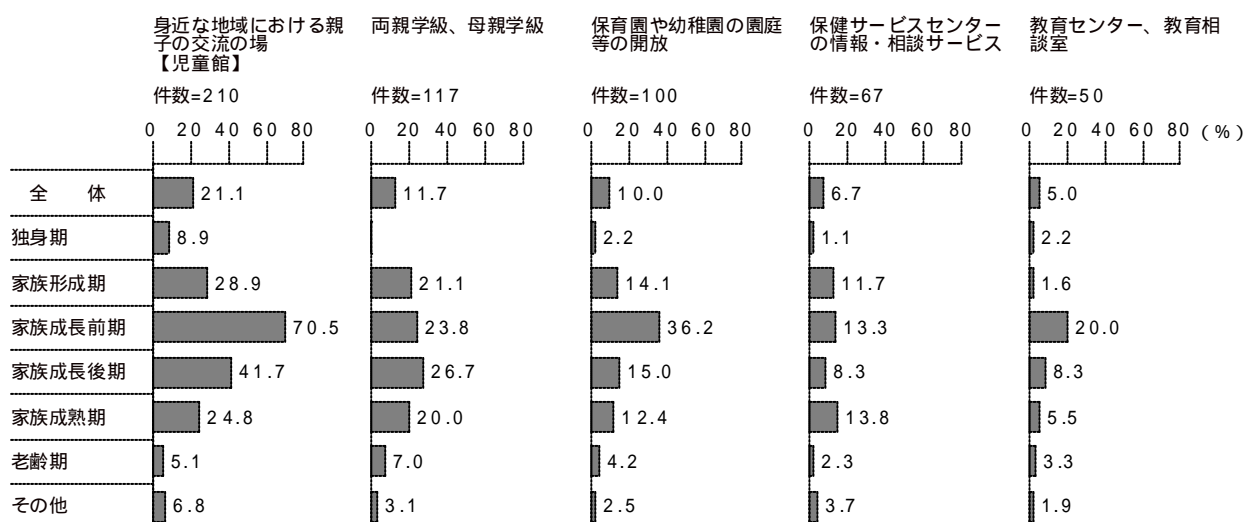
利用経験を性別にみると、「両親学級、母親学級」は女性の方が7ポイント高くなっている。
 性・年代別にみると、「身近な地域における親子の交流の場【児童館】」は男性40代で3割半ば、女性40代で5割近くと多い。女性40代では「両親学級、母親学級」で3割を超え、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」で2割と多くなっている。(図6-3-4)

図6-3-4 子育て支援サービスの利用経験 - 性・年代別(上位5項目)



ライフステージ別にみると、「身近な地域における親子の交流の場【児童館】」は家族成長前期でほぼ7割と多く、「両親学級、母親学級」は家族成長前期と家族成長後期で2割半ば前後と多い。また、家族成長前期では「保育園や幼稚園の園庭等の開放」で3割半ば、「教育センター、教育相談室」で2割と多くなっている。(図6-3-5)

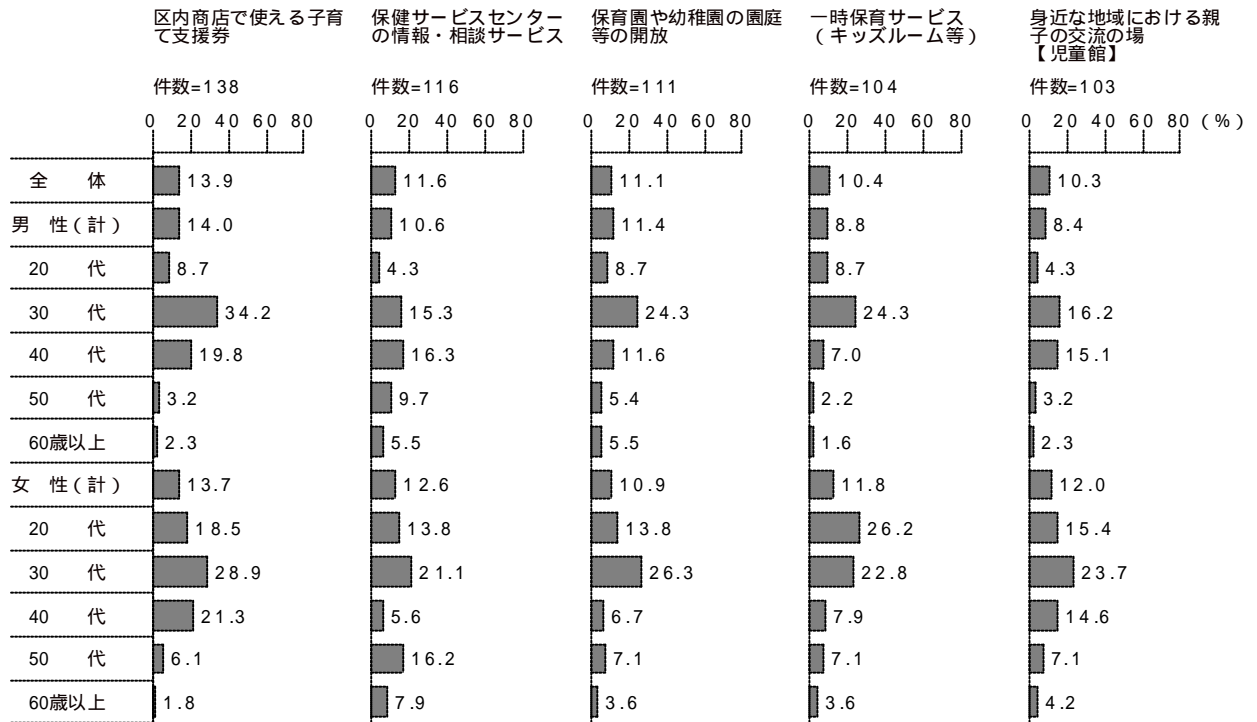
図6-3-5 子育て支援サービスの利用経験 - ライフステージ別(上位5項目)



利用意向を性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別にみると、男女とも30代では「区内商店で使える子育て支援券」で3割前後を占め、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」で2割半ばとなっている。「一時保育サービス(キッズルーム等)」は男性30代と女性の20代、30代の年代で2割以上を占め、「身近な地域における親子の交流の場【児童館】」は女性30代で2割を超え多くなっている。(図6-3-6)

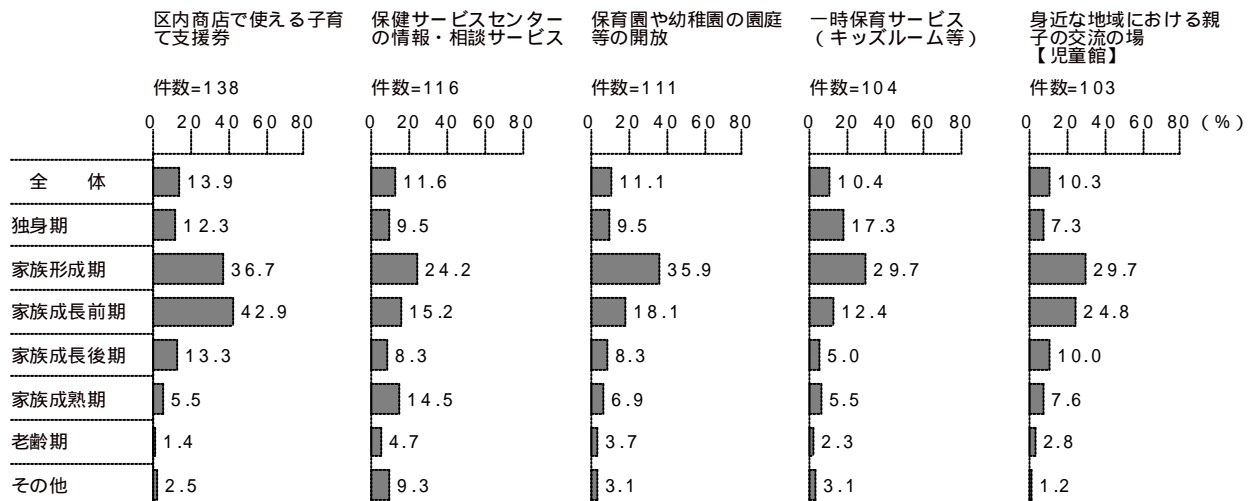
図6-3-6 子育て支援サービスの利用意向 - 性・年代別(上位5項目)



ライフステージ別にみると、家族形成期と家族成長前期では「区内商店で使える子育て支援券」で4割前後を占め、「身近な地域における親子の交流の場【児童館】」で2割以上を占めている。他に、家族形成期では「保健サービスセンターの情報・相談サービス」で2割半ば、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」で3割半ば、「一時保育サービス(キッズルーム等)」で3割と多くなっている。

(図6-3-7)

図6-3-7 子育て支援サービスの利用意向 - ライフステージ別(上位5項目)



7 . 消費者相談

-
- 7 - 1 消費者被害が増加傾向にあることについての認知度
 - 7 - 2 消費者相談コーナーの認知度
-

7 . 消費者相談

7 - 1 消費者被害が増加傾向にあることについての認知度

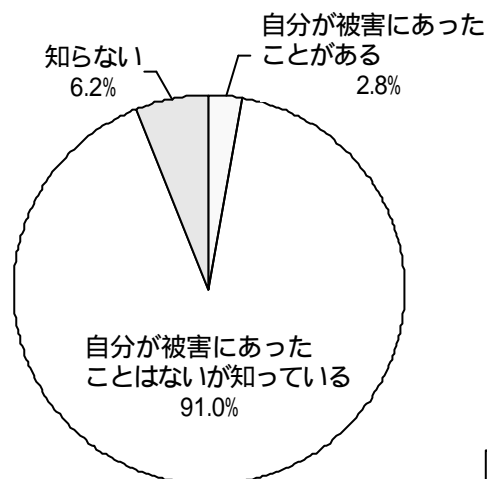
問 23 あなたは、最近新聞を賑わしている不当請求や学生に多いマルチ商法など消費者被害やトラブルが増加傾向にあることを知っていますか。1つお選びください。

(n = 996)

- | | | | |
|--------------------------|-------|----------|------|
| 1 . 自分が被害にあったことがある | 2.8% | 3 . 知らない | 6.2% |
| 2 . 自分が被害にあったことはないが知っている | 91.0% | | |

消費者被害が増加傾向にあることについての認知度について聞いたところ、「自分が被害にあったことがある」が2.8%、「自分が被害にあったことはないが知っている」(91.0%)が9割を超えている。(図7-1-1)

図7-1-1 消費者被害が増加傾向にあることについての認知度

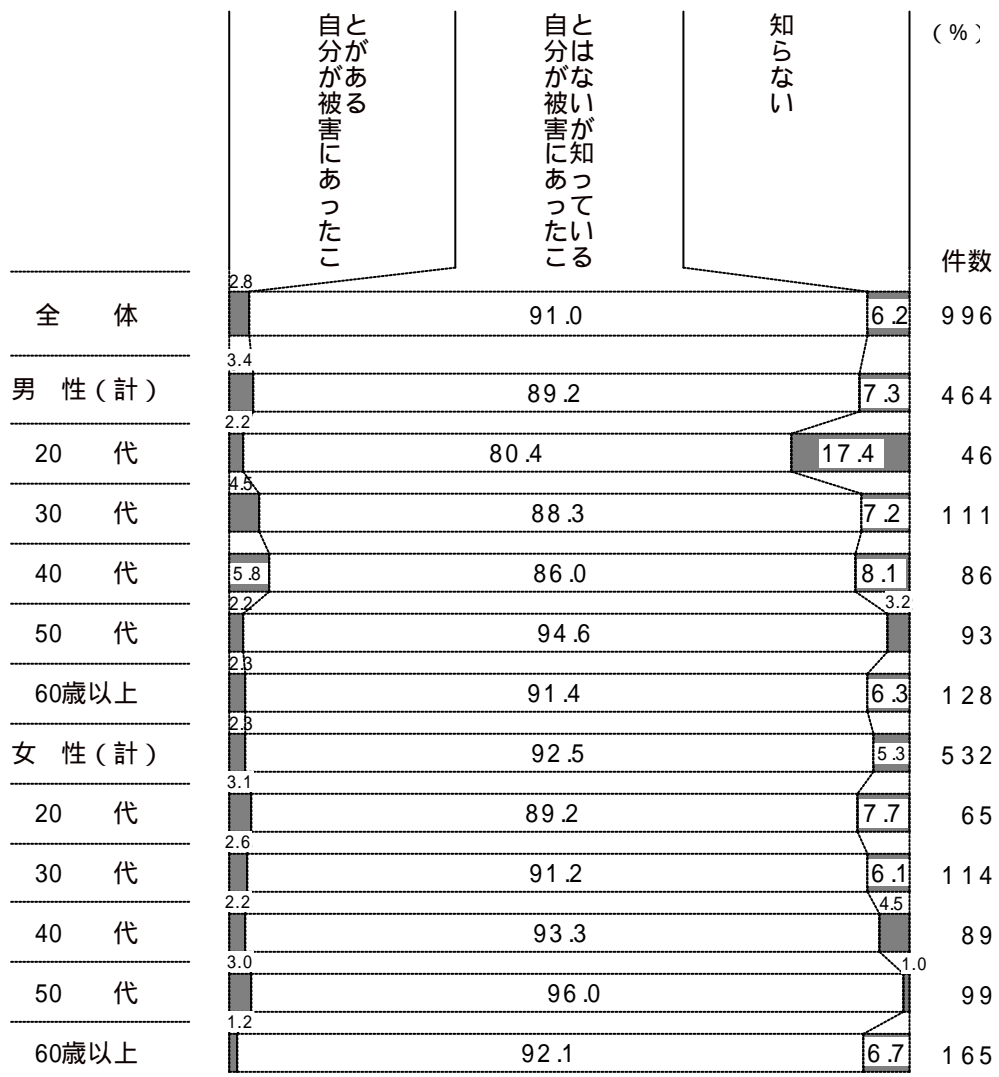


件数=996

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別にみると、「自分が被害にあったことはないが知っている」は男性の50代以上と女性の30代以上の年代で9割以上を占めている。(図7-1-2)

図7-1-2 消費者被害が増加傾向にあることについての認知度 - 性・年代別



7 - 2 消費者相談コーナーの認知度

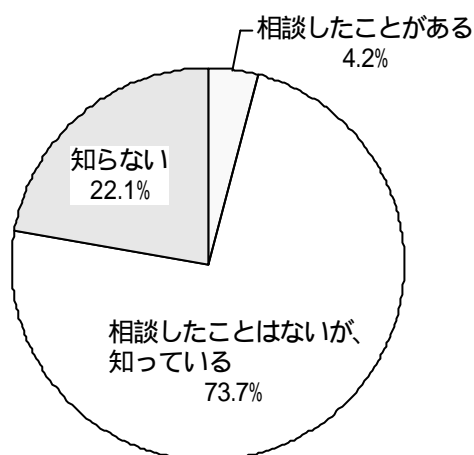
問 24 あなたは、消費生活センターに消費者救済のための消費者相談コーナーがあることを知っていますか。1つお選びください。

(n = 996)

- | | | | |
|----------------------|-------|----------|-------|
| 1 . 相談したことがある | 4.2% | 3 . 知らない | 22.1% |
| 2 . 相談したことはないが、知っている | 73.7% | | |

消費者相談コーナーの認知度について聞いたところ、「相談したことがある」が4.2%、「相談したことはないが、知っている」(73.7%)が7割を超えている。また、「知らない」(22.1%)が2割を超えている。(図7 - 2 - 1)

図7 - 2 - 1 消費者相談コーナーの認知度

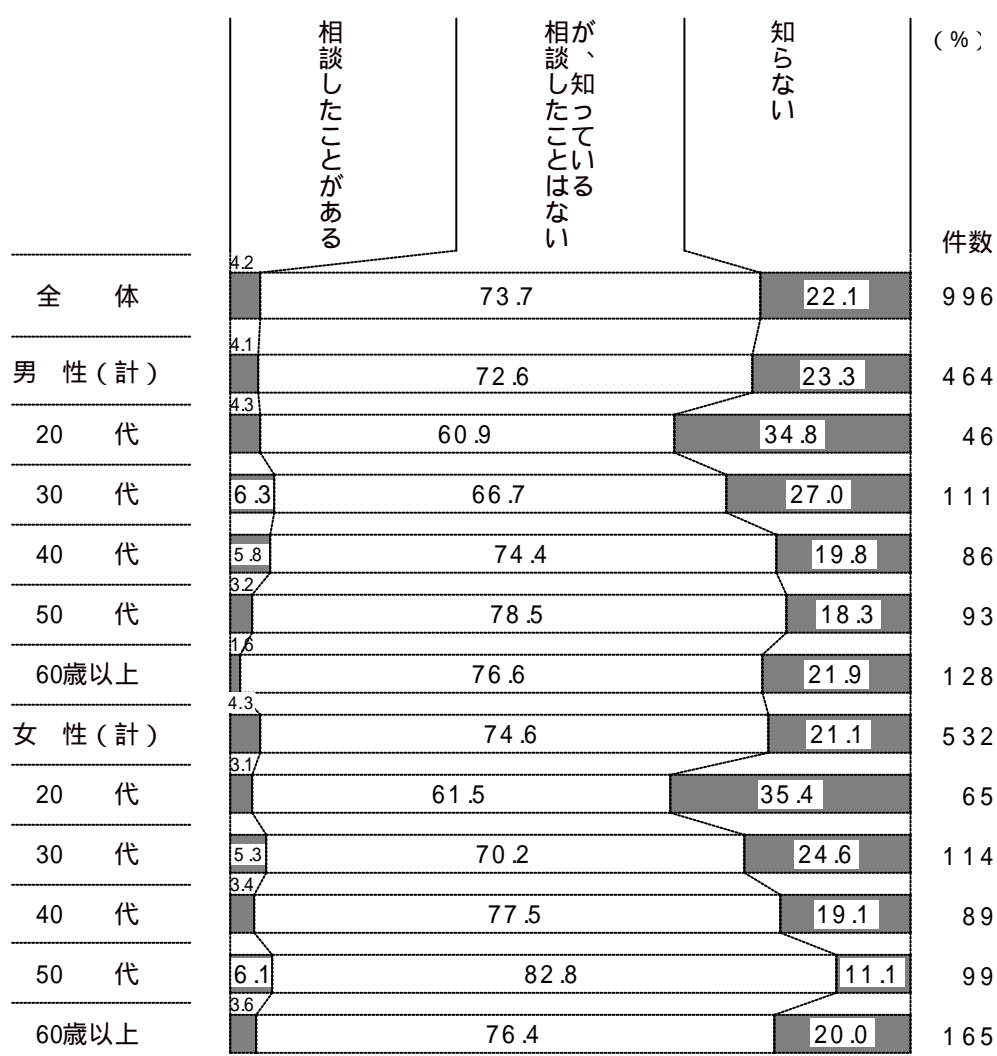


件数=996

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別にみると、「相談したことはないが、知っている」は女性 50 代で 8 割を超え、「知らない」は男女とも 20 代で 3 割半ばと多くなっている。(図 7 - 2 - 2)

図 7 - 2 - 2 消費者相談コーナーの認知度 - 性・年代別



8 . 地域環境

-
- 8 - 1 地域生活での環境について関心のあるテーマ
 - 8 - 2 ごみ減量のために重点的に行うべき施策
-

8 . 地域環境

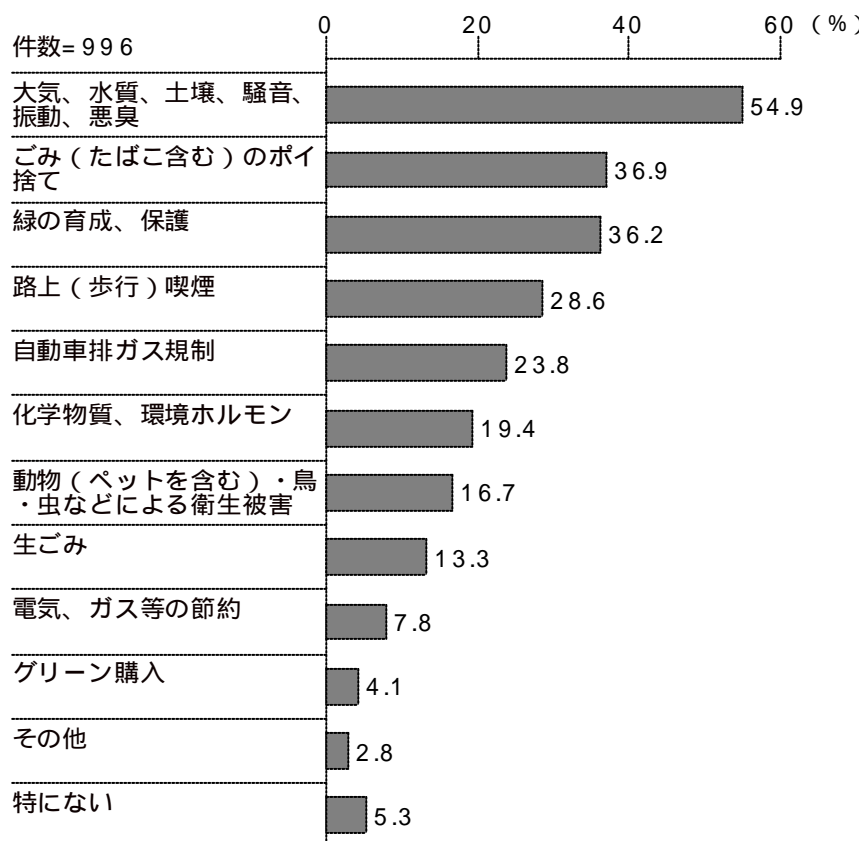
8 - 1 地域生活での環境について関心のあるテーマ

問 25 あなたが最も関心のある地域生活での環境に関する事項は次のうちどれですか。
3つ以内でお選びください。

	(n = 996)
1 . 大気、水質、土壌、騒音、振動、悪臭	54.9%
2 . 緑の育成、保護	36.2%
3 . 化学物質、環境ホルモン	19.4%
4 . 動物（ペットを含む）・鳥・虫などによる衛生被害	16.7%
5 . 電気、ガス等の節約	7.8%
6 . 自動車排ガス規制	23.8%
7 . グリーン購入（環境への影響ができるだけ小さいものを優先して購入する）	4.1%
8 . 生ごみ	13.3%
9 . 路上（歩行）喫煙	28.6%
10 . ごみ（たばこ含む）のポイ捨て	36.9%
11 . その他	2.8%
12 . 特にない	5.3%

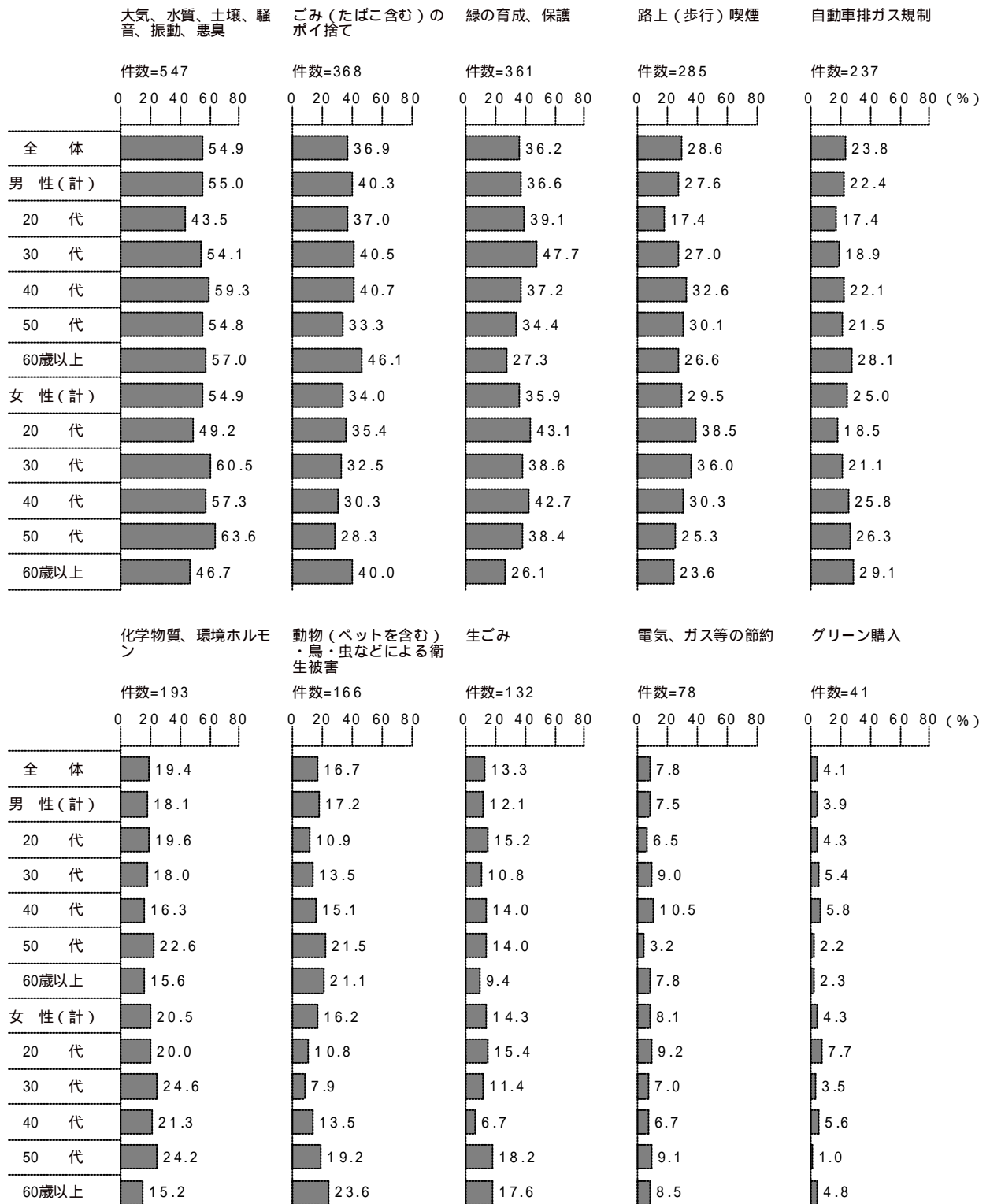
地域生活での環境について関心のあるテーマについて聞いたところ、「大気、水質、土壌、騒音、振動、悪臭」(54.9%)が5割半ばと最も多く、次いで「ごみ(たばこ含む)のポイ捨て」(36.9%)、「緑の育成、保護」(36.2%)などの順となっている。(図8-1-1)

図8-1-1 地域生活での環境について関心のあるテーマ



性別にみると、「ごみ(たばこ含む)のポイ捨て」は男性の方が6ポイント高くなっている。
 性・年代別にみると、「ごみ(たばこ含む)のポイ捨て」は男性60歳以上で4割半ば、「緑の育成、保護」は男性30代で5割近く、「路上(歩行)喫煙」は女性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性20代で4割近くとなっている。(図8-1-2)

図8-1-2 地域生活での環境について関心のあるテーマ - 性・年代別(上位10項目)



8 - 2 ごみ減量のために重点的に行うべき施策

問 26 区では、平成 12 年 3 月に廃棄物処理法に定める「モノ・プラン 2000 文京（一般廃棄物処理基本計画）」を策定しました。このモノ・プランを平成 18 年 4 月に改定し、3 R（ ）の推進を図り、「モノ配慮社会」の実現を目指します。あなたは、ごみ減量の取組みについて、区はどのようなことを重点的に行うべきとお考えですか。3 つ以内でお選びください。

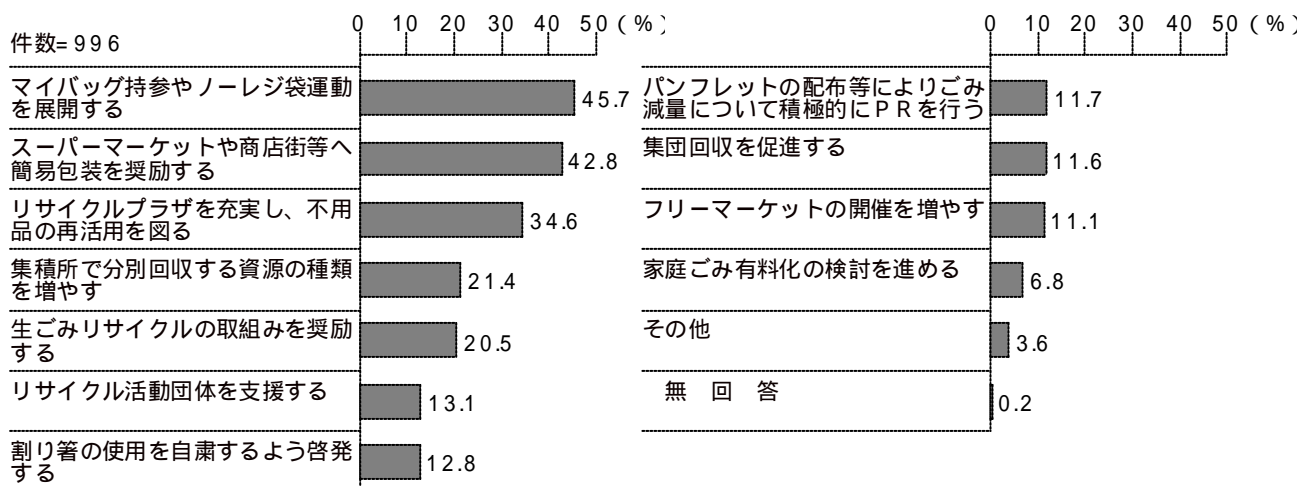
3 Rとはリデュース（発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再生利用）をいいます。

(n = 996)

1 . マイバッグ持参やノーレジ袋運動を展開する	45.7%
2 . スーパーマーケットや商店街等へ簡易包装を奨励する	42.8%
3 . 割り箸の使用を自粛するよう啓発する	12.8%
4 . 生ごみリサイクルの取組みを奨励する	20.5%
5 . フリーマーケットの開催を増やす	11.1%
6 . リサイクルプラザを充実し、不用品の再活用を図る	34.6%
7 . リサイクル活動団体を支援する	13.1%
8 . 集団回収を促進する	11.6%
9 . 集積所で分別回収する資源の種類を増やす	21.4%
10 . 家庭ごみ有料化の検討を進める	6.8%
11 . パンフレットの配布等により、ごみ減量について積極的に P R を行う	11.7%
12 . その他	3.6%
無回答	0.2%

ごみ減量のために重点的に行うべき施策について聞いたところ、「マイバッグ持参やノーレジ袋運動を展開する」(45.7%) が4割半ばと最も多く、次いで「スーパーマーケットや商店街等へ簡易包装を奨励する」(42.8%)、「リサイクルプラザを充実し、不用品の再活用を図る」(34.6%)などの順となっている。(図8-2-1)

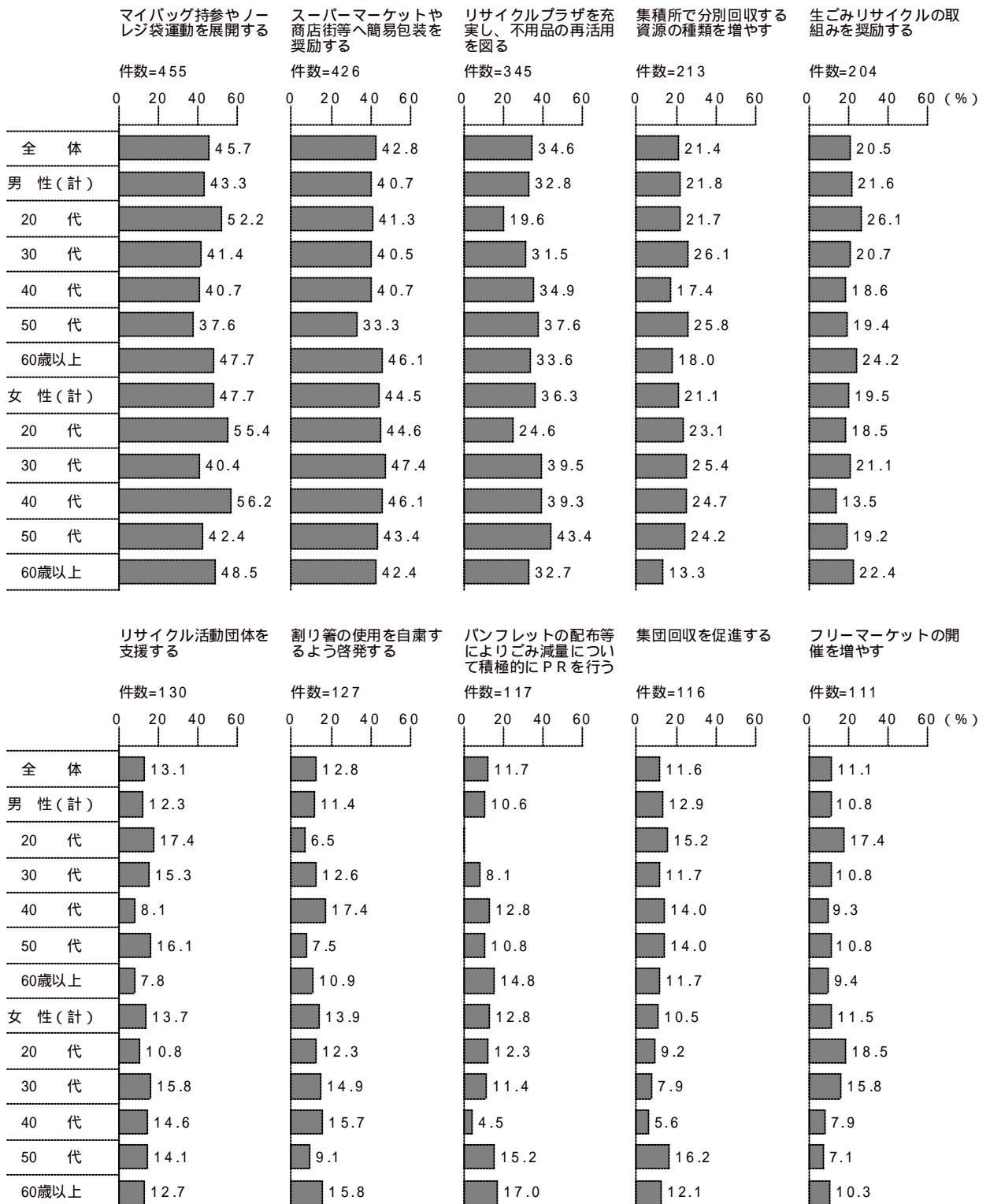
図 8 - 2 - 1 ごみ減量のために重点的に行うべき施策



性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別にみると、「マイバッグ持参やノーレジ袋運動を展開する」は男性 20 代と女性の 20 代、40 代の年代で 5 割半ば、「リサイクルプラザを充実し、不用品の再活用を図る」は女性 50 代で 4 割を超え多くなっている。(図 8 - 2 - 2)

図 8 - 2 - 2 ごみ減量のために重点的に行うべき施策 - 性・年代別 (上位 10 項目)



9 . 交通安全

-
- 9 - 1 高齢者の交通事故を防止するための対策
 - 9 - 2 自転車の利用者に対する問題意識
-

9 . 交通安全

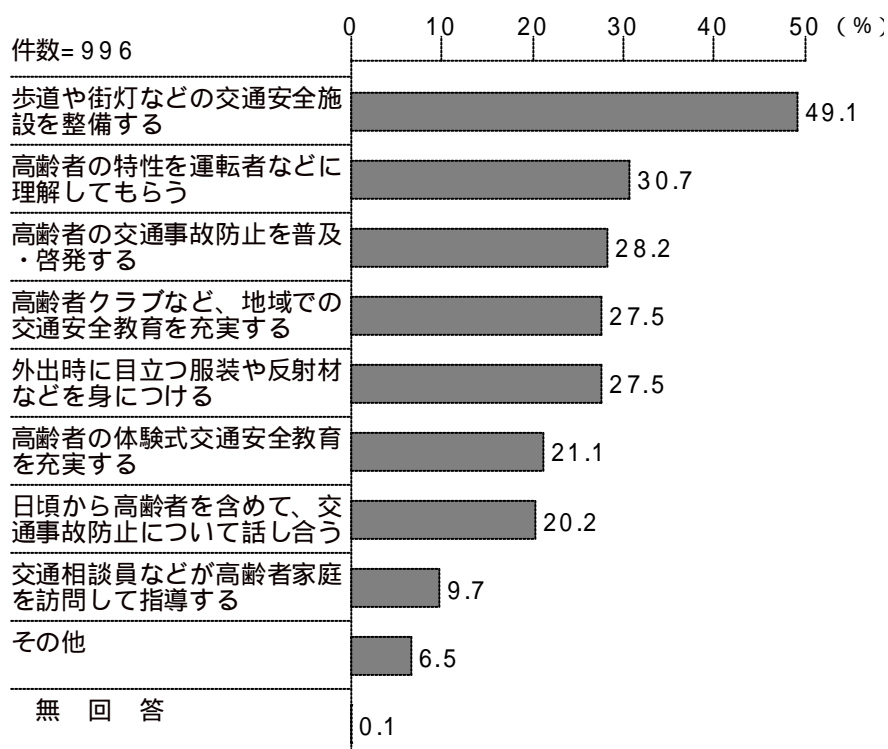
9 - 1 高齢者の交通事故を防止するための対策

問 27 文京区の交通事故の死傷者は減少傾向にありますが、高齢者の交通事故は増加しています。平成 13 年には交通事故全体の 7.5%でしたが、平成 17 年には 10.4%を占めています。
あなたは、高齢者の交通事故を防止するためにはどうすればよいと思いますか。3つ以内でお選びください。

	(n = 996)
1 . 日頃から高齢者を含めて、交通事故防止について話し合う	20.2%
2 . 交通相談員などが高齢者家庭を訪問して指導する	9.7%
3 . 高齢者クラブなど、地域での交通安全教育を充実する	27.5%
4 . 高齢者の特性を運転者などに理解してもらう	30.7%
5 . 高齢者の体験式交通安全教育を充実する	21.1%
6 . 歩道や街灯などの交通安全施設を整備する	49.1%
7 . 高齢者の交通事故防止を普及・啓発する	28.2%
8 . 外出時に目立つ服装や反射材などを身につける	27.5%
9 . その他	6.5%
無回答	0.1%

高齢者の交通事故を防止するための対策について聞いたところ、「歩道や街灯などの交通安全施設を整備する」(49.1%)がほぼ5割と最も多く、次いで「高齢者の特性を運転者などに理解してもらう」(30.7%)、「高齢者の交通事故防止を普及・啓発する」(28.2%)、「高齢者クラブなど、地域での交通安全教育を充実する」と「外出時に目立つ服装や反射材などを身につける」(ともに27.5%)などの順となっている。(図9-1-1)

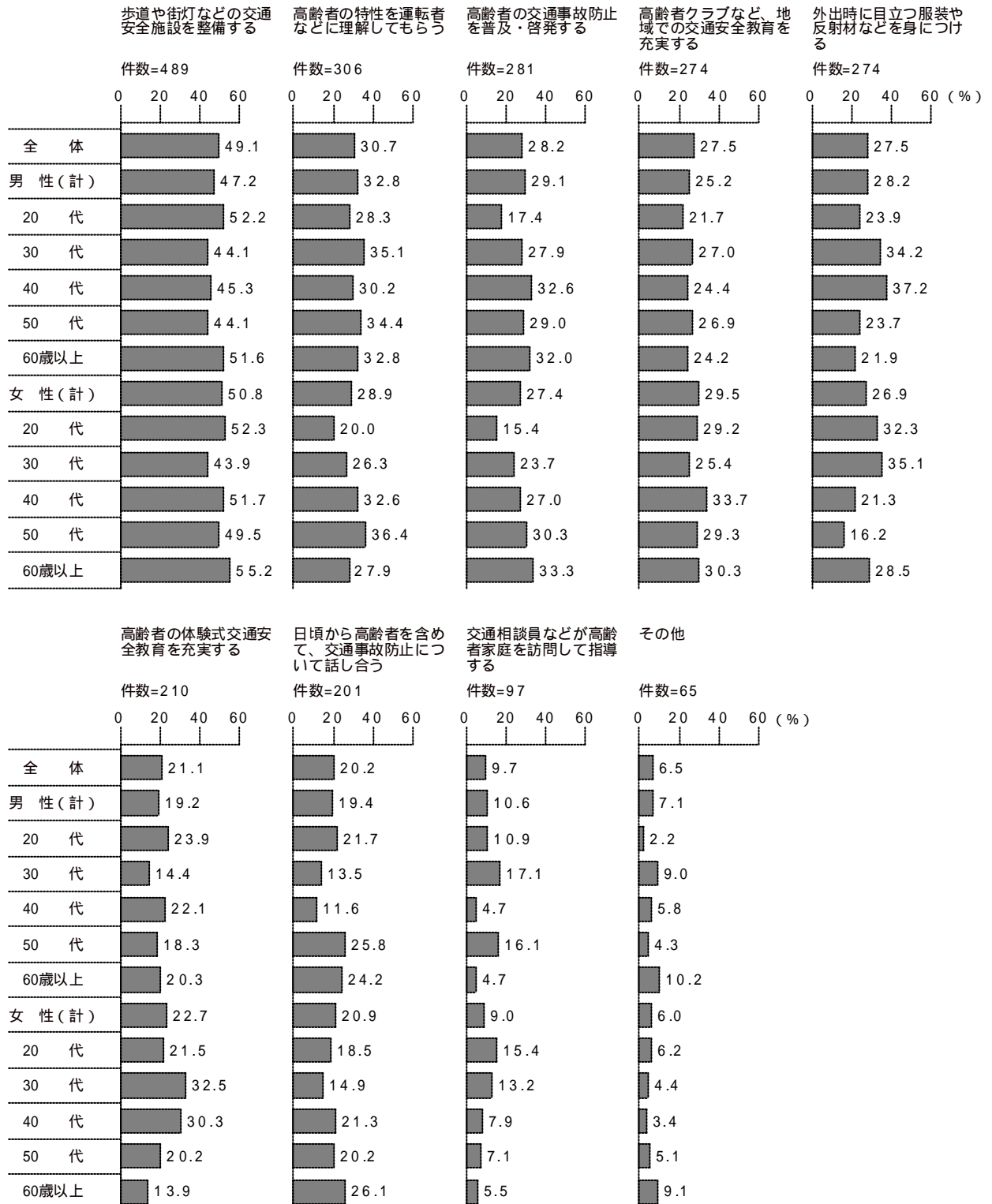
図9-1-1 高齢者の交通事故を防止するための対策



性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別にみると、「高齢者の交通事故防止を普及・啓発する」は女性では高い年代ほど割合が高い傾向になっている。「外出時に目立つ服装や反射材などを身につける」は男性40代で4割近く、「高齢者の体験式交通安全教育を充実する」は女性の30代と40代で3割以上を占めている。(図9 - 1 - 2)

図9 - 1 - 2 高齢者の交通事故を防止するための対策 - 性・年代別



9 - 2 自転車の利用者に対する問題意識

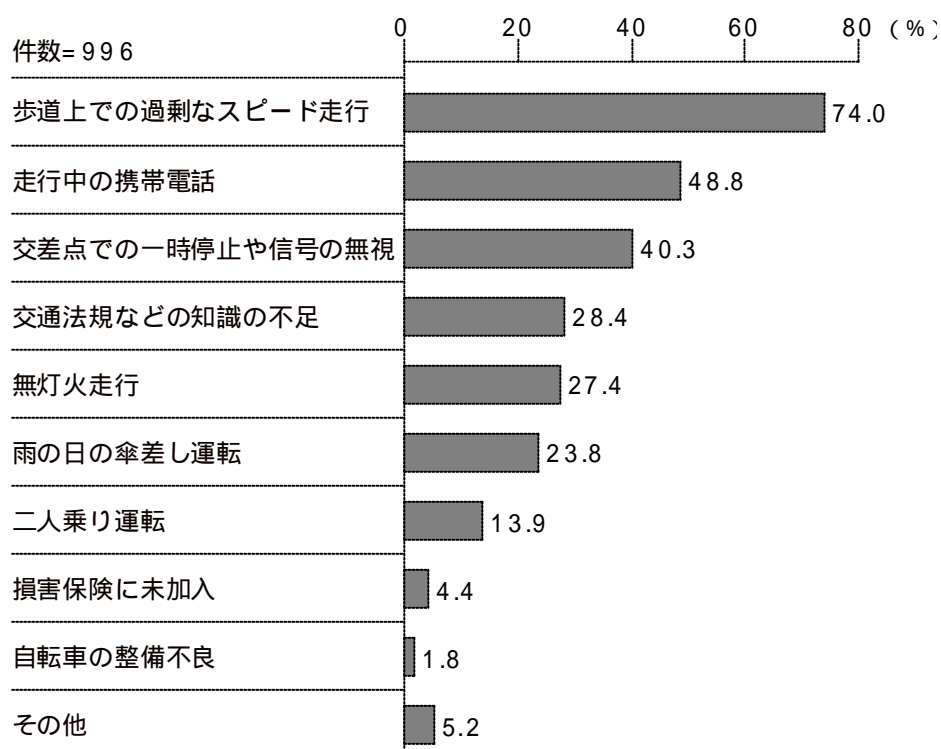
問 28 平成 17 年の文京区の交通事故死傷者の 21%は自転車乗車中の事故でした。また事故にいたらなくても危険な運転が多くみられます。あなたは、自転車の利用者についてどのような点に問題があると思いますか。3つ以内でお選びください。

(n = 996)

1 . 歩道上での過剰なスピード走行	74.0%	6 . 二人乗り運転	13.9%
2 . 無灯火走行	27.4%	7 . 交通法規などの知識の不足	28.4%
3 . 走行中の携帯電話	48.8%	8 . 損害保険に未加入	4.4%
4 . 交差点での一時停止や信号の無視	40.3%	9 . 自転車の整備不良	1.8%
5 . 雨の日の傘差し運転	23.8%	10 . その他	5.2%

自転車の利用者に対する問題意識について聞いたところ、「歩道上での過剰なスピード走行」(74.0%)が7割半ばと最も多く、次いで「走行中の携帯電話」(48.8%)「交差点での一時停止や信号の無視」(40.3%)などの順となっている。(図9-2-1)

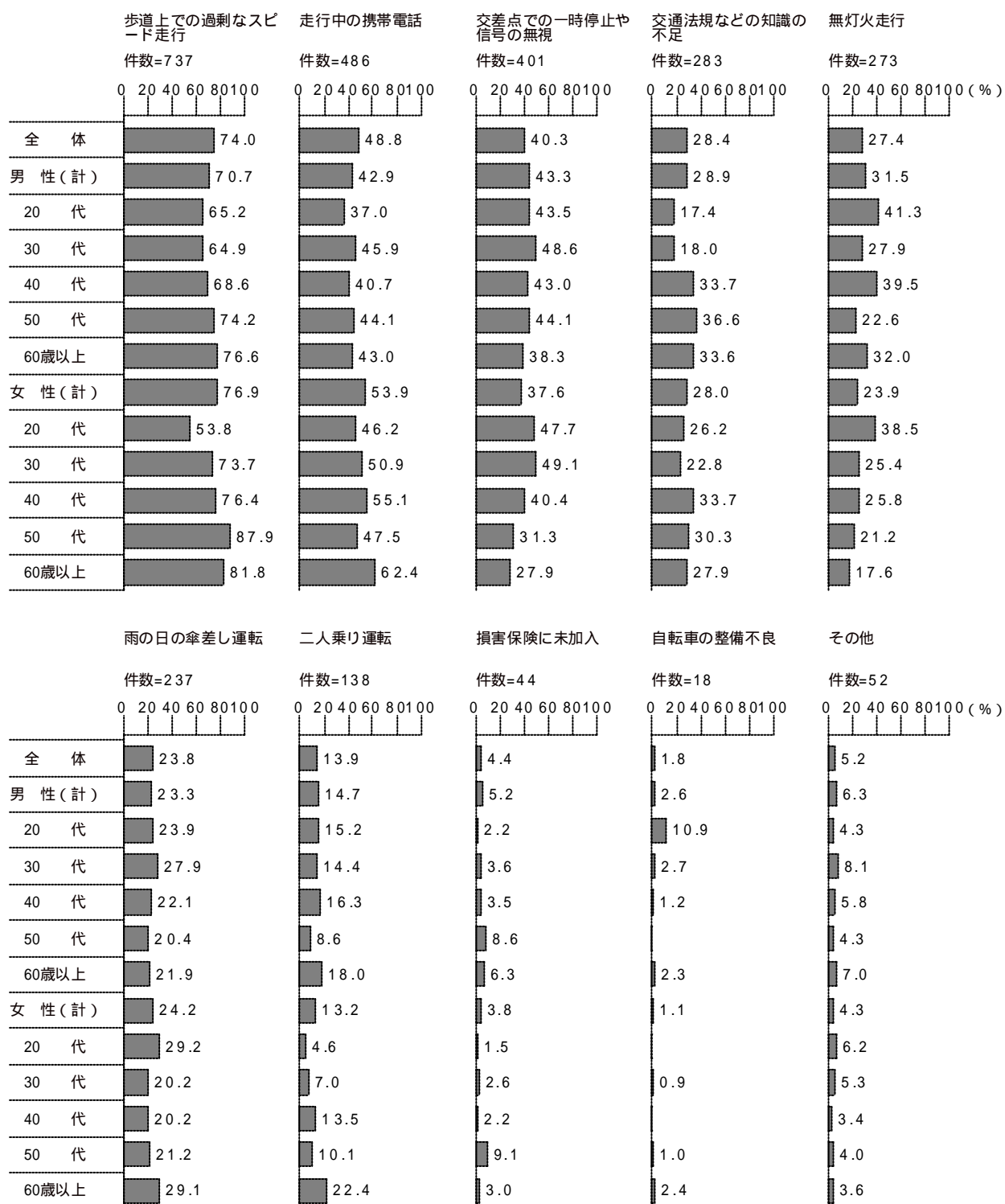
図9-2-1 自転車の利用者に対する問題意識



性別にみると、女性の方が「走行中の携帯電話」で11ポイント、「歩道上での過剰なスピード走行」で6ポイント高い。一方、男性の方が「無灯火走行」で8ポイント、「交差点での一時停止や信号の無視」で6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「歩道上での過剰なスピード走行」は女性50代で9割近く、「走行中の携帯電話」は女性60歳以上で6割を超え多い。「無灯火走行」は女性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、また男性の20代、40代と女性20代の年代で4割前後となっている。(図9-2-2)

図9-2-2 自転車の利用者に対する問題意識 - 性・年代別



10 . 生涯学習

-
- 10 - 1 大学との相互協力協定に期待すること
 - 10 - 2 参加したい区民大学講座
 - 10 - 3 インターネット配信による区民大学講座の利用意向
-

10 . 生涯学習

10 - 1 大学との相互協力協定に期待すること

問 29 区では、「生涯学習都市・文京」を目指し、地域資産である大学等の教育機関、文化施設等との緊密な連携を図ることで、最先端の生涯学習、スポーツ、文化・芸術を区民との協働・協治により展開するため平成 18 年 4 月よりアカデミー構想が始動しました。

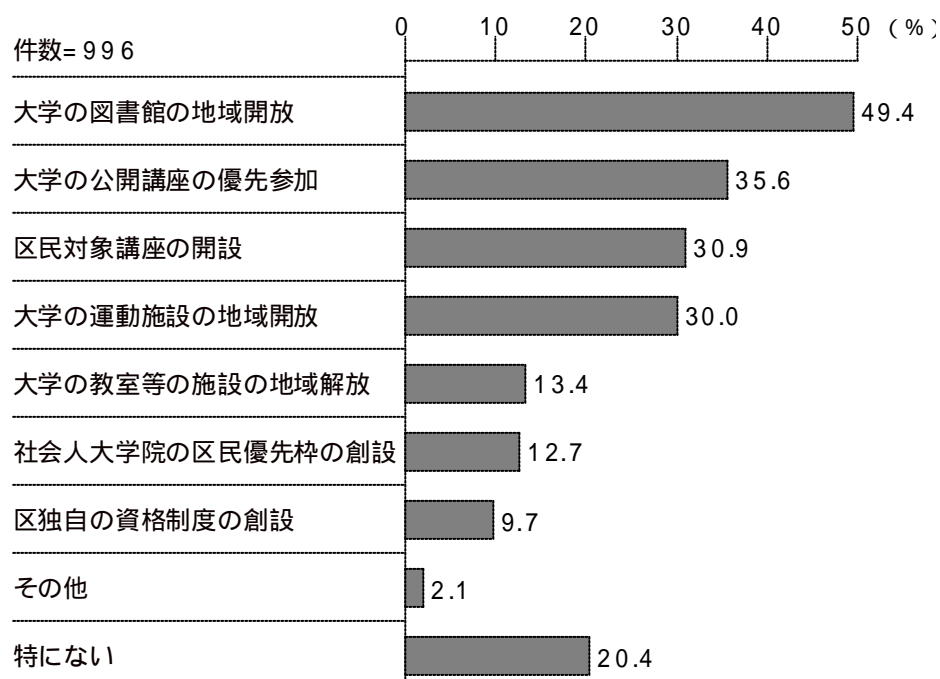
地域資産である大学が文京区には、現在、短期大学を含めて 16 あります。区ではこれらの大学と相互協力協定の締結を進めておりますが、あなたは、この相互協力協定に何を望みますか。3 つ以内でお選びください。

(n = 996)

1 . 大学の図書館の地域開放	49.4%	6 . 区独自の資格制度の創設	9.7%
2 . 大学の運動施設の地域開放	30.0%	7 . 社会人大学院の区民優先枠の創設	12.7%
3 . 大学の教室等の施設の地域解放	13.4%	8 . その他	2.1%
4 . 大学の公開講座の優先参加	35.6%	9 . 特にな	20.4%
5 . 区民対象講座の開設	30.9%		

大学との相互協力協定に期待することについて聞いたところ、「大学の図書館の地域開放」(49.4%) がほぼ 5 割と最も多く、次いで「大学の公開講座の優先参加」(35.6%)、「区民対象講座の開設」(30.9%)、「大学の運動施設の地域開放」(30.0%) などの順となっている。(図 10 - 1 - 1)

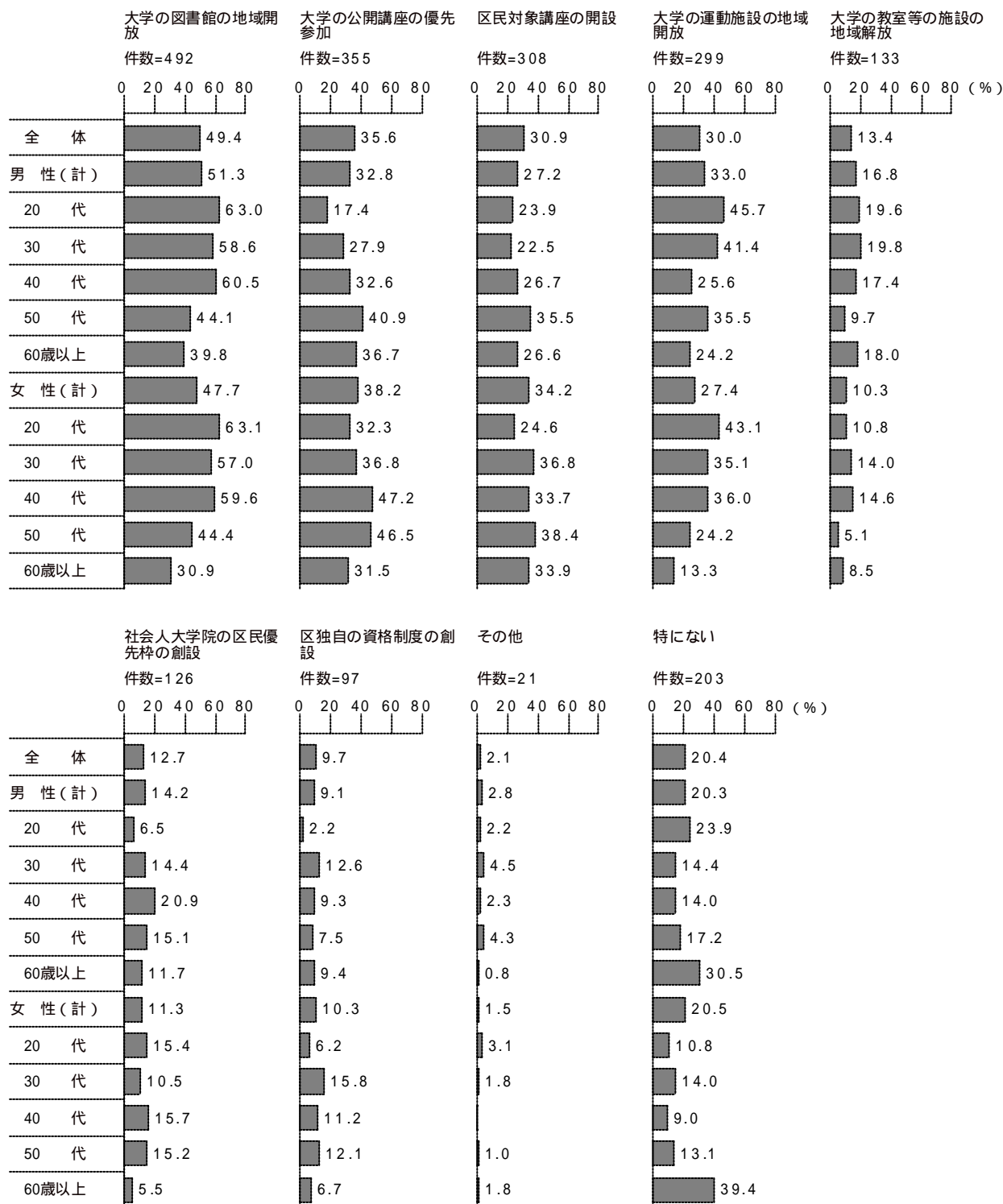
図 10 - 1 - 1 大学との相互協力協定に期待すること



性別にみると、男性の方が「大学の教室等の施設の地域解放」で7ポイント、「大学の運動施設の地域開放」で6ポイント高い。一方、女性の方が「区民対象講座の開設」で7ポイント、「大学の公開講座の優先参加」で5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「大学の図書館の地域開放」は男女とも20代から40代で6割前後を占め、「大学の公開講座の優先参加」は女性の40代と50代で5割近く、「大学の運動施設の地域開放」は男性の20代、30代と女性20代の年代で4割以上を占めている。また、「特にない」は男女とも60歳以上で3割以上を占めている。(図10-1-2)

図10-1-2 大学との相互協力協定に期待すること - 性・年代別



10 - 2 参加したい区民大学講座

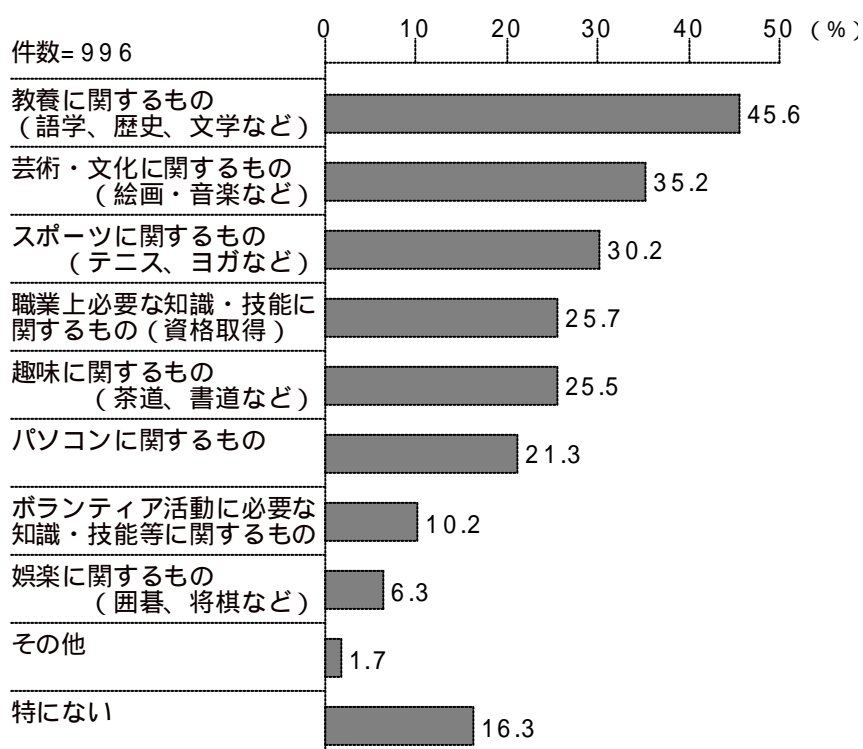
問 30 アカデミー構想では、大学、企業とも連携し、多様な学習講座を拡大していきます。そこで、あなたは、どのような講座があれば参加したいですか。3つ以内でお選びください。

(n = 996)

1 . 趣味に関するもの (茶道、書道など)	25.5%
2 . 娯楽に関するもの (囲碁、将棋など)	6.3%
3 . 教養に関するもの (語学、歴史、文学など)	45.6%
4 . パソコンに関するもの	21.3%
5 . 芸術・文化に関するもの (絵画・音楽など)	35.2%
6 . 職業上必要な知識・技能に関するもの (資格取得)	25.7%
7 . ボランティア活動に必要な知識・技能等に関するもの	10.2%
8 . スポーツに関するもの (テニス、ヨガなど)	30.2%
9 . その他	1.7%
10 . 特にない	16.3%

参加したい区民大学講座について聞いたところ、「教養に関するもの (語学、歴史、文学など)」(45.6%) が4割半ばと最も多く、次いで「芸術・文化に関するもの (絵画・音楽など)」(35.2%)、「スポーツに関するもの (テニス、ヨガなど)」(30.2%) などの順となっている。(図 10 - 2 - 1)

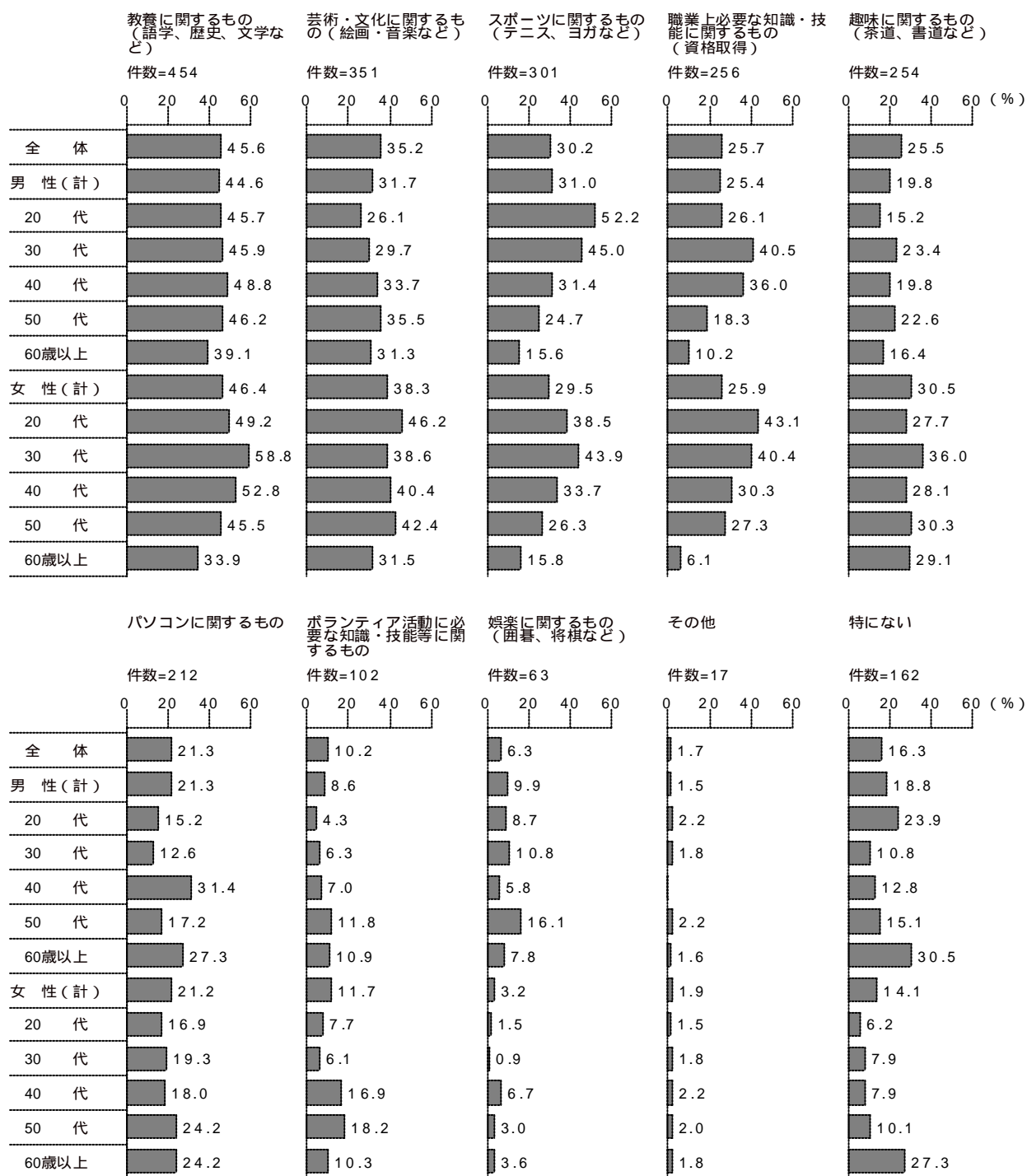
図 10 - 2 - 1 参加したい区民大学講座



性別にみると、女性の方が「趣味に関するもの（茶道、書道など）」で11ポイント、「芸術・文化に関するもの（絵画・音楽など）」で7ポイント高い。一方、男性の方が「娯楽に関するもの（囲碁、将棋など）」で7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「教養に関するもの（語学、歴史、文学など）」は女性30代で6割近く、「芸術・文化に関するもの（絵画・音楽など）」は女性20代で4割半ばと多い。「スポーツに関するもの（テニス、ヨガなど）」は男女とも低い年代ほど割合が高い傾向にあり、男性20代で5割を超えている。「職業上必要な知識・技能に関するもの（資格取得）」は女性では低い年代ほど割合が高い傾向にあり、女性20代で4割を超えている。「趣味に関するもの（茶道、書道など）」は女性30代で3割半ば、「パソコンに関するもの」は男性40代で3割を超え多い。また、「特にない」は男女とも60歳以上で3割前後と多くなっている。（図10-2-2）

図10-2-2 参加したい区民大学講座 - 性・年代別



10 - 3 インターネット配信による区民大学講座の利用意向

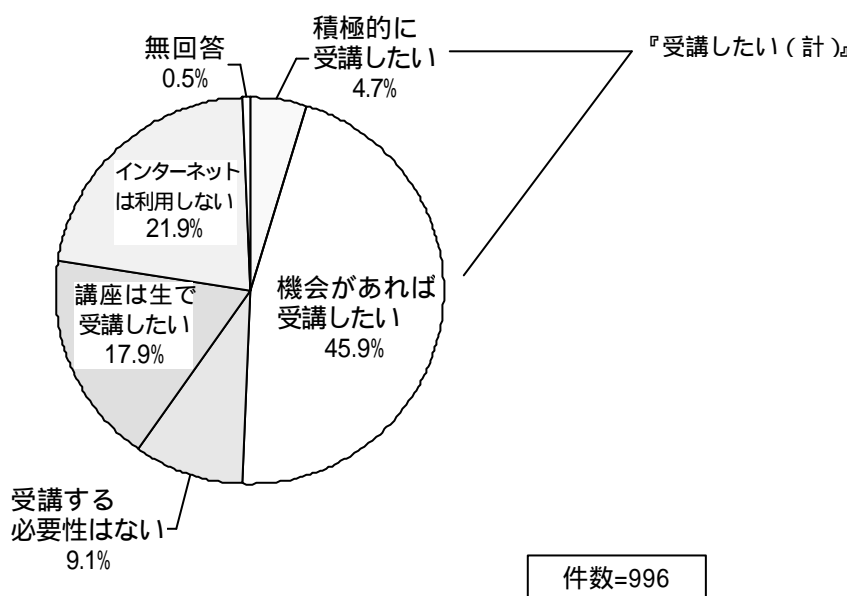
問 31 本年度から試行的に、インターネットを利用し、区民大学講座等を配信いたします。自宅のパソコンからの受講が可能となりますが、あなたは受講したいですか。1つお選びください。

(n = 996)

1 . 積極的に受講したい	4.7%	4 . 講座は生で受講したい	17.9%
2 . 機会があれば受講したい	45.9%	5 . インターネットは利用しない	21.9%
3 . 受講する必要性はない	9.1%	無回答	0.5%

インターネット配信による区民大学講座の利用意向について聞いたところ、「積極的に受講したい」(4.7%)と「機会があれば受講したい」を合わせた『受講したい(計)』(50.6%)がほぼ5割となっている。また、「受講する必要性はない」が9.1%、「講座は生で受講したい」(17.9%)が2割近くとなっている。(図 10 - 3 - 1)

図 10 - 3 - 1 インターネット配信による区民大学講座の利用意向

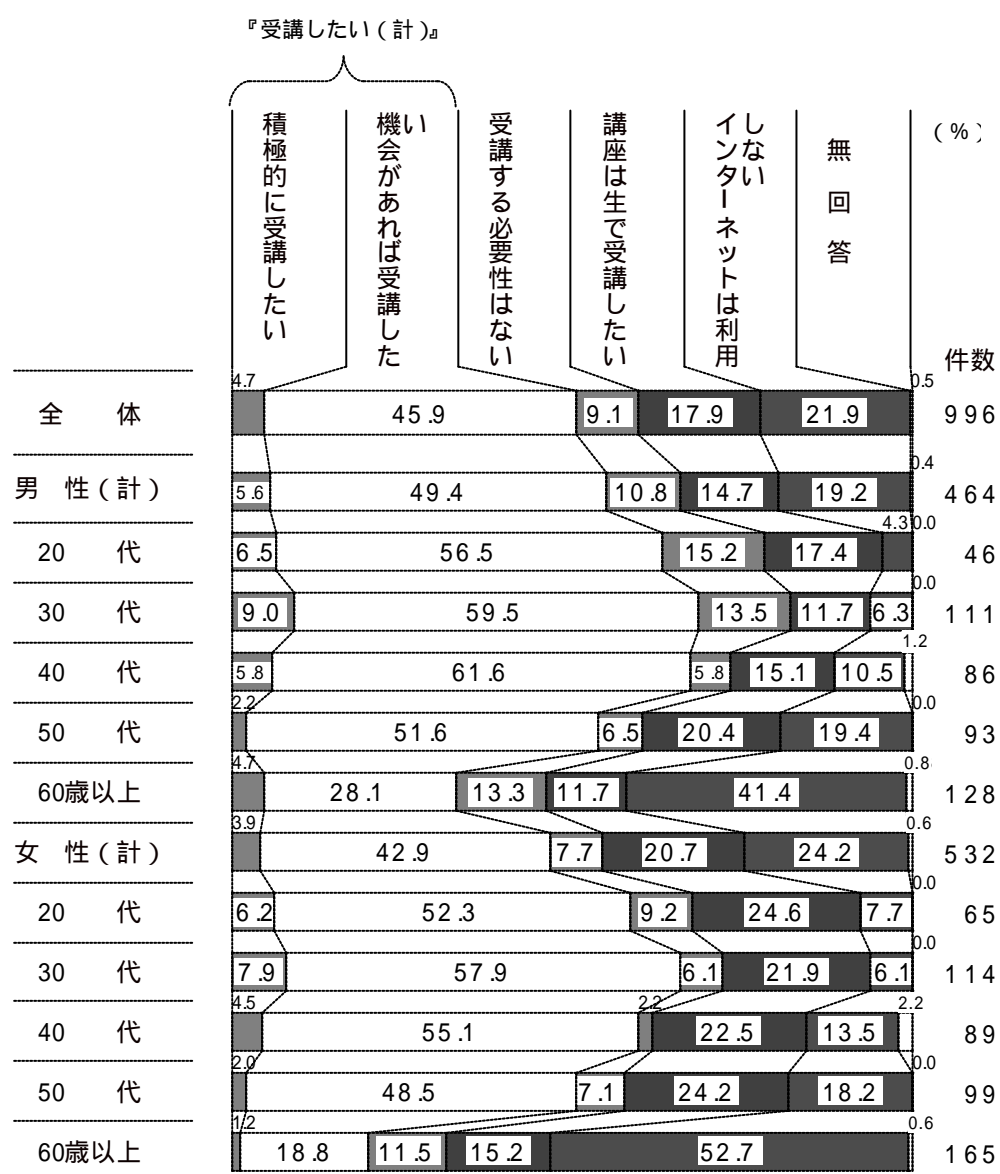


性別にみると、『受講したい(計)』は男性の方が8ポイント高い。一方、女性の方が「講座は生で受講したい」で6ポイント、「インターネットは利用しない」で5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『受講したい(計)』は男性の20代から40代と女性30代の年代で6割以上を占め、「インターネットは利用しない」は男女とも60歳以上で4割から5割となっている。

(図10-3-2)

図10-3-2 インターネット配信による区民大学講座の利用意向 - 性・年代別



11 . 情報化

-
- 11 - 1 インターネットによる電子申請・商取引等の利用状況
 - 11 - 2 区の電子化サービスで期待すること
-

11. 情報化

11 - 1 インターネットによる電子申請・商取引等の利用状況

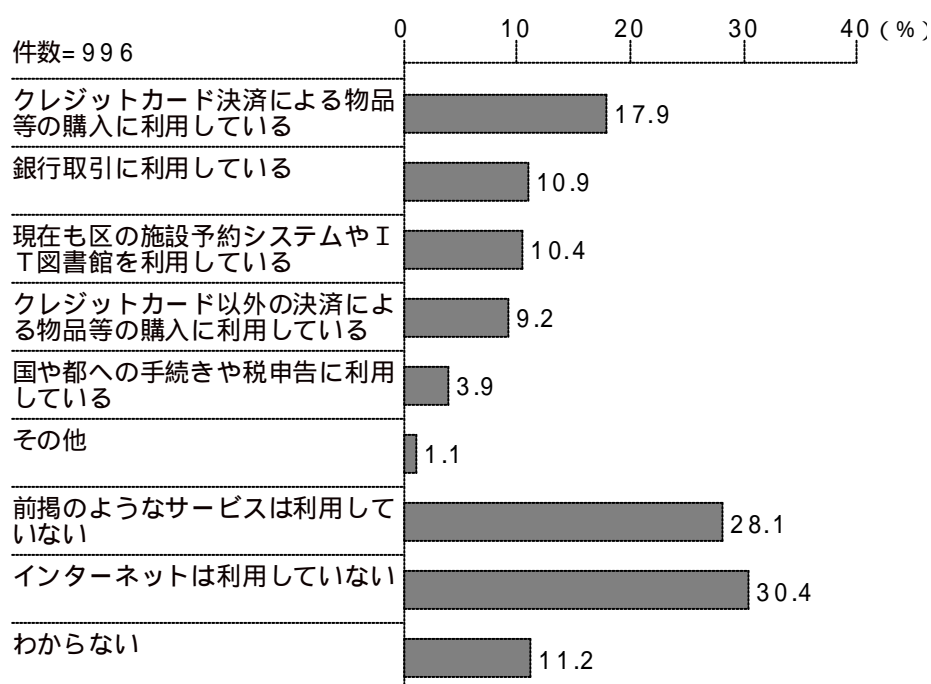
問 32 区では、現在、インターネットによる区の施設予約システムやIT図書館のサービス()を行っております。あなたはどのようなサービスを利用していますか。いくつかでもお選びください。

IT図書館とは、インターネットにより蔵書の検索や蔵書の予約ができるシステムをいいます。
(n = 996)

- | | |
|--|-------|
| 1. 現在もインターネットによる区の施設予約システムやIT図書館を利用している | 10.4% |
| 2. 国や都への手続きや税申告にインターネットを利用している | 3.9% |
| 3. 主にクレジットカード決済による物品等の購入にインターネットを利用している | 17.9% |
| 4. 主にクレジットカード以外の決済方法による物品等の購入にインターネットを利用している | 9.2% |
| 5. 銀行取引にインターネットを利用している | 10.9% |
| 6. その他 | 1.1% |
| 7. インターネットは利用しているが、1～5のようなサービスは利用していない | 28.1% |
| 8. インターネットは利用していない | 30.4% |
| 9. わからない | 11.2% |

インターネットによる電子申請・商取引等の利用状況について聞いたところ、「主にクレジットカード決済による物品等の購入にインターネットを利用している」(17.9%)が2割近くと最も多く、次いで「銀行取引にインターネットを利用している」(10.9%)、「現在もインターネットによる区の施設予約システムやIT図書館を利用している」(10.4%)などの順となっている。また、「インターネットは利用しているが、1～5のようなサービスは利用していない」(28.1%)が3割近く、「インターネットは利用していない」(30.4%)が3割となっている。(図11-1-1)

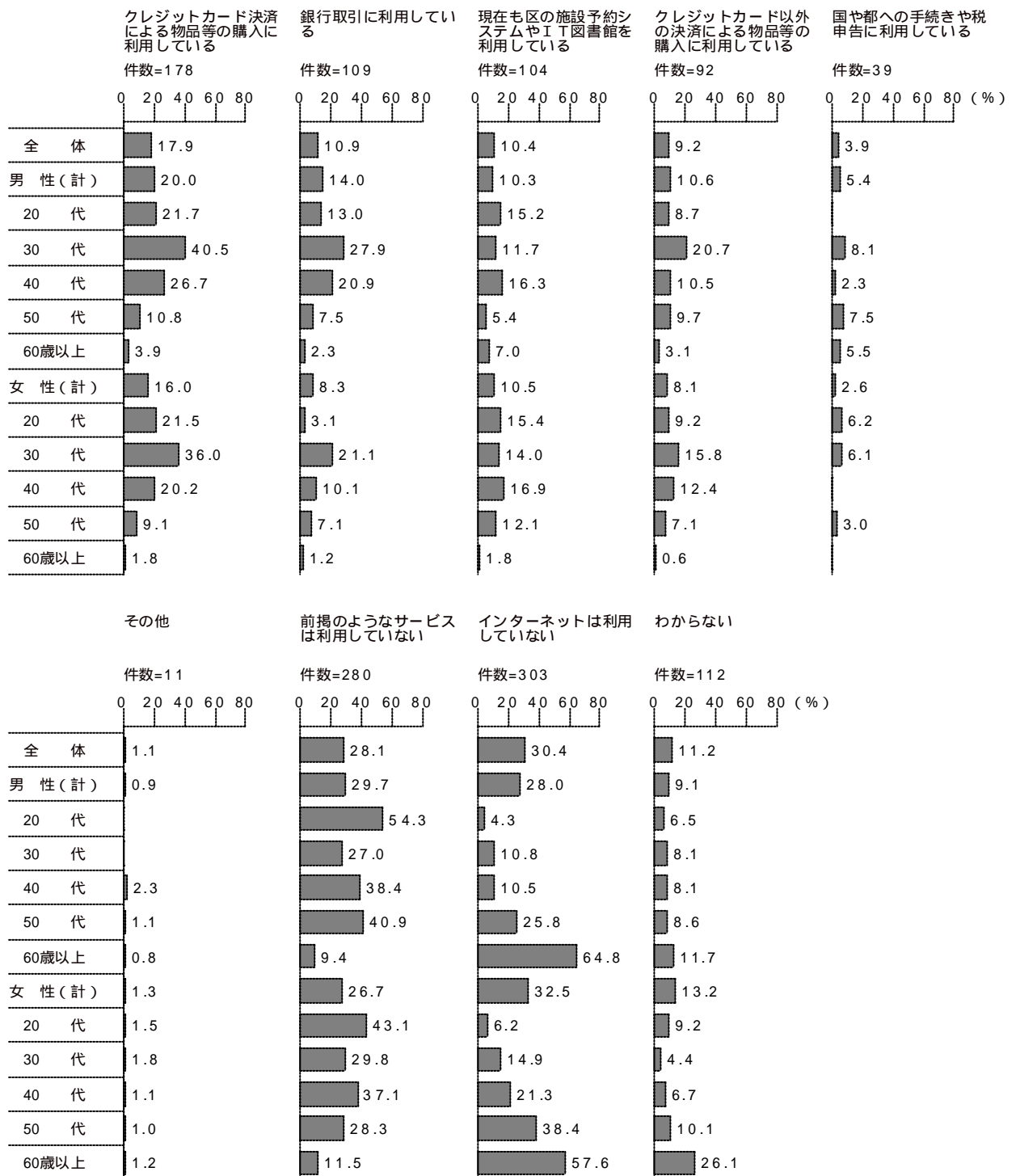
図 11 - 1 - 1 インターネットによる電子申請・商取引等の利用状況



性別にみると、「銀行取引にインターネットを利用している」は男性の方が6ポイント高く、「インターネットは利用していない」は女性の方が5ポイント高くなっている。

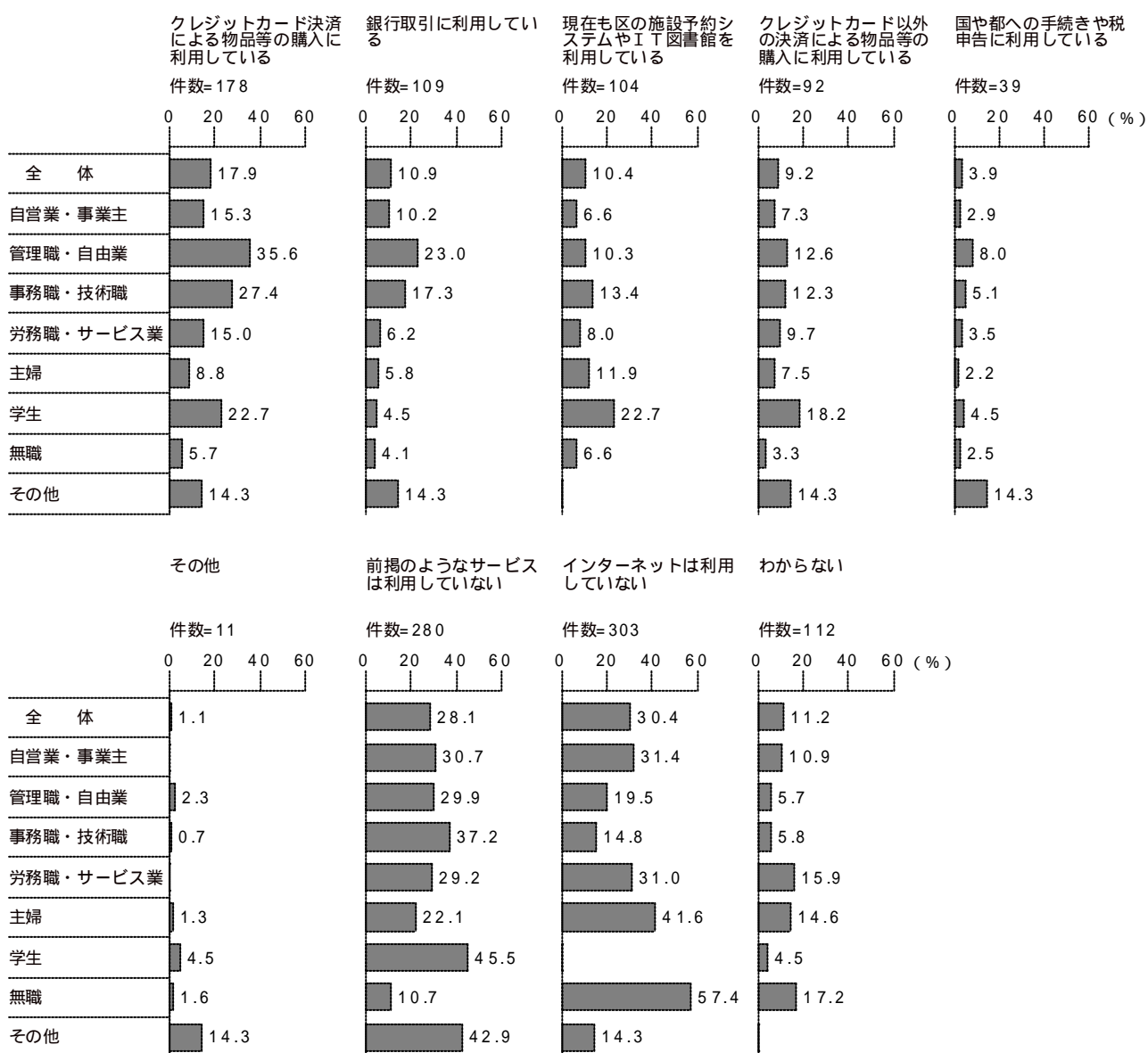
性・年代別にみると、男女とも30代では「主にクレジットカード決済による物品等の購入にインターネットを利用している」で4割前後、「銀行取引にインターネットを利用している」で2割以上を占めている。また、「主にクレジットカード以外の決済方法による物品等の購入にインターネットを利用している」は男性30代でほぼ2割と多い。一方、「インターネットは利用しているが、1～5のようなサービスは利用していない」は特に男性20代で5割半ば、「インターネットは利用していない」は男女とも60歳以上で6割前後と多くなっている。(図11-1-2)

図11-1-2 インターネットによる電子申請・商取引等の利用状況 - 性・年代別



職業別にみると、「主にクレジットカード決済による物品等の購入にインターネットを利用している」は管理職・自由業と事務職・技術職で3割前後、「銀行取引にインターネットを利用している」は管理職・自由業で2割を超え、「現在も区の施設予約システムやIT図書館を利用している」は学生で2割を超え多い。一方、「インターネットは利用しているが、1～5のようなサービスは利用していない」は学生で4割半ば、「インターネットは利用していない」は主婦と無職で4割から6割近くを占めている。(図11-1-3)

図11-1-3 インターネットによる電子申請・商取引等の利用状況 - 職業別



11 - 2 区の電子化サービスで期待すること

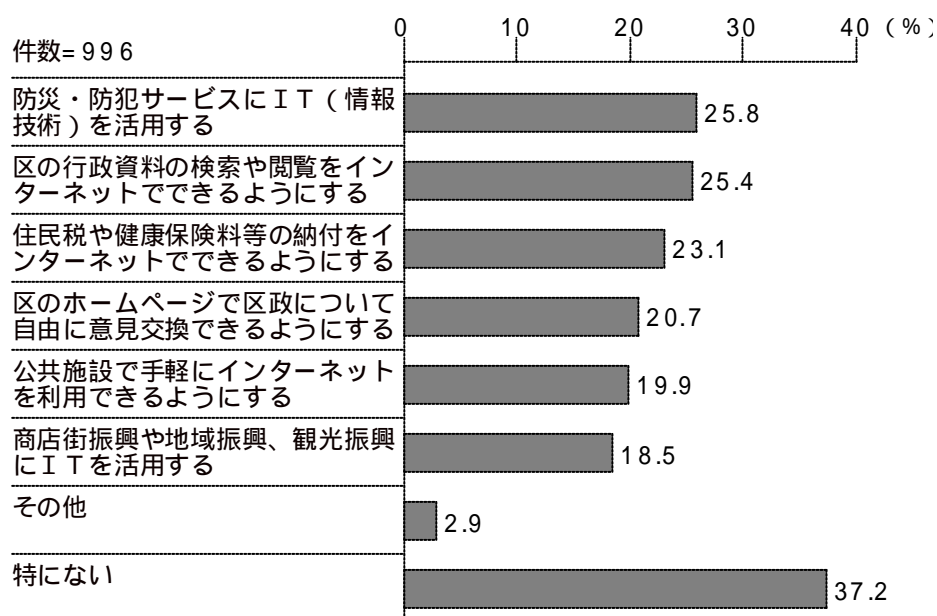
問 33 あなたが、電子化により実現するとよいと思う区のサービスは何ですか。いくつでもお選びください。

(n = 996)

1. 区民参画を図るため、区のホームページで区政について区民が自由に意見交換をできるようにする	20.7%
2. 住民税や健康保険料をはじめとした区への各種の納付をインターネットでできるようにする	23.1%
3. 公共施設で無線LAN等を通じて、手軽にインターネットを利用できるようにする	19.9%
4. 区の行政資料の検索や閲覧（情報公開）をインターネットでできるようにする	25.4%
5. 防災・防犯サービスにIT（情報技術）を活用する	25.8%
6. 商店街振興や地域振興、観光振興にITを活用する	18.5%
7. その他	2.9%
8. 特にない	37.2%

区の電子化サービスで期待することについて聞いたところ、「防災・防犯サービスにIT（情報技術）を活用する」（25.8%）が2割半ばと最も多く、次いで「区の行政資料の検索や閲覧（情報公開）をインターネットでできるようにする」（25.4%）、「住民税や健康保険料をはじめとした区への各種の納付をインターネットでできるようにする」（23.1%）などの順となっている。また、「特にない」（37.2%）が4割近くとなっている。（図 11 - 2 - 1）

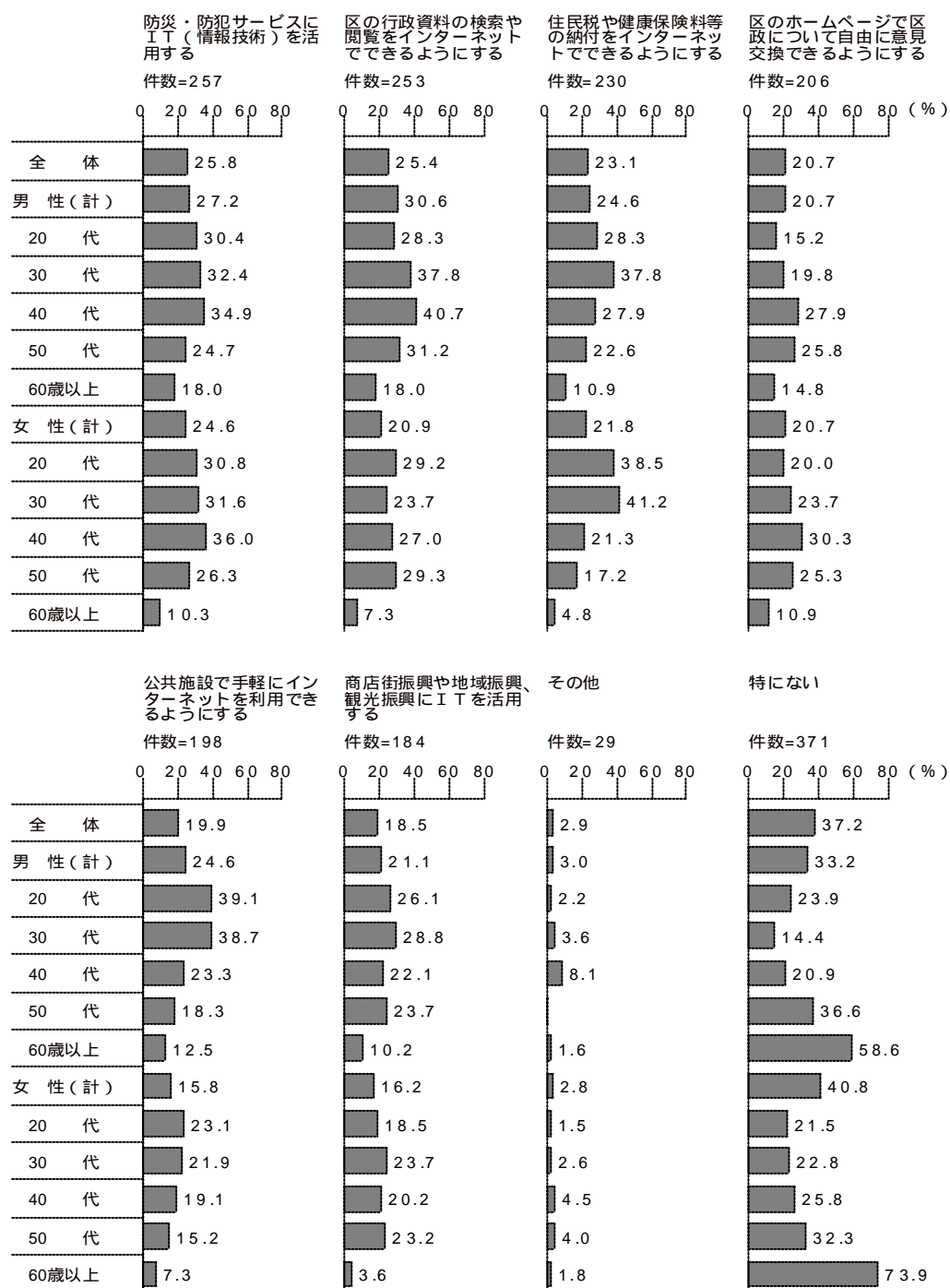
図 11 - 2 - 1 区の電子化サービスで期待すること



性別にみると、男性の方が「区の行政資料の検索や閲覧（情報公開）をインターネットでできるようにする」で10ポイント、「公共施設で無線LAN等を通じて、手軽にインターネットを利用できるようにする」で9ポイント高い。一方、「特にない」は女性の方が8ポイント高くなっている。

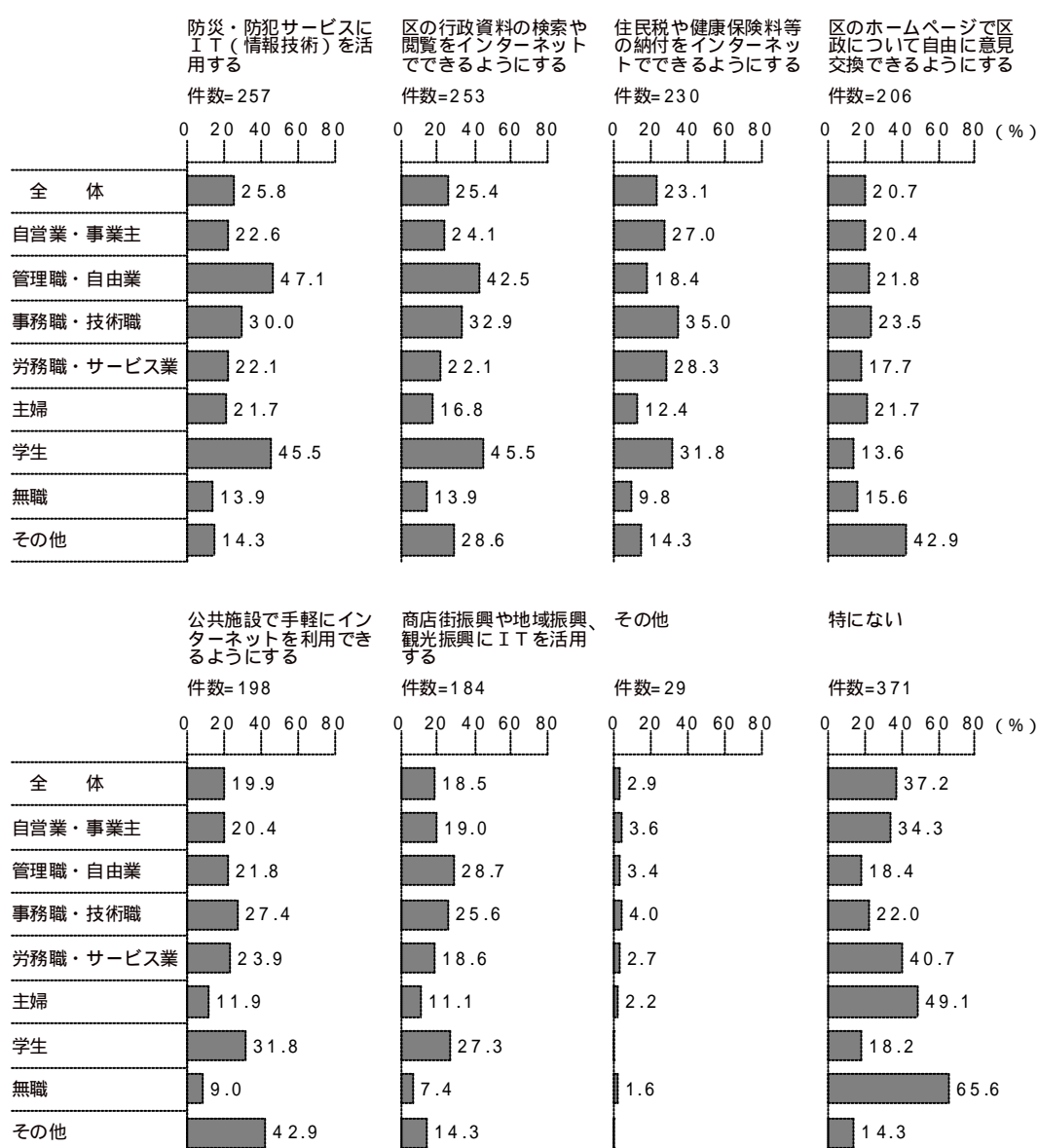
性・年代別にみると、「防災・防犯サービスにIT（情報技術）を活用する」は男女とも40代で3割半ば、「区の行政資料の検索や閲覧（情報公開）をインターネットでできるようにする」は男性の30代と40代で4割前後、「住民税や健康保険料をはじめとした区への各種の納付をインターネットでできるようにする」は男性30代と女性の20代、30代の年代で4割前後となっている。「公共施設で無線LAN等を通じて、手軽にインターネットを利用できるようにする」は男女とも低い年代ほど割合が高い傾向にあり、特に男性の20代と30代で4割近くとなっている。また、「特にない」は女性では高い年代ほど割合が高い傾向にあり、また男性60歳以上で6割近く、女性60歳以上で7割を超えている。（図11-2-2）

図11-2-2 区の電子化サービスで期待すること - 性・年代別



職業別にみると、管理職・自由業と学生では「防災・防犯サービスにIT（情報技術）を活用する」と「区の行政資料の検索や閲覧（情報公開）をインターネットでできるようにする」で4割以上を占めている。「住民税や健康保険料をはじめとした区への各種の納付をインターネットでできるようにする」は事務職・技術職で3割半ば、「公共施設で無線LAN等を通じて、手軽にインターネットを利用できるようにする」は学生で3割を超え、「商店街振興や地域振興、観光振興にITを活用」は管理職・自由業で3割近くと多い。また、「特にない」は主婦でほぼ5割、無職で6割半ばと多くなっている。（図11-2-3）

図11-2-3 区の電子化サービスで期待すること - 職業別



12 . 議 会

-
- 12 - 1 区議会の活動の認知媒体
 - 12 - 2 区議会の役割として期待すること
 - 12 - 3 区議会のホームページで関心のある内容
-

12. 議会

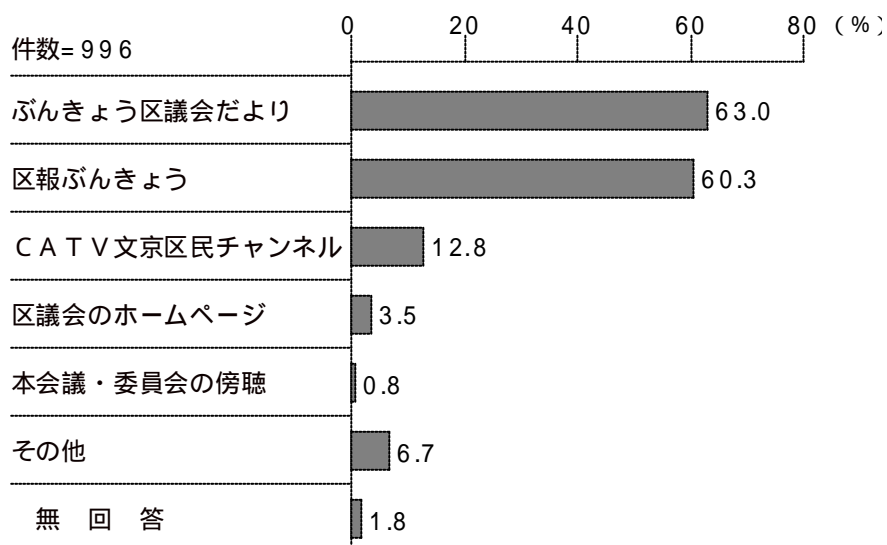
12 - 1 区議会の活動の認知媒体

問 34 あなたは、区議会の活動を、どのようにしてお知りになっていますか。いくつでもお選びください。			
(n = 996)			
1. ぶんきょう区議会だより	63.0%	4. 区報ぶんきょう	60.3%
2. 区議会のホームページ	3.5%	5. C A T V文京区民チャンネル	12.8%
3. 本会議・委員会の傍聴	0.8%	6. その他	6.7%
		無回答	1.8%

区議会の活動の認知媒体について聞いたところ、「ぶんきょう区議会だより」(63.0%)と「区報ぶんきょう」(60.3%)が6割以上を占めとびぬけて多く、次いで「C A T V文京区民チャンネル」(12.8%)「区議会のホームページ」(3.5%)「本会議・委員会の傍聴」(0.8%)の順となっている。

(図 12 - 1 - 1)

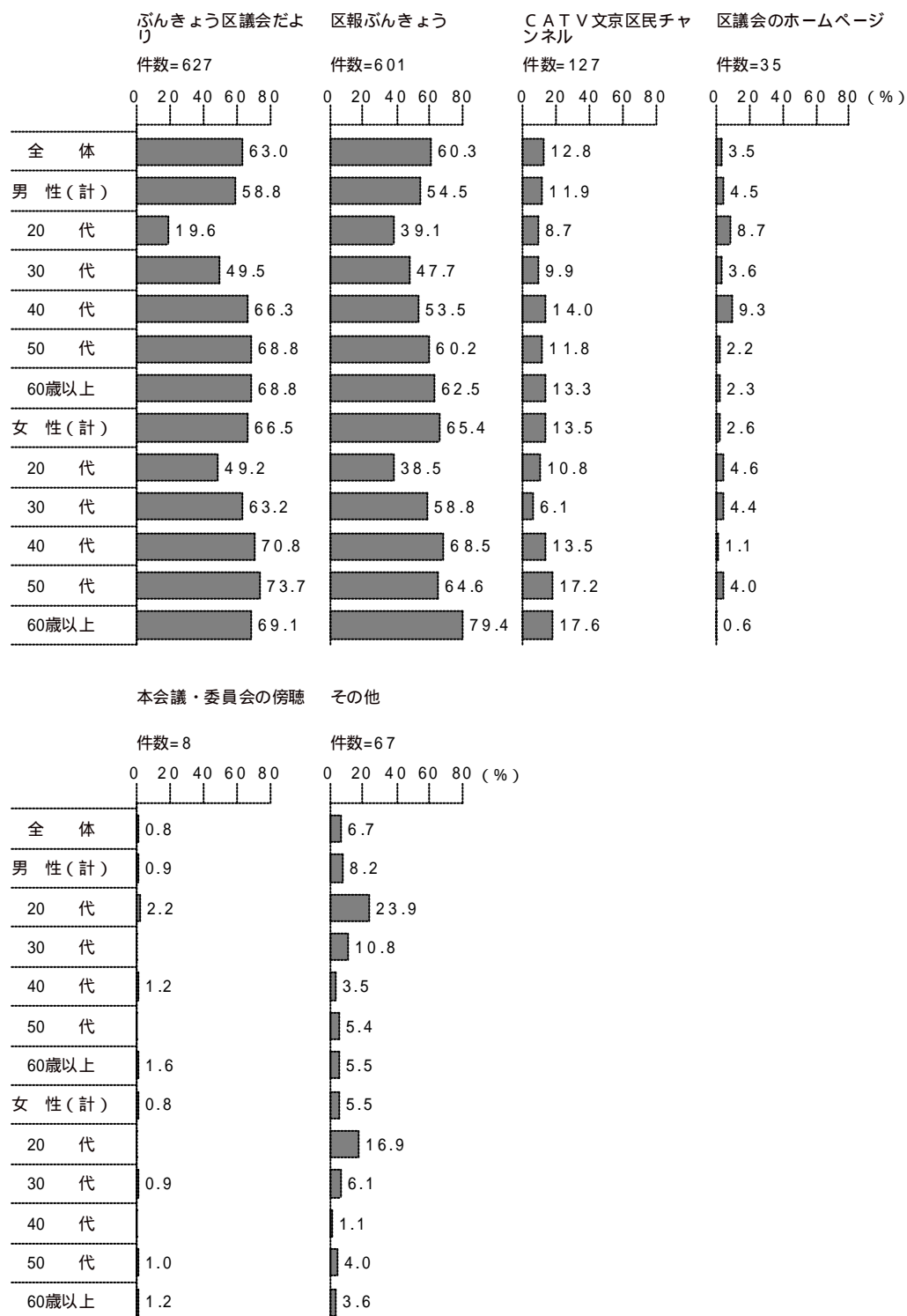
図 12 - 1 - 1 区議会の活動の認知媒体



性別にみると、女性の方が「ぶんきょう区議会だより」で8ポイント、「区報ぶんきょう」で11ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「ぶんきょう区議会だより」は女性の40代以上の年代で7割前後と多い。「区報ぶんきょう」は男女とも高い年代ほど割合が高い傾向にあり、特に女性60歳以上でほぼ8割となっている。(図12-1-2)

図12-1-2 区議会の活動の認知媒体 - 性・年代別



12 - 2 区議会の役割として期待すること

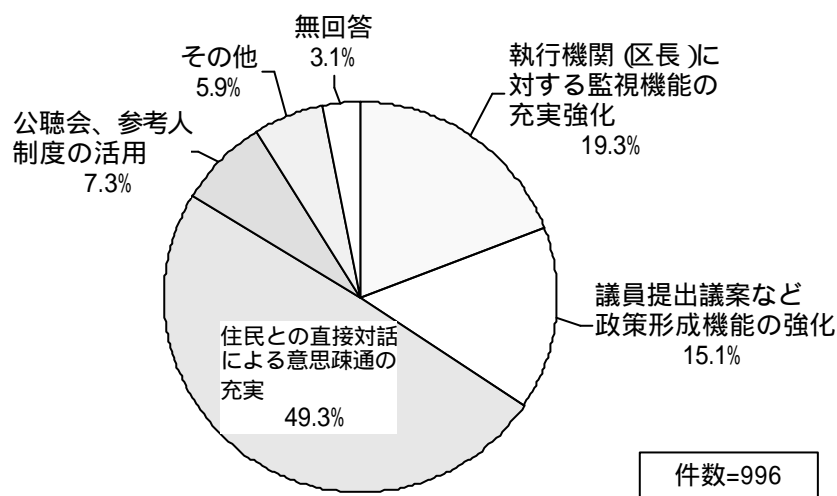
問 35 今、地方議会の活性化が注目されていますが、区議会の役割として最も期待することはどれですか。1つお選びください。

(n = 996)

1. 執行機関（区長）に対する監視機能の充実強化	19.3%
2. 議員提出議案など政策形成機能の強化	15.1%
3. 住民との直接対話による意思疎通の充実	49.3%
4. 公聴会、参考人制度の活用	7.3%
5. その他	5.9%
無回答	3.1%

区議会の役割として期待することについて聞いたところ、「住民との直接対話による意思疎通の充実」(49.3%)がほぼ5割と最も多く、次いで「執行機関(区長)に対する監視機能の充実強化」(19.3%)、「議員提出議案など政策形成機能の強化」(15.1%)、「公聴会、参考人制度の活用」(7.3%)の順となっている。(図12-2-1)

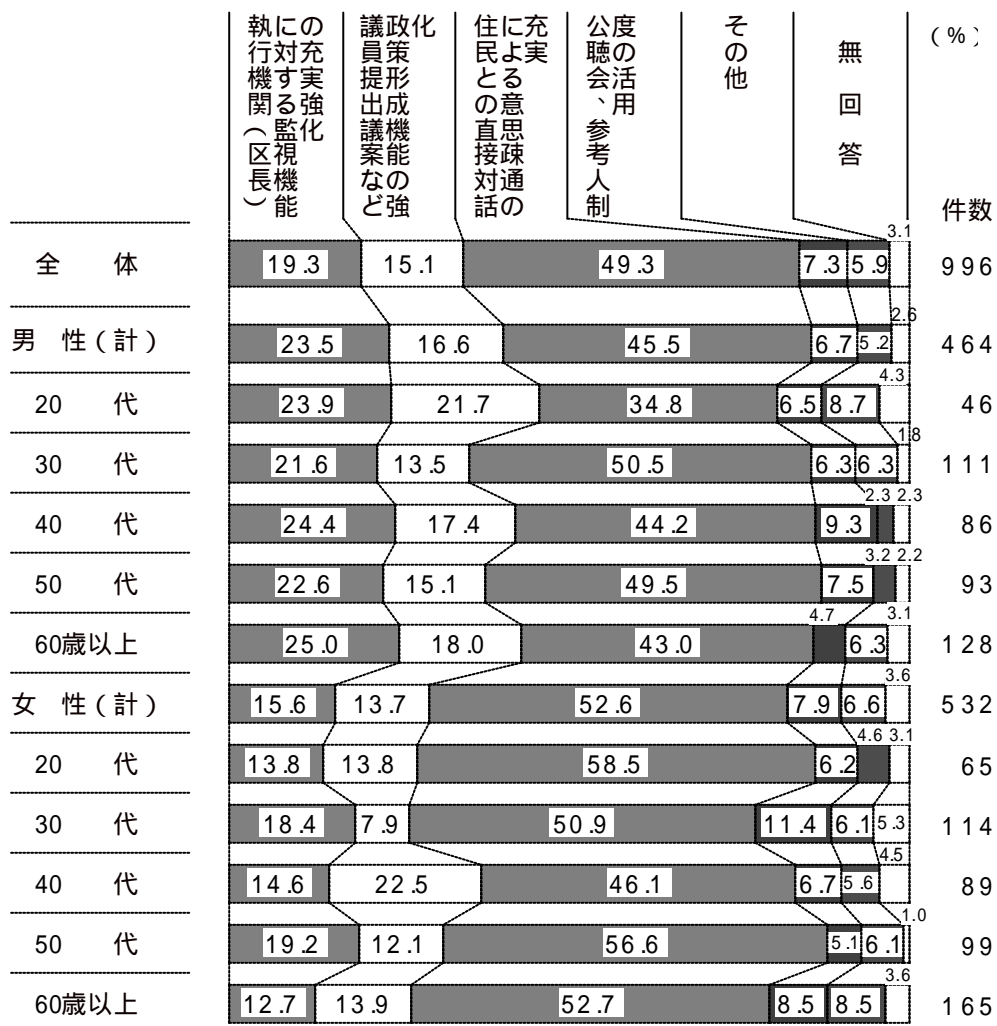
図 12 - 2 - 1 区議会の役割として期待すること



性別にみると、「執行機関（区長）に対する監視機能の充実強化」は男性の方が8ポイント高く、「住民との直接対話による意思疎通の充実」は女性の方が7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「住民との直接対話による意思疎通の充実」は女性20代で6割近くと多くなっている。（図12-2-2）

図12-2-2 区議会の役割として期待すること - 性・年代別



12 - 3 区議会のホームページで関心のある内容

問 36 区議会のホームページで関心があるものはどれですか。いくつでもお選びください。

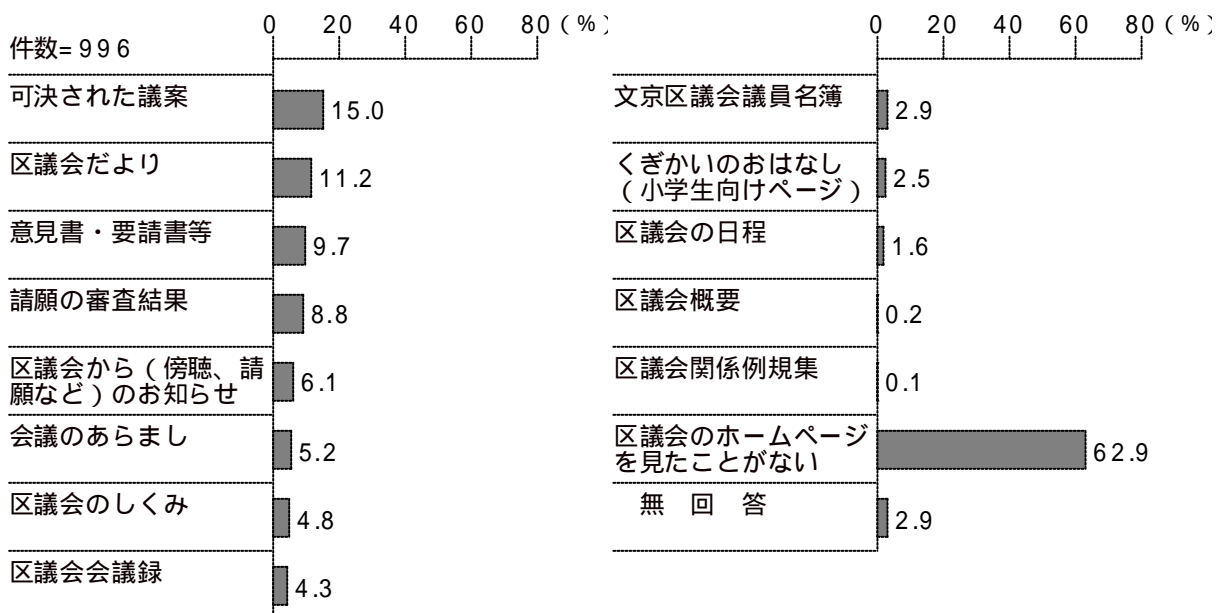
(n = 996)

1 . 区議会のしくみ	4.8%	8 . 意見書・要請書等	9.7%
2 . 会議のあらまし	5.2%	9 . 請願の審査結果	8.8%
3 . 区議会から（傍聴、請願など） のお知らせ	6.1%	10 . 区議会だより	11.2%
4 . 区議会の日程	1.6%	11 . 区議会概要	0.2%
5 . 文京区議会議員名簿	2.9%	12 . 区議会関係例規集	0.1%
6 . 区議会会議録	4.3%	13 . くぎかいのおはなし（小学生向けページ）	2.5%
7 . 可決された議案	15.0%	14 . 区議会のホームページを見たことがない	62.9%
		無回答	2.9%

区議会のホームページで関心のある内容について聞いたところ、「可決された議案」（15.0％）が1割半ばと最も多く、次いで「区議会だより」（11.2％）「意見書・要請書等」（9.7％）などの順となっている。また、「区議会のホームページを見たことがない」（62.9％）が6割を超えている。

（図 12 - 3 - 1）

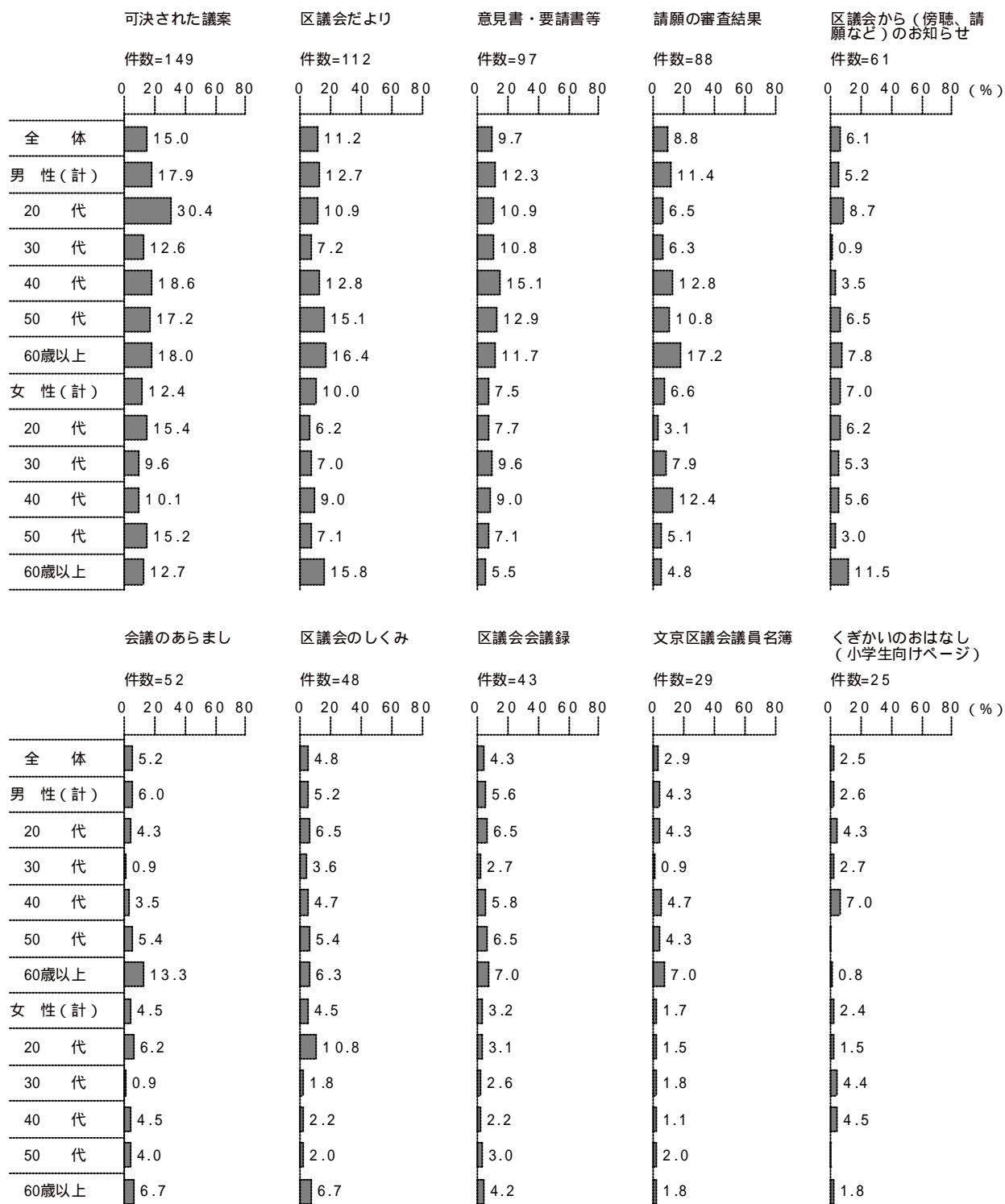
図 12 - 3 - 1 区議会のホームページで関心のある内容



性別にみると、男性の方が「可決された議案」で6ポイント、「意見書・要請書等」と「請願の審査結果」で5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「可決された議案」は男性20代で3割と多くなっている。(図12-3-2)

図12-3-2 区議会のホームページで関心のある内容 - 性・年代別(上位10項目)



13 . 広 報 ・ 広 聴

-
- 13 - 1 区役所本庁の窓口の利用状況
 - 13 - 2 区役所本庁の窓口での職員対応の印象
 - 13 - 3 職員の接遇向上のために大切なこと
-

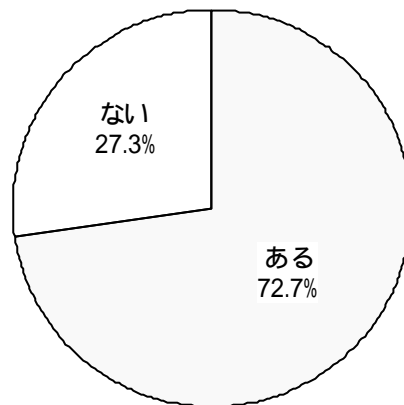
13. 広報・広聴

13 - 1 区役所本庁の窓口の利用状況

問37 あなたは、過去2年くらいの間に区役所本庁の窓口を利用したことがありますか。			
(n = 996)			
1. ある	72.7%	2. ない	27.3%

区役所本庁の窓口の利用状況について聞いたところ、「ある」(72.7%)が7割を超え、ほぼ4人に3人が利用したことがあるといえる。(図13-1-1)

図13-1-1 区役所本庁の窓口の利用状況

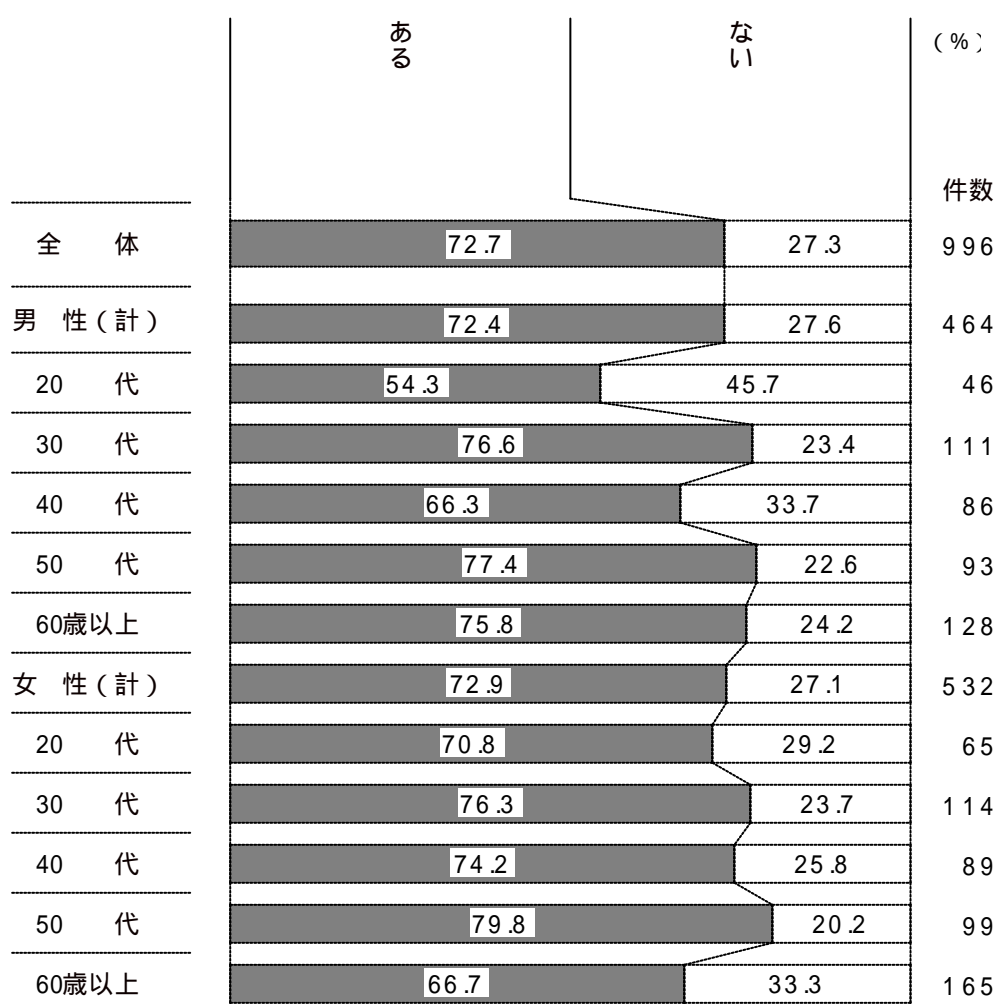


件数=996

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別にみると、「ない」は男性 20 代で 4 割半ばと多くなっている。(図 13 - 1 - 2)

図 13 - 1 - 2 区役所本庁の窓口の利用状況 - 性・年代別



13 - 2 区役所本庁の窓口での職員対応の印象

(問 37 で「 1 . ある 」とお答えの方にうかがいます)

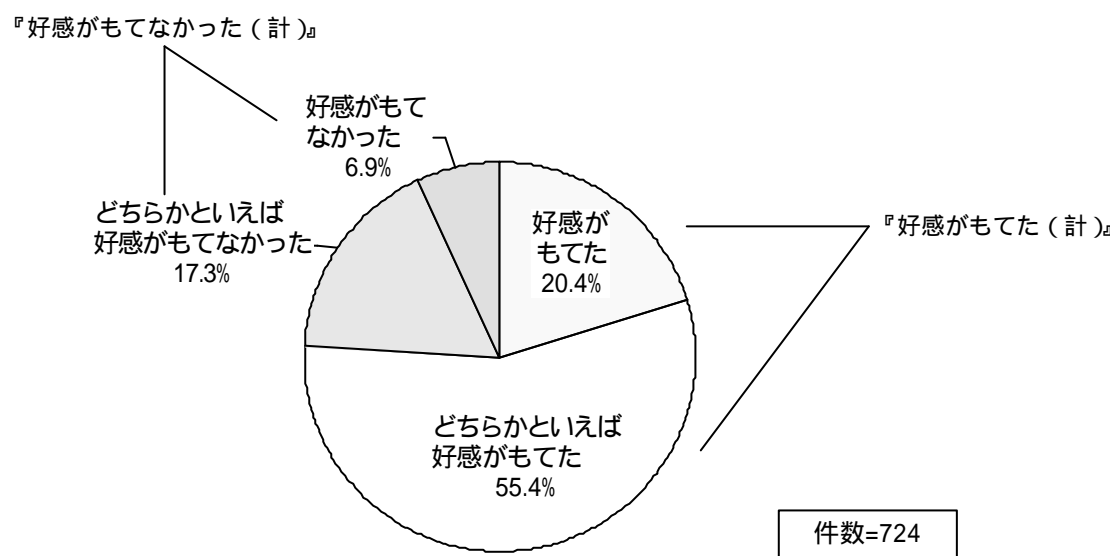
問 37 - 1 その時の職員の対応はいかがでしたか。1 つお選びください。

(n = 724)

1 . 好感がもてた	20.4%	3 . どちらかといえば好感がもてなかった	17.3%
2 . どちらかといえば好感がもてた	55.4%	4 . 好感がもてなかった	6.9%

区役所本庁の窓口の利用が「ある」と答えた人(724人)に、区役所本庁の窓口での職員対応の印象について聞いたところ、「好感がもてた(20.4%)と「どちらかといえば好感がもてた(55.4%)を合わせた『好感がもてた(計)』(75.8%)は7割半ばとなっている。一方、「好感がもてなかった(6.9%)と「どちらかといえば好感がもてなかった(17.3%)を合わせた『好感がもてなかった(計)』(24.3%)は2割半ばとなっている。(図 13 - 2 - 1)

図 13 - 2 - 1 区役所本庁の窓口での職員対応の印象

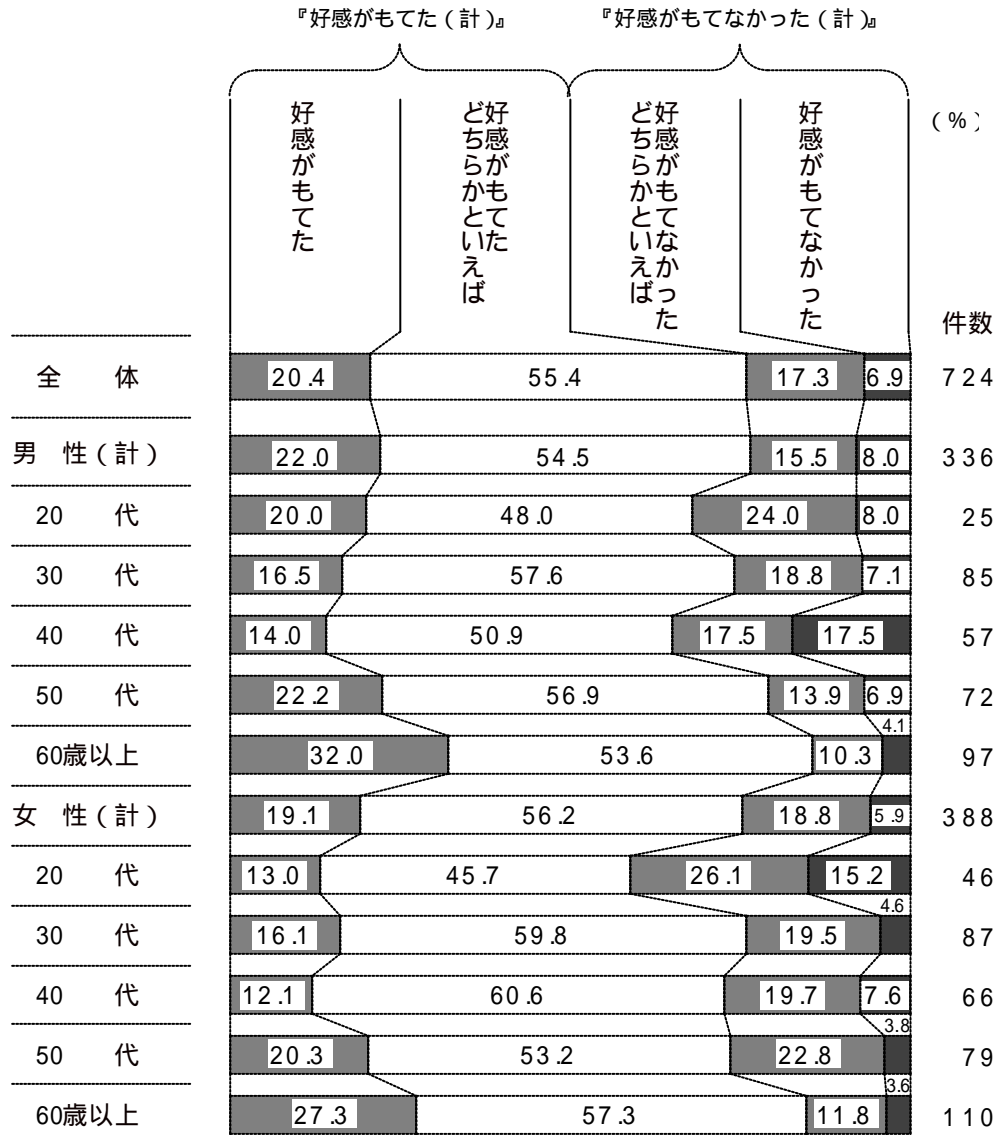


性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別にみると、『好感がもてた(計)』は男女とも60歳以上で8割半ばと多く、『好感がもてなかった(計)』は男性の20代と40代、女性20代の年代で3割から4割と多くなっている。

(図13-2-2)

図13-2-2 区役所本庁の窓口での職員対応の印象 - 性・年代別



13 - 3 職員の接遇向上のために大切なこと

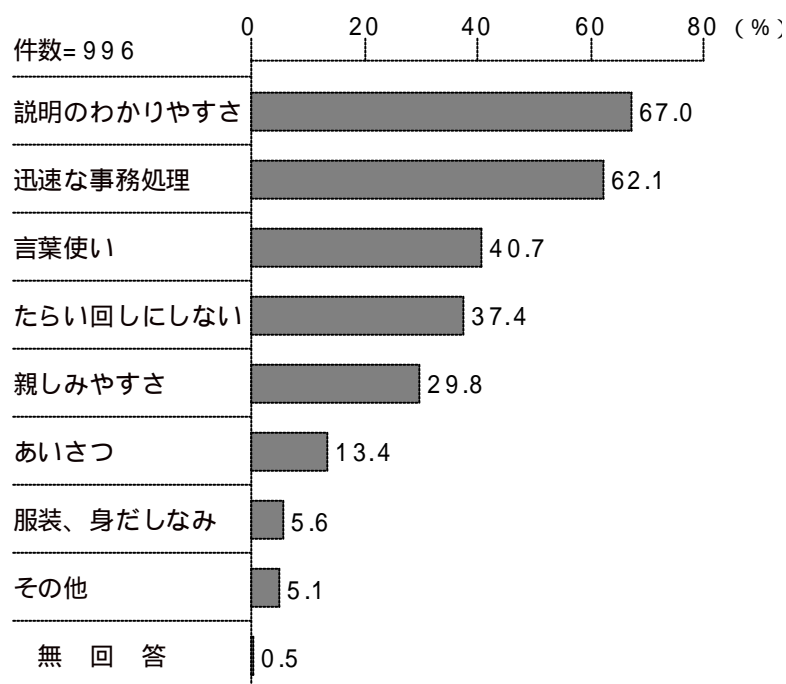
問 38 あなたは、誰もが気持ちよく利用できる区役所にするためには、職員の接遇で何が大切だと思いますか。3つ以内でお選びください。

(n = 996)

1 . 親しみやすさ	29.8%	5 . 説明のわかりやすさ	67.0%
2 . 服装、身だしなみ	5.6%	6 . 迅速な事務処理	62.1%
3 . 言葉使い	40.7%	7 . たらい回しにしない	37.4%
4 . あいさつ	13.4%	8 . その他	5.1%
		無回答	0.5%

職員の接遇向上のために大切なことについて聞いたところ、「説明のわかりやすさ」(67.0%)が7割近くと最も多く、次いで「迅速な事務処理」(62.1%)、「言葉使い」(40.7%)、「たらい回しにしない」(37.4%)などの順となっている。(図 13 - 3 - 1)

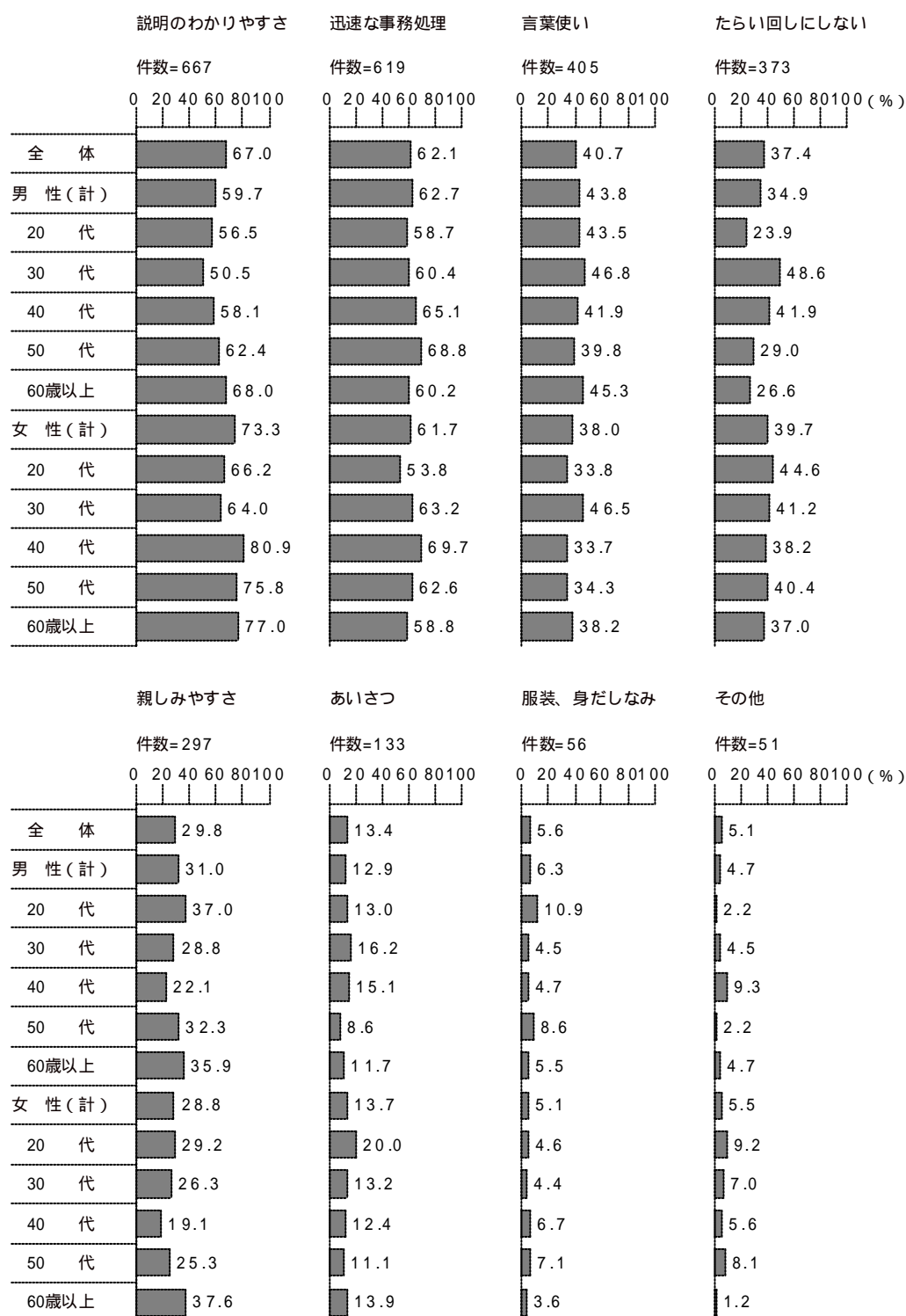
図 13 - 3 - 1 職員の接遇向上のために大切なこと



性別にみると、女性の方が「説明のわかりやすさ」で14ポイント、「たらい回しにしない」で5ポイント高い。一方、「言葉使い」は男性の方が6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「説明のわかりやすさ」は女性の40代と60歳以上の年代で8割前後、「たらい回しにしない」は男性30代で5割近くと多くなっている。(図13-3-2)

図13-3-2 職員の接遇向上のために大切なこと - 性・年代別



. 使用した調査票

第 20 回 文 京 区 政 に 関 す る 世 論 調 査

ご 協 力 の お 願 い

皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、文京区では、区政の各分野について区民の皆様が日頃感じていらっしゃることをお伺いし、今後の区政に役立てるために、「文京区政に関する世論調査」を3年ごとに実施しております。本年度は、8月10日号の区報でお知らせしましたとおり、8月中旬より実施することとなりました。

調査にあたりまして、区内にお住まいの20歳以上の方々の中から、無作為にあなた様をはじめ1,300人の方を調査対象者に選ばせていただきました。調査の結果は「こういう意見が何%」という形でしか発表いたしませんので、個人のお名前などが出ることは一切ありません。

なお、この調査票は、8月25日頃から9月上旬にかけて、下記の調査委託先（株式会社エスピー研）の調査員が受け取りにお伺いいたしますので、ご回答のほどよろしくお願い申し上げます。また、ご不明な点がございましたら下記までお問い合わせください。

ご多忙のところ、誠に恐縮ですが、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成 18 年 8 月

文 京 区 長
煙 山 力

<調査に関するお問い合わせ先>

株式会社エスピー研 調査事業部 担当 秋葉、安原

東京都千代田区飯田橋3 - 1 1 - 2 0

電 話 3 2 3 9 - 0 0 8 5 (直 通)

受付時間

月～金曜日 10:00～12:00、13:00～17:30

(上記以外の時間は留守番電話がお受けします)

文京区役所 企画政策部 広報課 広聴・相談担当

電 話 5 8 0 3 - 1 1 2 9 (直 通)

<ご記入いただく上でのお願い>

この調査票のご記入は、これを送付させていただいた宛名のご本人様にお願いいたします。

ご記入にあたっては、次の要領でお願いいたします。

1. ご回答は、あてはまる項目の番号に 印をつけてください。
2. 質問によって、印は(1つ)(3つ以内)(いくつでも)といった、ことわり書きが付してありますので、ご回答にご注意ください。
3. ご回答が「その他」にあてはまる場合には、()内に具体的な内容をご記入ください。

プライバシーマークとは..

経済産業省の外郭団体(財)日本情報処理開発協会が個人情報についての十分な保護策を講じた企業に対して付与する認定印です。(株)エスピー研はプライバシーマークを取得しています。

お客様からの信頼のみならず、情報提供者の方からも信頼されるよう、個人情報の保護に取り組んでいます。



【 1 定住意向】

問 1 あなたは、文京区にお住まいになって何年になりますか。(は1つ)

- | | | |
|-------------|---------------|---------------|
| 1 . 5 年未満 | 3 . 10 ~ 14 年 | 5 . 20 ~ 24 年 |
| 2 . 5 ~ 9 年 | 4 . 15 ~ 19 年 | 6 . 25 年以上 |

問 2 あなたは、これからも文京区に住み続けたいと思いますか。(は1つ)

- | | |
|------------------|-------------|
| 1 . ずっと住み続けたい | → 問 2 - 1 へ |
| 2 . 当分の間は住んでいたい | |
| 3 . いずれは転出したい | → 問 2 - 2 へ |
| 4 . 近いうちに転出するつもり | |
| 5 . わからない | → 問 3 へ |

(問2で「1」または「2」とお答えの方に向かいます)

問 2 - 1 住み続けたいと思う理由を3つ以内でお選びください。

- | |
|--------------------------------|
| 1 . 通勤・通学など交通の便がよい |
| 2 . 緑や街並みなどが整備されている |
| 3 . 図書館、学校、保育園など公共施設が整備されている |
| 4 . 養護施設や医療施設が整備されている |
| 5 . 地元の商店などで生活に必要なものがそろい、便利である |
| 6 . 生まれ育った地域であり、愛着がある |
| 7 . 持ち家のため、住み続けたい |
| 8 . その他 (具体的に |

(問2で「3」または「4」とお答えの方に向かいます)

問 2 - 2 どういうところに転出したいと思いますか。2つ以内でお選びください。

- | |
|------------------------------|
| 1 . 通勤・通学に便利なところ |
| 2 . 居住費負担 (家賃やローン返済額) が軽くなる所 |
| 3 . 広い住宅を確保できる所 |
| 4 . 緑が多く、環境のよい所 |
| 5 . 買物など日常生活に便利な施設が整っている所 |
| 6 . 親や子どもに近い所 (同居を含む) |
| 7 . その他 (具体的に |

【 2 区の施策と財政】

問 3 次の区の施策のうち、あなたが満足に感じているものを、3つ以内でお選びください。

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 1. 学校教育施策 | 14. 都市整備施策 |
| 2. 生涯学習施策 | 15. 清掃・リサイクル施策 |
| 3. レクリエーション・スポーツ・
芸術振興施策 | 16. 環境施策 |
| 4. 伝統文化保存施策 | 17. 住宅・定住施策 |
| 5. 地域内外の人との交流推進施策 | 18. 公園・緑化・景観施策 |
| 6. 保健衛生施策 | 19. 防災施策 |
| 7. 子育て支援施策 | 20. コミュニティ振興施策 |
| 8. 高齢者施策 | 21. NPO・ボランティア振興施策 |
| 9. 心身障害者施策 | 22. 中小企業・商業振興施策 |
| 10. ひとり親施策 | 23. 消費者保護施策 |
| 11. 低所得者施策 | 24. 地域情報化施策 |
| 12. 青少年施策 | 25. その他 |
| 13. 男女平等参画施策 | (具体的に) |
| | 26. 特にない |

問 4 次の区の施策のうち、あなたが不満に感じているものを、3つ以内でお選びください。

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 1. 学校教育施策 | 14. 都市整備施策 |
| 2. 生涯学習施策 | 15. 清掃・リサイクル施策 |
| 3. レクリエーション・スポーツ・
芸術振興施策 | 16. 環境施策 |
| 4. 伝統文化保存施策 | 17. 住宅・定住施策 |
| 5. 地域内外の人との交流推進施策 | 18. 公園・緑化・景観施策 |
| 6. 保健衛生施策 | 19. 防災施策 |
| 7. 子育て支援施策 | 20. コミュニティ振興施策 |
| 8. 高齢者施策 | 21. NPO・ボランティア振興施策 |
| 9. 心身障害者施策 | 22. 中小企業・商業振興施策 |
| 10. ひとり親施策 | 23. 消費者保護施策 |
| 11. 低所得者施策 | 24. 地域情報化施策 |
| 12. 青少年施策 | 25. その他 |
| 13. 男女平等参画施策 | (具体的に) |
| | 26. 特にない |

問5 次の区の施策のうち、あなたがさらに力を入れるべきだと考えるものを、順位をつけて、3つ以内で選び、下の記入欄に番号をご記入ください。

1位

2位

3位

1. 学校教育施策	14. 都市整備施策
2. 生涯学習施策	15. 清掃・リサイクル施策
3. レクリエーション・スポーツ・ 芸術振興施策	16. 環境施策
4. 伝統文化保存施策	17. 住宅・定住施策
5. 地域内外の人との交流推進施策	18. 公園・緑化・景観施策
6. 保健衛生施策	19. 防災施策
7. 子育て支援施策	20. コミュニティ振興施策
8. 高齢者施策	21. NPO・ボランティア振興施策
9. 心身障害者施策	22. 中小企業・商業振興施策
10. ひとり親施策	23. 消費者保護施策
11. 低所得者施策	24. 地域情報化施策
12. 青少年施策	25. その他 (具体的に
13. 男女平等参画施策	26. 特にない

問6 あなたは、区の財政状況に関心がありますか。 1つお選びください。

1. 大いにある	3. あまりない	} 問7へ
2. 少しはある	4. わからない	

(問6で「1」または「2」とお答えの方に向かいます)

→ 問6 - 1 あなたは、区の財政状況について、どのような印象をお持ちですか。 1つお選びください。

1. きわめて厳しい	3. 普通	5. わからない
2. 厳しい	4. まだまだ余裕がある	

問7 区の財政状況については、これまでも「区報ぶんきょう」、「文京の過去・現在・未来」() ホームページ、ケーブルテレビ等でお知らせしていますが、よりわかりやすいものとするためには、どのような方法でお知らせすればよいと、あなたは思いますか。3つ以内でお選びください。

「文京の過去・現在・未来」は、区の財政状況をまとめた冊子です。

1. 類似の他の自治体と比較ができるような表現で説明する
2. 全国共通の方式(総務省方式)によりバランスシートを作成し、公表する
3. 区財政の将来的な見通しについて説明する
4. グラフ、表、イラスト、写真等をさらに活用し、見やすくする
5. 見出し、説明文等の文字の大きさや内容を工夫し、読みやすくする
6. お知らせの回数、時期を見直す
7. その他(具体的に)
8. わからない

問8 区は、これまで、財政運営の見直しに取り組み、歳入に見合った歳出規模という良好な状態を維持しています。今後も、時代の要請に的確に応えつつ、将来世代に対する責任もしっかり果たしていくためには、持続可能な財政体質をつくり上げることが必要です。そこで、今後どのようなことに力を入れていくべきだと、あなたは思いますか。3つ以内でお選びください。

1. 公共施設の利用実態や中長期的な見直しなどを踏まえて、施設の適正配置を進める
2. 職員数の適正化などにより、人件費を抑制する
3. 費用対効果を踏まえて、必要性が低くなった事業を縮小・廃止する
4. 未利用地または低利用区有地の活用方法を検討し、積極的に財産活用する
5. 民間との役割分担を見直し、民間委託などを積極的に活用する
6. 区民やNPO等との協働を推進して、公共サービスの提供を行う
7. 区民の意向を踏まえて、行政サービスの水準を見直す
8. その他(具体的に)
9. わからない

【3 協働・協治】

問9 区では、「協働・協治」()で豊かな地域社会の実現を目指し、区の憲法ともいえる「文の京」自治基本条例を平成17年4月1日より施行しております。あなたは、この条例をご存知ですか。1つお選びください。

「協働・協治」とは、区民、地域活動団体、民間の非営利活動団体(NPO)、事業者、区が対等の関係で協力し、社会資源を有効に活用しながら、地域の課題の解決を図る社会のあり方をいいます。

- | | |
|------------|-------------|
| 1. よく知っている | 3. 聞いたことがある |
| 2. 少し知っている | 4. 知らない |

問10 区では、協働・協治の理念を踏まえ、地域の活力を高めるため、区民や地域活動団体が中心となった「花の五大まつり」や、NPO等と協働した「親子環境教室」、「学校ボランティア」など様々な協働事業を行っていますが、あなたをご存知ですか。1つお選びください。

- | | |
|--------------------|---------|
| 1. 知っているし参加したこともある | 3. 知らない |
| 2. 知っているが参加したことはない | |

問11 あなたが、区と協働して事業を行うとしたら、どのような形での参加を希望されますか。いくつでもお選びください。

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 町会・自治会等の地域活動団体 | 4. 個人的なボランティア |
| 2. ボランティア団体 | 5. その他(具体的に) |
| 3. NPO | 6. 参加したいと思わない |

問12 あなたが、区と協働して事業を行うとしたら、どのような事業に参加したいと思えますか。いくつでもお選びください。

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1. 区のイベント・行事の運営 | 11. まちの清掃・リサイクル |
| 2. 広報(CATV、区報など) | 12. 放置自転車対策 |
| 3. 防犯・地域安全活動 | 13. 生涯学習(講座・教室の開催など) |
| 4. 防災(災害発生時の支援ボランティアなど) | 14. 文化・芸術活動支援 |
| 5. 地域おこし(商店街、地域産業の活性化など) | 15. スポーツ活動支援 |
| 6. 青少年育成 | 16. 外国人との交流・支援 |
| 7. 子育て支援 | 17. 公共施設の管理・運営 |
| 8. 高齢者・障害者の福祉 | 18. その他 |
| 9. 健康づくり | (具体的に) |
| 10. 公園管理・緑化 | 19. 特にない |

【 4 安全・安心】

問 13 区では、区民、事業者及び区が、「文の京」自治基本条例の協働・協治の考え方に基づき、災害に強いまちづくりを推進するため、「文京区防災対策条例」を平成 18 年 4 月 1 日より施行しております。あなたは、この条例をご存知ですか。1つお選びください。

- | | |
|------------|-------------|
| 1. よく知っている | 3. 聞いたことがある |
| 2. 少し知っている | 4. 知らない |

問 14 この条例では、区民の責務として、災害に備える手段を講ずるよう努めなければならないと規定していますが、あなたは、災害に備えて、どのような対策をとっていますか。次の中からいくつでもお選びください。

- | | |
|------------------------------|--------------------|
| 1. 食料・飲料水の確保 | 6. ガラスの飛散防止 |
| 2. 消火器・救急セットなどの用意 | 7. 建物の耐震性および耐火性の確保 |
| 3. ラジオ、懐中電灯などの
非常持ち出し品の用意 | 8. 避難所等への避難方法の確認 |
| 4. 貴重品を持ち出す準備 | 9. 家族との連絡方法の確認 |
| 5. 家具等の転倒防止 | 10. その他（具体的に |
| | 11. 特に何もしていない |

問 15 区では、子どもの安全を図るため、区内の幼稚園、小学校、中学校等（私立学校も含む）に通報している「子どもの安全にかかわる事件等の情報」を携帯電話やパソコンに電子メールで配信する「文の京安心メール」を平成 17 年 9 月 1 日より実施しております。あなたは、この「文の京安心メール」をご存知ですか。1つお選びください。

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1. 知っており、登録している | 3. 聞いたことがある |
| 2. 知っているが、登録はしていない | 4. 知らない |

問 16 あなたはこれまでに、地域の子もたちとどのような関わりを持ったことがありますか。いくつでもお選びください。

- | |
|--|
| 1. 地域や学校の行事に、役員や運営スタッフとして参加・協力したことがある |
| 2. いたずら・喫煙・深夜徘徊など、問題と思われる行動に対して注意したことがある |
| 3. 知らない子どもにも「おはよう」「こんにちは」などのあいさつや声かけをしたことがある |
| 4. 近所の知り合いの子どもなどに限って、関わりを持ったことがある |
| 5. 関わりを持ちたいと思うが、その機会がない |
| 6. 子どもに声をかけたり注意したりすると、親から文句などを言われるので、関わりを持ちづらい |
| 7. 子どもの育成は家庭の問題なので、あえて関わりを持ったことがない |
| 8. その他（具体的に |

【 5 町会・自治会】

問 17 あなたの世帯は、町会や自治会に加入していますか。

1 . 加入している

2 . 加入していない

問 18 あなたは、今後、町会や自治会活動に参加したいと思いますか。 1つお選びください。

1 . 参加したい

2 . 参加したくない

3 . どちらともいえない

問 19 町会・自治会に期待する内容はどのようなことですか。 いくつでもお選びください。

1 . 防災・防犯活動

2 . 交通事故防止活動

3 . 清掃・リサイクル活動事業などに対する環境活動

4 . お祭などのイベント

5 . 地域親睦・交流活動

6 . 高齢者・障害者・児童に対する福祉活動

7 . 行政との連絡事項

8 . 日本赤十字などの募金協力活動

9 . その他（具体的に

10 . 特にない

【 6 子育て支援】

問 20 最近、生まれてくる子どもの数が減っています。それはなぜだと思いますか。3つ以内でお選びください。

1. 経済的負担が大きいから
2. 自分たちの生活を大切にしたい人が増えたから
3. 将来の社会状況に不安があるから
4. 結婚しない人が増えたから
5. 結婚年齢が高まったから
6. 出産・子育てが女性の自立の障害になっているから
7. 育児の心理的・肉体的負担が大きいから
8. 保育施設・育児休業制度など社会的支援が不十分だから
9. 住宅事情がよくないから
10. 少ない人数の子どもに手をかけて育てたい人が増えたから
11. 男性の家事・育児への協力が得られないから
12. その他（具体的に

問 21 少子化への対応として、区はどのような施策をすべきでしょうか。3つ以内でお選びください。

1. 保育園・幼稚園等の施設整備
2. 安心して育てるための環境の整備（道路の段差解消、公園整備など）
3. 子どもを育てる親が情報交換できる場の整備
4. 子育て情報の提供や各種相談サービスの充実
5. 保健サービスセンター等での乳幼児等の健康の維持及び増進
6. 経済的な支援の充実
7. 就労と育児の両立支援の推進（職場での育児休暇制度の充実、一時保育等）
8. 児童虐待防止対策の充実
9. 防犯等の子どもの安全対策の充実
10. 非行等の防止対策の充実
11. 地域での子育て支援体制の整備
12. その他（具体的に

問 22 あなたは、下の表に記載されている子育て支援サービスについてお伺いします。

- (1) これらのサービスを知っていますか。(はいいくつでも)
 (2) これらのサービスを利用したことはありますか。(はいいくつでも)
 (3) これらのサービスを今後利用したいと思いませんか。(はいいくつでも)

項 目	(1) 知っている サービス	(2) 利用した ことがある サービス	(3) 利用したい サービス
(記入例) 両親学級、母親学級	①	①	①
ア．両親学級、母親学級	1	1	1
イ．保健サービスセンターの情報・相談サービス	2	2	2
ウ．家庭教育学級に関する学級・講座	3	3	3
エ．教育センター、教育相談室	4	4	4
オ．保育園や幼稚園の園庭等の開放	5	5	5
カ．身近な地域における 親子の交流の場	カ - 児童館	6	6
	カ - 子育てひろば	7	7
	カ - ぴよぴよひろば	8	8
キ．ファミリーサポートセンター	9	9	9
ク．子ども家庭支援センター (総合相談、子育て支援講座、ぴよぴよひろば)	10	10	10
ケ．内職あっせんサービス	11	11	11
コ．一時保育サービス(キッズルーム等)	12	12	12
サ．区内商店で使える子育て支援券	13		13
シ．子育てを気軽に相談できる地域の経験者の紹介			14
ス．訪問型一時保育サービス			15
セ．産後の育児支援ヘルパーサービス			16
ソ．特になし	14	13	17

「シ」、「ス」及び「セ」については、文京区では現在実施していない事業です。「サ」は9月実施事業です。

【7 消費者相談】

問 23 あなたは、最近新聞を賑わしている不当請求や学生に多いマルチ商法など消費者被害やトラブルが増加傾向にあることを知っていますか。1つお選びください。

1．自分が被害にあったことがある	3．知らない
2．自分が被害にあったことはないが知っている	

問 24 あなたは、消費生活センターに消費者救済のための消費者相談コーナーがあることを知っていますか。1つお選びください。

1．相談したことがある	3．知らない
2．相談したことはないが、知っている	

【 8 地域環境】

問 25 あなたが最も関心のある地域生活での環境に関する事項は次のうちどれですか。3つ以内でお選びください。

1. 大気、水質、土壌、騒音、振動、悪臭
2. 緑の育成、保護
3. 化学物質、環境ホルモン
4. 動物（ペットを含む）・鳥・虫などによる衛生被害
5. 電気、ガス等の節約
6. 自動車排ガス規制
7. グリーン購入（環境への影響ができるだけ小さいものを優先して購入する）
8. 生ごみ
9. 路上（歩行）喫煙
10. ごみ（たばこ含む）のポイ捨て
11. その他（具体的に
12. 特にない

問 26 区では、平成 12 年 3 月に廃棄物処理法に定める「モノ・プラン 2000 文京（一般廃棄物処理基本計画）」を策定しました。このモノ・プランを平成 18 年 4 月に改定し、3 R（ ）の推進を図り、「モノ配慮社会」の実現を目指します。

あなたは、ごみ減量の取組みについて、区はどのようなことを重点的に行うべきとお考えですか。3つ以内でお選びください。

3 Rとはリデュース（発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再生利用）をいいます。

1. マイバッグ持参やノーレジ袋運動を展開する
2. スーパーマーケットや商店街等へ簡易包装を奨励する
3. 割り箸の使用を自粛するよう啓発する
4. 生ごみリサイクルの取組みを奨励する
5. フリーマーケットの開催を増やす
6. リサイクルプラザを充実し、不用品の再活用を図る
7. リサイクル活動団体を支援する
8. 集団回収を促進する
9. 集積所で分別回収する資源の種類を増やす
10. 家庭ごみ有料化の検討を進める
11. パンフレットの配布等により、ごみ減量について積極的にPRを行う
12. その他（具体的に

【 9 交通安全】

問 27 文京区の交通事故の死傷者は減少傾向にありますが、高齢者の交通事故は増加しています。平成13年には交通事故全体の7.5%でしたが、平成17年には10.4%を占めています。あなたは、高齢者の交通事故を防止するためにはどうすればよいと思いますか。3つ以内でお選びください。

1. 日頃から高齢者を含めて、交通事故防止について話し合う
2. 交通相談員などが高齢者家庭を訪問して指導する
3. 高齢者クラブなど、地域での交通安全教育を充実する
4. 高齢者の特性を運転者などに理解してもらう
5. 高齢者の体験式交通安全教育を充実する
6. 歩道や街灯などの交通安全施設を整備する
7. 高齢者の交通事故防止を普及・啓発する
8. 外出時に目立つ服装や反射材などを身につける
9. その他（具体的に

問 28 平成17年の文京区の交通事故死傷者の21%は自転車乗車中の事故でした。また事故にいたらなくても危険な運転が多くみられます。あなたは、自転車の利用者についてどのような点に問題があると思いますか。3つ以内でお選びください。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 歩道上での過剰なスピード走行 | 6. 二人乗り運転 |
| 2. 無灯火走行 | 7. 交通法規などの知識の不足 |
| 3. 走行中の携帯電話 | 8. 損害保険に未加入 |
| 4. 交差点での一時停止や信号の無視 | 9. 自転車の整備不良 |
| 5. 雨の日の傘差し運転 | 10. その他（具体的に |

【10 生涯学習】

問 29 区では、「生涯学習都市・文京」を目指し、地域資産である大学等の教育機関、文化施設等との緊密な連携を図ることで、最先端の生涯学習、スポーツ、文化・芸術を区民との協働・協治により展開するため平成 18 年 4 月よりアカデミー構想が始動しました。地域資産である大学が文京区には、現在、短期大学を含めて 16 あります。区ではこれらの大学と相互協力協定の締結を進めておりますが、あなたは、この相互協力協定に何を望みますか。3つ以内でお選びください。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 大学の図書館の地域開放 | 6. 区独自の資格制度の創設 |
| 2. 大学の運動施設の地域開放 | 7. 社会人大学院の区民優先枠の創設 |
| 3. 大学の教室等の施設の地域解放 | 8. その他 |
| 4. 大学の公開講座の優先参加 | (具体的に |
| 5. 区民対象講座の開設 | 9. 特にない |

問 30 アカデミー構想では、大学、企業とも連携し、多様な学習講座を拡大していきます。そこで、あなたは、どのような講座があれば参加したいですか。3つ以内でお選びください。

- | |
|-----------------------------|
| 1. 趣味に関するもの(茶道、書道など) |
| 2. 娯楽に関するもの(囲碁、将棋など) |
| 3. 教養に関するもの(語学、歴史、文学など) |
| 4. パソコンに関するもの |
| 5. 芸術・文化に関するもの(絵画・音楽など) |
| 6. 職業上必要な知識・技能に関するもの(資格取得) |
| 7. ボランティア活動に必要な知識・技能等に関するもの |
| 8. スポーツに関するもの(テニス、ヨガなど) |
| 9. その他(具体的に |
| 10. 特にない |

問 31 本年度から試行的に、インターネットを利用し、区民大学講座等を配信いたします。自宅のパソコンからの受講が可能となりますが、あなたは受講したいですか。1つお選びください。

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 積極的に受講したい | 4. 講座は生で受講したい |
| 2. 機会があれば受講したい | 5. インターネットは利用しない |
| 3. 受講する必要性はない | |

【11 電子申請】

問 32 区では、現在、インターネットによる区の施設予約システムやIT図書館のサービス()
を行っております。あなたはどのようなサービスを利用していますか。いくつでもお選びく
ださい。

IT図書館とは、インターネットにより蔵書の検索や蔵書の予約ができるシステムをいいます。

1. 現在もインターネットによる区の施設予約システムやIT図書館を利用している
2. 国や都への手続きや税申告にインターネットを利用している
3. 主にクレジットカード決済による物品等の購入にインターネットを利用している
4. 主にクレジットカード以外の決済方法による物品等の購入にインターネットを利用している
5. 銀行取引にインターネットを利用している
6. その他(具体的に
7. インターネットは利用しているが、1～5のようなサービスは利用していない
8. インターネットは利用していない
9. わからない

問 33 あなたが、電子化により実現するとよいと思う区のサービスは何ですか。いくつでもお
選びください。

1. 区民参画を図るため、区のホームページで区政について区民が自由に意見交換をできる
ようにする
2. 住民税や健康保険料をはじめとした区への各種の納付をインターネットでできるようにする
3. 公共施設で無線LAN等を通じて、手軽にインターネットを利用できるようにする
4. 区の行政資料の検索や閲覧(情報公開)をインターネットでできるようにする
5. 防災・防犯サービスにIT(情報技術)を活用する
6. 商店街振興や地域振興、観光振興にITを活用する
7. その他(具体的に
8. 特にない

【12 議会】

問 34 あなたは、区議会の活動を、どのようにしてお知りになられていますか。いくつでもお
選びください。

1. ぶんきょう区議会だより
2. 区議会のホームページ
3. 本会議・委員会の傍聴
4. 区報ぶんきょう
5. CATV文京区民チャンネル
6. その他(具体的に

問 35 今、地方議会の活性化が注目されていますが、区議会の役割として最も期待することはどれですか。1つお選びください。

- 1. 執行機関（区長）に対する監視機能の充実強化
- 2. 議員提出議案など政策形成機能の強化
- 3. 住民との直接対話による意思疎通の充実
- 4. 公聴会、参考人制度の活用
- 5. その他（具体的に

問 36 区議会のホームページで関心があるものはどれですか。いくつでもお選びください。

- 1. 区議会のしくみ
- 2. 会議のあらまし
- 3. 区議会から（傍聴、請願など）のお知らせ
- 4. 区議会の日程
- 5. 文京区議会議員名簿
- 6. 区議会会議録
- 7. 可決された議案
- 8. 意見書・要請書等
- 9. 請願の審査結果
- 10. 区議会だより
- 11. 区議会概要
- 12. 区議会関係例規集
- 13. くぎかいのおはなし（小学生向けページ）
- 14. 区議会のホームページを見たことがない

【13 広報・広聴】

問 37 あなたは、過去2年くらいの間に区役所本庁の窓口を利用したことがありますか。

1. ある

2. ない → 問 38 へ

（問37で「1」とお答えの方に向かいます）

問 37 - 1 その時の職員の対応はいかがでしたか。1つお選びください。

- 1. 好感がもてた
- 2. どちらかといえば好感がもてた
- 3. どちらかといえば好感がもてなかった
- 4. 好感がもてなかった

問 38 あなたは、誰もが気持ちよく利用できる区役所にするためには、職員の接遇で何が大切だと思いますか。3つ以内でお選びください。

- 1. 親しみやすさ
- 2. 服装、身だしなみ
- 3. 言葉使い
- 4. あいさつ
- 5. 説明のわかりやすさ
- 6. 迅速な事務処理
- 7. たらい回しにしない
- 8. その他（具体的に

【フェイスシート】 最後に、あなたとご家族のことについてお尋ねします。

F 1 あなたの性別は。

1. 男	2. 女
------	------

F 2 あなたの年齢は、満何歳ですか。

1. 20～29 歳	3. 40～49 歳	5. 60～64 歳
2. 30～39 歳	4. 50～59 歳	6. 65 歳以上

F 3 あなたのご職業は次のどれですか。 1つお選びください。

1. 自営業・事業主	5. 主婦
2. 管理職・自由業	6. 学生
3. 事務職・技術職	7. 無職
4. 労務職・サービス業	8. その他（具体的に

F 4 一緒に住んでいるご家族は、あなたを含めて何人ですか。

1. 1人	3. 3人	5. 5人
2. 2人	4. 4人	6. 6人以上

F 5 あなたの現在のお住まいは、次のどれにあたりますか。

1. 一戸建て持ち家	4. 賃貸マンション、アパート
2. 一戸建て借家	5. 社宅、寮など
3. 分譲マンション	6. その他（具体的に

F 6 あなたご自身は、次のどれにあたりますか。

独身	1. 20～39 歳 2. 40～64 歳 3. 65 歳以上
子どもがいない夫婦	4. 本人 20～39 歳 5. 本人 40～64 歳 6. 本人 65 歳以上
子どもがいる夫婦	7. 一番上の子どもが小学校入学前 8. 一番上の子どもが小・中学生 9. 一番上の子どもが高校・大学生 10. 本人が 64 歳以下で、一番上の子どもが学校卒業 11. 本人が 65 歳以上で、一番上の子どもが学校卒業

第 20 回 文京区政に関する世論調査

発	行	平成 18 年 12 月発行 文京区企画政策部広報課	印刷物番号 C0206001
		文京区春日 1 - 1 6 - 2 1 電話 0 3 - 5 8 0 3 - 1 1 2 9 (直通)	
実	施	株式会社エスピー研 調査事業部 千代田区飯田橋 3 - 1 1 - 2 0 電話 0 3 - 3 2 3 9 - 0 0 7 1 (代表)	
